

✓

(第百六十三、四條) 第二編 第三章 第六節 往來通信ヲ妨害スル罪 一九二
要セ、ス、單ニ故意ノミヲ以テ犯ス者ト雖モ、仍ホ之ヲ罰ス

前節ノ罪ハ無意犯ナルヲ以テ假令官許ヲ得ルヲ遺忘シタル者ノ如キモ之ヲ罰ス本條ノ罪ハ有意犯ナルヲ以テ故意惡意アルニ非サルハ之ヲ罰セス而ルニ立法者ハ無意ノ所爲ハ之ヲ罰セサルノ意ヲ明示セサルカ故ニ或ハ前節ト混シテ人ヲシテ無意ノ所爲モ尙ホ罰スルヲナキヤヲ疑ハシム是レ本條ノ欠點ナリ草案ニハ故意ヲ以テ云々ト明記シタルヲ以テ其區別實ニ明了ナリキ審査修正ノ際之ヲ削除スルニ至リタルハ惜ム可キノ限ナリ

第百六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ
第百六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラザル時ハ一等ヲ減ス

矢張り
七

右二條ハ郵便電信ヲ妨害シタル者ヲ罰スルノ條文ナリ第百六十三條ノ偽計又ハ威力ヲ以テ云々トハ道路破壞セリ橋梁流失セリ通行スルヲ能ハス杯ト詐僞ノ言語ヲ吐キテ以テ郵便配夫ヲシテ迂路ヲ回ラシメ或ハ暴行脅迫ヲ以テ郵便配夫ノ通行ヲ妨クテ以テ郵便事務ヲシテ遅延滯滞セシメタル者ヲ謂フ而シテ第百六十三條ニハ第百六十四條ノ如ク器械ヲ損壞シタル者ヲ罰スルノ規定ナシ故ニ郵便馬車ヲ顛覆シ或ハ郵便函ヲ毀壞シテ以テ郵便ノ妨害ヲ爲シタル者ノ如キハ明文ナキニ因リ之ヲ罰スルヲ得ス又第百六十四條ハ電信器具ヲ破壞シテ以テ電信ヲ妨害シタル者ノミヲ規定シテ第百六十三條ノ如ク偽計又ハ威力ヲ以テ電信配夫ノ通行ヲ妨害シタル者ヲ規定セス故ニ兩條孰レモ欠點アリト謂ハサルヘカラス若シ兩條相合セハ則チ或ハ完全ナルヲ得ンカ

(第百六十三、四條) 第二編 第三章 第六節 往來通信ヲ妨害スル罪 一九三

第百六十四條第二項ハ第一項ノ未遂犯ノ如クニ見ユ何トナレハ第一項ハ電信ヲ不通ニ致シタル者ヲ罰シ第二項ハ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減スト云フヲ以テナリ然レモ是レ未遂犯ニ非ス若シ未遂犯ナリトセハ本條ニ特記スルヲ要セス未遂犯ノ本刑ヨリ減輕スルハ總則ニ因テ既ニ明ナリ抑第百六十四條ノ罪ヲ犯ス者ハ必ス不通ニ致スノ目的ヲ有スル者ノミニ限ラスシテ不通ニ致スノ目的ナクシテ單ニ器械柱木等ヲ損壞スル者アリ然ルニ之ヲ不通ニ致スノ目的ヲ以テ遂ニ不通ニ至ラシメタル者ト同一ニ罰スルハ酷ナリトス第二項ハ蓋シ此場合ヲ指スナリ是レ之ヲ特記スルニ至リタル所以ナリ

第百六十五條 漁車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

本條ノ罪ヲ成スルニ必要ナル意思如何

本條ハ漁車ノ往來ヲ妨害シタル者ヲ罰スルノ規定ナリ本條ニ往來ヲ妨害スル爲メ云々ト云ヘリ次條モ亦本條ト同一ノ行文ニ出テタレハ

本條及ヒ次條ノ罪ヲ成スニハ必ス往來ヲ妨害スルハ惡意ヲ要シテ故意ノミニテハ其罪ヲ成サス是レ大ニ兩條ノ非難スヘキ點ナリトス第百六十二條ノ如キ單ニ道路橋梁等ヲ損壞シテ以テ往來ヲ妨害シタル者スラ尙ホ且故意ノミニテ足レリ本條及ヒ次條ノ如キ漁車又ハ漁船ノ往來ヲ妨害スルハ其危險ノ最モ鉅大ナル者ナリ而ルニ之ヲ制限シテ必ス惡意アルヲ要ストナセシハ權衡其宜キヲ得サルハ勿論此危險ヲ刑法ノ制裁以外ニ存立セシメタルハ余大ニ立法者ノ粗漏ヲ責メサルヲ得サルナリ曾テ之ヲ聞ク一漁夫アリ海上ノ浮標ヲ破壞シタリ之ヲ糾問スレハ則チ其破壞シタルハ船舶ノ往來ヲ妨害スルノ意思ニ非スシテ其漁業ノ不便ヲ去ラシカ爲メナリ此ノ如キ者ハ素ト船舶ノ往來ヲ妨害スルノ目的ニ非サルヲ以テ次條ヲ適用スルヲ得ス然レモ亦之ヲ無罪トナスバ安カラサル所アリトテ遂ニ之ヲ他人ノ器物ヲ毀

棄シタル者トナシテ處罰セリト是レ次條ノ規定ノ不完全ナルヨリシ
 テ已ムヲ得ス右ノ如キ適用ヲ爲シタル者ナルヘケンハ嚴ニ責ムヘカ
 ラサル者アリト雖モ然レモ方角違ノ適用ニシテ立法者ハ浮標ヲ以テ
 第四百二十一條ノ人ノ器物中ニ包含セシメサルヲハ容易ニ之ヲ知ル
 ヲ得ヘシ又他人ノ器物毀棄罪ヲ以テ之ヲ罰シテ船舶ノ往來ノ安寧ヲ
 維持スト謂フヲ得ヘキ歟本條ノ場合ニ於テモ亦右ニ擧クタル如キ
 類似ノ例ノ生セサルヲハ保シ難カルヘシ故ニ本條及ヒ次條ノ往來ヲ
 妨害スル爲メ云々ノ語ハ徹頭徹尾不都合ノ語ト謂ハサル可カラス若
 シ之ヲ削除セハ則チ其當ヲ得ン
 本條尙ホ一ノ欠點アリ即チ第六十六條ニハ詐僞ハ標識ヲ點示シタ
 ル者ヲ規定スレモ本條ニ之ヲ規定セサルト是ナリ本條ニハ斯クノ如
 キ場合ヲ生セスト爲ス乎之ヲ規定スルハ不必要ト爲ス乎決シテ否ラ

サルヘシ是レ一ノ欠點ニシテ規定ヲ要スル者ナリ人或ハ曰ハソ詐僞
 ノ標識ヲ點示スルノ所爲ハ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ノ語中ニ
 包含セリト是レ不妥當ノ解釋ナルヘシ蓋シ危險ナル障礙トハ大木大
 石等ヲ横ヘタルカ如キ有形的ノ障礙ヲ指シテ詐僞ノ標識ヲ點示スル
 カ如キ無形的ノ障礙ハ之ヲ想像セサルヘケンハナリ

第六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ
 保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同

本條ハ前條ト同シク惡意ヲ以テスルニ非ザレハ犯シ能ハサルトハ前
 條ニ於テ之ヲ説明シタリ且本條モ亦一ノ欠點アリ即チ前條ノ如キ危
 險ナル障礙ヲ爲シタル者ヲ罰スルノ規定ナキト是ナリ渺茫タル海洋
 中ニ危險ナル障礙ヲ爲スカ如キハ決シテ有ルヘカラサルカ如シト雖
 モ然レモ人事ノ千態萬狀ナル豈此事ナキヲ保ス可ケンヤ豫メ規定ス

ルノ必要アリトス若シ前條ト相補足スルヲ得ハ前條及ヒ本條ハ互ニ其完キヲ得ノ歟

本條ニ航海ノ安寧云々トアレハ河川江湖ニ於テ妨害ヲナシタル時ハ之ヲ如何ニスヘキヤ本條ヲ適用スルヲ得ス故ニ航海ト云ヒシハ狹隘ニ失ス航行ト改ムレハ則チ可ナラン

第百六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇入職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ
本條ハ説明ヲ要セス

第百六十八條 第百六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スルハ是レ實ニ至當ノ事ナリ然レモ之ヲ以テ

毆打罪ト爲シタルニ非ス又毆打罪ト數罪俱發シタル者ト爲シタルニ非ス唯茲ニ刑ヲ定ムルノ煩ヲ避ケテ毆打創傷ノ各本條ノ刑ヲ適用ス

ト謂フニ過キス若シ夫レ初メヨリ毆打スルノ意思ヲ以テ第百六十二條ノ罪ヲ犯ス時ハ此所爲タル全ク毆打ノ手段タル者ナレハ純然タル毆打罪ニシテ本條ノ罪ニ非ス又數罪俱發ニ非サルナリ

第百六十九條 第百六十五條第百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス

本條ハ之ヲ第四百十五條ト對照シテ生スル所ノ一疑問アリ曰ク第四百十五條ハ衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ノ乘載シタル船舶ヲ覆没シタル罪ヲ規定シ而シテ本條ニモ亦船舶覆没ノ罪ヲ規定セリ今第百六十六條ハ所爲即チ燈臺浮標等ヲ損壞シテ終ニ船舶ヲ覆没シタル者アラハ之ヲ本條ニ問フヲ得ヘキカ如ク或ハ第四百十五條ニモ亦問フヲ得ヘキニ似タリ知ラス孰レノ條ヲ適用スヘキカ此問題ハ第四百十五條ノ下ニ於テ解説スヘシ

第百七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ送ケサル者ハ未送犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

人ノ住所ヲ侵スノ罪ハ何ノ爲メニ之ヲ設ケタルヤ其性質目的ヲ知ルニ要ス抑本節ヲ設ケタルノ理由ニアリハ則チ人ノ自由ヲ保護スルニ在リ夫レ家宅ハ吾人ノ壘壁ニシテ恰モ國家ノ城郭ニ於ケルカ如シ故ナク之ニ入り來ル者ノ如キハ吾人ノ自由ヲ侵害スル者ナリ例ヘハ吾人ヲ謀殺セントシテ入り來ル者アリ之ヲ糾問セハ則チ庭園樹木ノ配置ヲ見シカ爲メナリト或ハ足下ニ面會センカ爲メナリト或ハ足下ヲ謀殺センカ爲メナリト云フ時ニ於テ之ヲ罰セザラシムル歟吾人ノ居住ノ安寧起臥ノ自由得テ望ム可カラサルナリ二ハ則チ人ノ所有權ヲ保護スルニ在リ夫レ強竊盜ヲ爲サントシテ吾人ノ住所ニ入り來ル者

住所侵入
罪ヲ設ケ
タル理由

本節ハ憲
法ニ於テ
家宅ノ不
可侵ナリ
テ裁ナリ

ノ如キハ強竊盜ノ未遂犯ヲ以テ之ヲ論スルヲ得ヘキカ如シト雖モ然レモ其未タ着手ニ至ラスシテ豫備ニ止マル場合ノ如キハ之ヲ罰スルヲ得ス何トナシハ豫備ハ刑法ニ於テ格段ノ場合ヲ除ク外之ヲ罰セザルハナリ斯クノ如クナル時ハ吾人ノ所有權ノ安全得テ望ム可クシテ是レ我立法者ハ本節ヲ設ケテ此等ノ危險ヲ豫防シ以テ吾人ノ自由吾人ノ所有權ヲ保護シタル所以ナリ

本節ヲ設ケタルノ理由ハ以上ノ如クナレバ人或ハ曰ハハ人ノ住所ハ貴重ニシテ憲法ニ掲シ可キモノナリ我憲法亦之ヲ明掲セリ(憲法第二十五條)而シテ憲法ニ制裁ナシ本節ハ之ヲ制裁タルモノナリ故ニ本節ハ罪ハ憲法上家宅不可侵ノ原則ヨリ出テタル者ニシテ憲法ハ制裁ナリ若シ否ラストセハ憲法ハ徒法トナルト此説誤リ何トナシハ憲法ハ官憲ノ權限ヲ定ムル者ニシテ官ヨリ人民ニ對スル場合ヲ指スモノ

ナリ本節ノ罪ハ憲法ノ制裁ナリト謂フ時ハ人民ヨリ人民ニ對スル所
爲ニ付テハ其制裁ナキニ至ル即チ憲法ハ人民ヨリ人民ニ對スル所爲
ヲ規定シタルニ非サレハ本節ハ人民ヨリ人民ニ對スル所爲ノ制裁ト
爲ス可チ得ザレハナリ然ルニ本節規定スル所ヲ觀ル時ハ人民ヨリ人
民ニ對スル所爲ノ制裁ナルヲ知ルヲ得ヘキナリ但シ官吏ノ人民ニ
對スル所爲ニ就テモ本節ノ罪ヲ成スト無キニ非サル可シト雖モ是レ
憲法ノ制裁タルノ故ニ然ルニ非スシテ人民ヨリ人民ニ對スル場合ト
一般右ニ述ヘタル理由ニ基クモノナリ故ニ論者ノ説ハ誤謬ニシテ本
節ノ罪ハ憲法上ノ家宅不可侵ノ原則ヨリ出テタル者ニ非サルナリ佛
國刑法ハ官吏タル者カ人民ノ住所ニ云々(佛國刑法第百八十四條)下規
定セルヲ以テ是レ家宅不可侵ノ原則ヨリ出テタルナリ

第七十一條 盜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建

造物ニ入りタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

- 一 門戶塙壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時
- 二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時
- 三 暴行ヲ爲シテ入りタル時
- 四 二人以上ニテ入りタル時

本條ハ晝間人ノ住居ヲ侵ス者ヲ罰スルノ條ニシテ次條ハ夜間人ノ住
居ヲ侵ス者ヲ罰スルノ條ナリ茲ニ晝間ト云ヒ夜間ト云フハ何レノ時
ヨリ何レノ時迄ナルカ法律ニ於テ何日ヨリ何日迄ハ何時ヨリ何時迄
ヲ以テ晝ト爲シ又ハ夜ト爲スト規定スルヲアリト雖モ本條及ヒ次條
ノ晝間又ハ夜間トハ其時間ヲ限ラスシテ惟日出ヨリ日沒迄ヲ晝日沒
ヨリ日出迄ヲ夜ト謂フニ過キス平易ニ之ヲ言ヘハ日ノ有ル間ハ晝ニ
シテ日ノ沒シタル後ハ夜ナリ而シテ其晝間ナルヤ否ヤハ裁判官ハ判
定ニ任ズ元來犯罪ノ輕重ハ事實ヨリ生ス然ラハ則チ犯罪事實ヲ構成

本條ノ故
ナクトハ
如何ニ解
釋スルカ

スル晝間夜間ハ之ヲ事實裁判官ノ認定ニ委セサルヘカラサルナリ
本條ノ罪ヲ構成スルニハ故ナク人ノ住居ニ入りタルヲ要ス若シ夫
レ入ルヘキ正當ノ事由アル時ハ本條ノ罪トナラス故ナクトハ佛文草
案ニ所謂正當ノ理由ナキモノニシテ即チ人ニ對シテ辯解シ得ヘキ目
的ナキ者ヲ謂フ而シテ其理由ノ有無ハ被告人ノ言ヲ設ケテ之ヲ辯解
スルニ拘ハラス裁判官ハ全ク其心證ニ任シテ若シ理由ナキ者ト認定
セハ本條ヲ適用シ否ラサル時ハ無罪ト爲サル可カラス
故ナクトハ正面ヨリ之ヲ見ル時ハ甚タ嚴格ニ解釋セサル可カラサル
カ如ク隨ヒテ苟モ人ニ打明ク難キコナル時ハ皆正當ノ理由ナキ者ニ
シテ本條ノ故ナクノ中ニ包含セラル、カ如クナレハ然レハ斯クノ如
ク嚴格ニ解釋スヘキ者ニ非スシテ單ニ危險ヲ含ム場合ノミニ限ルナ
リ故ニ公然明言スルコト能ハサルノ理由ト雖モ危險ヲ含ムコト無キニ於

テハ本條ヲ適用スルコト得ス元來本節ヲ設ケタルハ旨意ハ犯罪ハ危
險ヲ豫防スルニ出テタル者ナレハ本條ノ故ナクハ文辭亦制限シテ之
ヲ解釋セサルヘカラス乃チ犯罪ハ危險ナキ時ハ本條ヲ適用スヘカラ
スポアンナード氏一適例ヲ示セリ曰ク一兵士出軍ニ臨ミ其情婦ノ或
ル家ニ下婢トナリ居ルヲ以テ其家ニ忍ヒ入り離別ヲ告ケテ永ク愛情
ヲ割カサルヲ得サルヲ談リ合フノ際捕縛セラレタリ此者ニ本條ヲ適
用スルヲ得ルヤ本條ノ正面ヨリ見ル時ハ故ナク人ノ住所ニ入りタル
者ノ如シ又軍刀ヲモ携帯セシ者ナレハ犯罪ノ危險アルカ如シ然レハ
此等ハ本條ヲ適用スルコト得ス何トナレハ犯罪ノ意思ナキヲ以テ毫
モ危險ヲ與フルコトナクハナリト是レ實ニ至當ノ說ナリ
以上ノ理由ニ因リ本條ノ故ナクトハ寬ニ之ヲ解釋シテ若シ其入りタ
ル理由ハ危險ナキヲ證明セハ無罪ト爲サル可カラス故ニ夫ノ逮捕

(第七十一條) 第二編 第三章 第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪 二〇五

危險ナキ
證明セザル
他人ノ住所
ニ侵入スル
之ノ罪トス

官吏カ人ヲ逮捕スルニ其手續ヲ盡サ、レハ人ノ家宅ニ侵入スルヲ得サルハ刑事訴訟法ノ規定スル所ナリト雖モ然レモ其規則ヲ遵守セサルカ不規則ノ令狀ヲ以テ人ノ家宅ニ侵入シタルハトテ本條ノ罪ヲ成スニ非ス惟官吏懲戒令ニ依リテ處分セラル、ノミ是レ職務ヲ盡スノ意思アリテ犯罪ノ意思ナク隨ヒテ人ニ危險ヲ與フルコトナクレハナリ

「人ノ住居シタル邸宅」トハ人ノ住居ニ供セラレタル邸宅ト謂フニシテ其住居ノ人ハ現ニ他出シテ無人ナル時ト雖モ尙ホ之ヲ包含ス建造物トハ寺院、病院、學校、博物館等ヲ謂フ者ニシテ此等ハ圖書器械財寶等ヲ藏スル者ナレハ必ス看守人アル者ナリ若シ看守人ナキ時ハ故ナク之ニ入ルモ本條ノ罪ヲ成サス是レ看守人ナキ者ノ如キハ器械モ財寶モナクシテ之ニ入ルモ危險ナキヲ以テナリ又全ク人ノ住居セサル家

兇器ノ種

ニ入ルモ本條ノ問フ所ニ非ス何トナレハ人モナク財物モナクレハ更ニ危害ヲ與フルコトナクレハナリ已ニ述ヘタルカ如ク本條ハ他ノ犯罪ノ危害ヲ豫防セントシテ設ケタル者ナレハ若シ人ノ看守セサル建造物又ハ全ク人ノ住居セサル家屋ノ如キ之ニ入ルモ更ニ危害ヲキ者ハ本條ヲ適用スルノ限リニ在ラサルナリ

第二項ノ「踰越」トハ乘リ越スノ意味ナリ故ニ牆壁ノ土臺ノ礎底ヲ鑿掘シ此ヨリ侵入シタルカ如キ犬又ハ猫ノ通路ノ穴ヨリ侵入シタルカ如キハ踰越中ニ包含セシムルヲ得ス或ハ強イテ外部ヨリ内部ニ侵入シタル場合ハ凡テ之ニ包含スト解スル者アレモ本條ハ彼第三百六十八條ニ於ケルト同シク例示ノ規定ニ非ス故ニ嚴格ニ之ヲ解セサルヘカラサルナリ尙ホ第三百六十八條ニ至リテ詳解スヘシ

「兇器」ニ二種アリ曰ク性質ニ因ル兇器曰ク用方ニ因ル兇器是ナリ性質

ニ因ル兇器トハ銃砲刀劍ノ類ニシテ物ノ性質上、人ヲ害シ又ハ自己ヲ守ルノ器具ニ作り出サシタル者ヲ云ヒ、用方ニ因ル兇器トハ出刃庖丁、小刀ノ類ニシテ其物ノ性質ハ人ヲ害シ又ハ自己ヲ守ルノ器具タラサルモ其用方ニ因リテ兇器トナル者ナリ斯ク兇器ヲ二種ニ區別スルノ必要如何個ハ第三百七十條ニ至リテ詳述スヘシ

第七十二條 夜間故ナク人ノ住所シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ一月以上一年以上以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ前條ニ記載シタル加重スヘキ所爲アル時ハ一等ヲ加フ

本條ハ別ニ前條ニ異ナルヲナシ其異ナルハ惟本條ハ前條ヨリ其刑重キノミ其重キヲ致ス所以ノモノハ夜間ハ人ノ安息ヲ要スル時間ニ係リ而シテ監守ヲ爲スニ難クシテ犯罪ヲ爲スニ易シ其人ニ危険ヲ與フルコト前條ニ比シテ更ニ大ナリ是レ法律ノ一層重ク之ヲ罰シテ人民ノ安寧ヲ保護シタル所以ナリ

第七十三條 故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

本條ハ皇室ノ尊嚴ヲ保護センカ爲メニ通常ノ刑ニ更ニ一等ヲ加ヘタルモノナリ

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

或場合ニ於テ官署ヨリ法律規則ニ依リ特別ニ封印ヲ爲スコトアリ此封印ハ之ヲ破ル丁易シ何トナレハ紙片等ニテ爲ス者ナレハナリ今若シ此官署ヲ所爲ヲ完カラシメシニハ封印ヲ破ル者ノ制裁ヲ規定セザルヘカラス是レ本節ノ設ケアル所以ナリ

第七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

本條ノ官署ノ處分ニ因リ特別ニ施シタル封印云々ハ文辭ハ其意義甚ダ漠然トシテ如何ナル場合ナルヤヲ知ルコト能ハス故ニ之ヲ解

(第七十三、四條) 第二編 第三章 第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪 二〇九

官署ノ處分ニヨリ特別ニ施シタル封印

印
下
ハ
如
何
ナ
リ
ヤ

釋スルニハ夫ニ注意ヲ加ヘサルヘカラス官署ノ處分トハ官廳ノ名ヲ以テ事ヲ處分スルコトナレトモ官廳ノ處分ニ因リ特別ニ封印ヲ施ストハ如何ナル場合ナルヤ官吏カ官署ノ處分トシテ封印ヲ施スハ素ト偶然ニアラス凡テ是レ特別ナリ若シ斯クノ如ク廣ク之ヲ解釋セシ歟其範圍甚ク廣キニ涉リテ夫ノ官署ノ用筆筒ノ封印ヲ破棄スルカ如キ又官文書ヲ送ル封箱ノ封印ヲ破棄スルカ如キモ皆本條中ニ入ルニ至ル若シ狹ク之ヲ解釋セシカ家資分散ノ際債務者ノ財産ニ對シテ施シタル封印ヲ破棄シタルカ如キ場合ニ止マルニ至ル斯クノ如キ曖昧ノ文辭ハ之ヲ如何ニ解釋セハ則チ其誤謬ヲ免カル可キ乎夫レ封印ニハ人ノ權利ヲ保護スル爲メ所有者又ハ債權者ノ權利ヲ保護セシカ爲メニ封印ヲ施スカ如キ場合若クハ危害ヲ防ク爲メ(主稅官吏カ酒ノ密造ヲ發見シタル時封印ヲ施スカ如キ場合)若クハ又秘密ヲ要スル爲メ(人民ノ

開クコトヲ許サ、ル官ノ文庫ニ封印ヲ施スカ如キ場合)ニ施スコトアリ本條ノ所謂官署ノ處分ニ因リ特別ニ施シタル封印トハ蓋シ所有者又ハ債權者ノ權利ヲ保護セシカ爲メニ差押ヘタル財産ニ執達吏(執達吏ハ公吏ナリ故ニ其役場ハ公署ニシテ官署ニ非ス然レモ明治廿三年十月八日法律第百號ニヨリ刑法中官署ニ關スル條項ハ公署ニ適用スルコトナリタリ)ノ施シタル封印酒稅ノ免脫ヲ計ル危害ヲ防カンカ爲メニ主稅官吏ノ施シタル封印ノ如キ者ヲ指スモノニシテ夫ノ秘密ヲ要スル文庫ニ施シタル封印ノ如キハ本條ニ包含セサルナリ何トナレハ本條ノ特別ニ施シタル封印トハ封印ヲ施スヘキ權利義務アル者カ人民ノ物件ニ施シタル封印ヲ指スモノハ換言スレハ封印ヲ施スヘキ義務アル官吏カ差押ヘタル財産ニ施シタル封印又封印ヲ施スヘキ權利アル主稅官カ脫稅ノ危害ヲ防カンカ爲メニ施シタル封印ノ如キヲ指シタ

(第百七十四條) 第二編 第三章 第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪 二二一

ルモノニテ夫ノ秘密ヲ要スル文庫ニ施シタル封印ハ如キハ是ノ官カ
自己ノ物件ニ封印ヲ施シタルト同一ニシテ本條ノ所謂特別ニ施シタ
ル封印ニアラサレハナリ又差押財産ニ施ス封印酒稅免脫ヲ防ク爲メ
施ス封印ノ如キハ其方法簡單ナレハ此單簡ナル點ニ重キヲ置キテ之
ヲ破リタル者ヲ罰スト雖モ秘密ヲ要スル文庫ニ施シタル封印ヲ破リ
タル者ノ如キハ秘密ヲ發キタルノ點ヲ以テ之ヲ罰スルハ格別封印ヲ
破リタルノ點ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得サルナリ故ニ曰ク此場合ハ本
條ニ包含セスト

第七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者
ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀
壞スル犯人アルコトヲ覺ラサル時ハ二回以上二十回以下ノ罰金ニ處ス
右二條ハ別ニ説明スヘキ事ナシ

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム

爰ニ公務ヲ行フヲ拒ム罪トアリ因テ公務ヲ行フ者アルニ當リ他人ヨ
リ之ヲ拒ムカ如クナレハ決シテ然ラス本條ノ罪ハ不行犯ニシテ公務
ヲ行フノ義務アル者カ其公務ヲ行ハサルヲ罰スルナリ蓋シ官吏ト一
私人トヲ問ハス皆社會ニ對シテ公務ヲ行フノ義務アリ若シ之ヲ行ハ
サルニ於テハ一般ノ秩序安寧ヲ妨害スルニ至ルヲ以テ其制裁トシテ
本節ノ起リタル者ナリ

第七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其
要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮
ニ處シ五回以上五十回以下ノ罰金ヲ附加ス

陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケタ
ル時ハ之ニ應セサル可カラズ若シ之ヲ肯セサル時ハ本條ノ罰ヲ受ケ
本條ノ將校トハ狹ク之ヲ解シテ出兵ノ權利アル將校出兵ノ要求ニ應
スル義務アル將校ト爲サルヘカラス故ナクシテノ語モ亦狹ク之ヲ

解シテ第七十一條ノ故ナク同一ニ視ル可カラズ

第七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身軀ヲ毀傷シテ疾病
ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以
下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セシメタル者亦同シ
其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處
斷ス

本條ハ殆ト消滅ノ有様ナリ何トナレハ本條ノ事柄ハ徵兵令ニ於テ詳
細之ヲ規定スルニ至リタレハナリ本條ニ逃走シテ免役ヲ圖リタル者
ノ規定ナクレハ徵兵令ニハ之ヲ規定セリ或人曰ク逃走シテ免役ヲ圖
リタル者ノ如キハ其他詐僞ノ所爲ノ中ニ包含スト其レ或ハ然ラン然
レハ徵兵令ニ於テ明ニ之ヲ規定セルヲ以テ到底本條ヲ適用スルノ時
ナカルヘシ今本條ニ存スル一疑問ヲ左ニ決セン
徵兵ニ應スルヲ厭ヒ免役ヲ圖ル者其適齡前ニ於テ本條ハ罪トナル可

キ所爲ヲ行ヒタル時ハ如何スヘキヤ例ヘハ來年徵兵適齡トナル者今
年手足ヲ斷ツカ或ハ其他身軀ヲ毀傷シテ以テ免役ヲ圖リタル時ハ今
年之ヲ罰スルヤ將タ來年徵兵適齡ニ至テ之ヲ罰スルヤ曰ク來年適齡
ニ至ラサレハ之ヲ罰スルヲ得ス蓋シ設ヒ身軀ヲ毀傷シテ疾病ヲ作
爲スルモ身軀検査ノ日ニ至ラサレハ免役ヲ圖リタリト云フヲ確然タ
ラス其人適齡前ニ死スルカ或ハ徵兵令ノ改正等ニ際シテ免役トナル
ヤモ亦未タ知ルヘカラス故ニ斯クハ如キ所爲ハ未必條件附ハ罪トモ
謂フ可キモノニシテ其免役ヲ圖リタリト云フヲハ確定スヘキ時期ノ
到着スルニ非サレハ之ヲ罰スルヲ得サルナリ

第七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定
ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下
ノ罰金ニ處ス

醫師化學家ハ官吏ニ非サレハ解剖分析又ハ鑑定ノ公務ヲ行フノ義務

アリ此義務ニ背ク時ハ其制裁ナカルヘカラス制裁ナキ時ハ其義務ヲ盡ス者ナキニ至ル是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

第百八十條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ背セサル時ハ亦前條ニ同シ

證人裁判所ヨリ呼出テ受ケテ之ニ應セサル時ハ刑事訴訟法第百十八條ヲ以テ罰セラル若シ出廷シテ陳述ヲ背セサル時ハ本條ノ制裁ヲ受

ク本條ハ他ニ説明スヘキコトナシ(刑事訴訟法第百二十六條)

第百八十一條

傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病態ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ背セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス本條ハ別ニ説明スヘキコトナシ

第四章 信用ヲ害スル罪

信用ヲ害スル罪トハ公衆ノ信憑ニ背クモノニシテ多クハ偽造變造ノ罪ニ係レリ偽造變造ナル者ハ皆公衆ノ信憑ニ背キ社會經濟ヲ害スル

貨幣偽造
罪ヲ公罪
トシテ罰
スル理由

ヲ以テ茲ニ諸種ノ偽造變造ヲ一括シテ本章ヲ置ケリ各國刑法ハ斯クノ如ク一括シタル者鮮シ是レ我刑法ハ此點ニ於テ大ニ進歩セリト謂フヘシ

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

公衆ノ信用ヲ害スルコト最モ大ナルモノハ貨幣ヲ偽造變造スルコト是ナリ是レ本節ノ罪ヲ第一ニ置キタル所以ナリ表題ニハ偽造スル罪トアリテ變造ノコトヲ云ハスト雖モ是レ重ナル者ヲ掲ケタルニ過キサレハ無論變造モ亦之ニ含有スト解セサルヘカラス
貨幣偽造ハ如何ナル種類ノ罪ナルヤ之ヲ公罪トシテ本編中ニ規定セシハ如何ナル理由ナルヤ夫レ貨幣ヲ偽造スル者ハ甚々重キ情狀ヲ存シテ重ク罰スルノ必要アリト雖モ然レモ其罪ノ構成上果シテ之ヲ公罪ト爲スヘキモノナルヤ貨幣ヲ偽造スル者ハ其目的不正ノ利益ヲ得

ソトスルニ在リ他人ノ財物ヲ騙取セントスルニ在リ然ラハ則チ貨幣
 偽造ハ是レ詐僞取財ナラスヤ公罪ニアラスシテ一己人ニ對スル罪ナ
 ラスヤ而ルニ我刑法ハ之ヲ公罪トシテ第二編中ニ編入シタルハ抑何
 ソヤ古昔ハ貨幣偽造ヲ以テ君主權ニ對スル罪トカセリ蓋シ貨幣ノ製
 造ヲ以テ君主ノ特權トナシタルニ由ル其說ニ曰ク價值ナキ者ニ價值
 ナ附シ以テ之ヲ通用セシムルハ君主權ノ一部ナリト夫レ斯クノ如ク
 當時ハ貨幣ノ製造ヲ以テ君主ノ特權ト爲スノ思想盛ナリシヲ以テ之
 チ偽造スル者ノ如キハ君主ノ特權ヲ犯ス者ナリ公權ヲ害スル者ナリ
 トシテ之ヲ公罪トナシタルナリ現ニ羅馬ニ於テハ貨幣偽造ヲ以テ反
 逆罪ト爲セリ

以上ノ如ク古昔ハ貨幣偽造ヲ以テ公罪トナシタリ今日之ヲ公罪ト爲
 シタルハ亦之ト同一ノ理由ニ出テタルカ曰ク否夫レ貨幣製造ヲ以テ
 君主權ノ一部ナリトシ價值ナキ者ニ價值ヲ附シテ之ヲ通用セシムル
 ハ君主ノ特權ナリト思惟スルハ誤謬ナリ夫レ貨幣ハ價值ノ標準物ナ
 リ物價ノ代表物ナリ貨幣ニシテ價值ナクンハ何ヲ以テ價值ノ標準ヲ
 立ツルコトヲ得ンヤ何ヲ以テ物價ヲ代表スルコトヲ得ンヤ一圓ノ價值ア
 リテ始メテ一圓ノ物價ヲ代表スルニ非スヤ一圓ノ標準ヲ立ツルニ非
 スヤ若シ價值ナクシテ命價ノミニ止マル時ハ物價ハ亦之ニ伴ヒテ騰
 貴セントス然ラハ則チ價值ナキモノヲ以テ其命價ノ如ク通用セシム
 ルモ其價值ハ君主ノ權ト雖モ之ヲ左右スルコトヲ得サルナリ是レ貨幣
 製造ハ君主ノ特權タルコト能ハサルモノナラスヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ
 貨幣ハ他ノ物品即チ米麥豆等ト一般全ク一個ノ商品タルノ性質ヲ有
 スルモノニ過キサレハ從テ何人ト雖モ之ヲ製造シテ不可ナルナキカ
 如シト雖モ然レモ之ヲ各人ノ自由ニ委テテ問ハサル時ハ其弊害百出

シテ商業ノ圓滑ヲ得ルヲ能ハサルヲ以テ公益上其製造ヲ政府ニ委シタル者ナリ佛國ニ於テハ煙草ノ製造ハ獨リ之ヲ政府ノ手ニ握リタリ貨幣製造ヲ政府ニ委スルハ其主義ハ相異ナレ其政府ノ專有タルノ點ニ於テハ各異ナルヲナシ即チ貨幣製造ハ政府ノ特權ニアラスシテ一ノ專賣權ナリ之ヲ偽造スル者ノ如キハ社會ノ公權ヲ犯スニ非スシテ政府ノ專賣權即チ私權ヲ害スルモノナリ故ニ貨幣偽造ハ政府ニ對スル時ハ其專賣權ヲ犯スニ止リ人民間ニ在テハ詐欺取財ニ過キサレハ何レヨリ見ルモ私罪ニシテ公罪タルヲ得サルナリ然ラハ則チ我刑法ノ之ヲ公罪ト認メタルハ理由何レニ在ルカ曰ク此罪ハ本來ノ性質タルヤ詐欺取財ナリト雖モ然レモ他ノ一面ヨリ觀ル時ハ一種ノ特性ヲ具ヘ大ニ他ノ私罪ニ異ルアリ即チ偽造貨幣ハ迅速ナル流通ノ結果容易ニ公衆ノ信用ヲ害シ交際ノ安寧ヲ妨ク爲メニ商業上ニ變動ヲ

貨幣偽造
罪ノ刑

起シ遂ニ貨幣ヲ授受スル者ナクシテ物品交換ヲ爲スニ至ル是ハ大ニ社會公益ヲ害スル者ナリ是ニ由テ之ヲ觀シハ貨幣偽造ノ罪タル其性質一私人ニ對スルモノナルモ又社會公益ヲ害スルノ性質アルヲ以テ一個兩面ヲ有スル者ト謂ハサルヘカラス而シテ我刑法ハ公益ヲ害スルノ點ニ重キヲ置キテ之ヲ公罪ト爲シタルナリ現時各國刑法ノ貨幣偽造ヲ公罪ト爲シタルハ亦此理由ニ基クナリ古昔ハ此罪ヲ罰スルニ死刑ヲ以テセリ夫レ斯クノ如ク重ク之ヲ罰シタルハ蓋シ此罪ヲ以テ君主ニ對スル者ト爲シタルト又其貨幣ハ製造甚タ粗惡ニシテ之ヲ摸擬シ易ク之ヲ偽造シ易キカ故ニ嚴刑ヲ以テ此危險ヲ豫防セントシタルトニ由ル其貨幣偽造ヲ以テ君主權ニ對スル者ト爲シタルノ誤認ナルヲハ前已ニ之ヲ述ヘタリ且今日ハ工藝ノ技術大ニ進歩シタルニヨリ貨幣ノ製造ハ甚タ巧緻ニシテ偽造シ難キヲ

古昔ノ粗惡ニシテ何人モ偽造シ得ルカ如キニ非ス隨ヒテ之ヲ偽造スルノ危險ヲ豫防スル必要ノ度ヲ減セリ於是乎今日ハ各國刑法ニ於テ大ニ其刑ヲ輕クシテ復タ死刑ヲ科スルノ國ナシ我刑法ハ之ヲ罰スルニ無期徒刑ヲ以テセリ然レモ尙ホ重キニ過クルノ感ナキ能ハス何トナレハ偽造貨幣ハ其流通ノ迅速ナル容易ニ商業ノ信用ヲ害シ公衆ノ安寧ヲ妨クルヲ以テ公益上重ク之ヲ罰スルノ必要アルカ如シト雖モ元來貨幣偽造ノ性質タル詐偽取財ニ過キス其公益ヲ害スルカ如キハ畢竟詐偽取財ノ結果ナリ而シテ其結果ノ危險ナルコトモ亦世人ノ一般ニ想像スルカ如ク大ナル者ニ非ス若シ數萬ノ偽造貨幣ヲ天下ニ散布スル時ハ其危險大ナルヘシト雖モ數萬ノ多キハ却テ發覺ヲ早メテ其目的ヲ達スルコト能ハサルモノナレハ實際ハ僅々使用シテ有限ノ人ヲ瞞着スルニ過キス此危險ヲ豫防スルニ罪ニ對シテ其權衡ヲ得サルカ

偽造貨幣
行使罪ノ
構成條件

如キ嚴刑ヲ用井ルヲ要セサルナリ蓋シ此嚴刑ヲ規定シタルハ舊套ヲ脱セサルニ因ルナラン

第百八十二條 内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ四元素ヲ要ス

- 第一 惡意アルヲ要ス
- 第二 眞貨ヲ模擬スルヲ要ス
- 第三 貨幣ノ法律上ノ通用ヲ有スルヲ要ス
- 第四 行使スルヲ要ス

貨幣ヲ偽造シテ本條ノ罪ヲ成スニハ右四元素ヲ具備スルコトヲ要ス若シ其一ヲ缺ク時ハ本條ノ罪ヲ成サス左ニ一々之ヲ攻究セン

惡意トハ行使スルノ意思ヲ以テ偽造スルヲ謂フ、今本條ノ貨幣偽造罪ニ惡意ヲ必要トスルコト明瞭ニ知ラント欲セハ、暫シ本條ヲ離レテ貨幣ヲ偽造シテ未タ行使セサル場合ヲ想像セサル可カラス(本條ハ行使シタル場合ナリ故ニ云フ)夫レ貨幣ヲ偽造シテ未タ行使セサル者ハ是レ詐欺取財ノ豫備ナリ誰カ貨幣ヲ偽造スルニ真正ノ貨幣ト同一ノ物質同一ノ量目ヲ有セシムル者アラバ必スヤ惡物質ヲ用井若クハ少許ノ量目ヲ用井テ以テ真正ノ貨幣ニ模擬セシムル者ナリ是レ其目的盜ヲ行ハントスルニアリテ偽造貨幣ヲ以テ詐欺取財ノ手段トナスニ外ナラサルナリ而シテ其未タ行使セス其目的ヲ達セサル者ハ是レ詐欺取財ノ豫備ニ止マル者ナリ豫備ノ所爲ヲ罰セサルハ我刑法ノ原則ナリ然ルニ醜ヲ第百八十六條ニ於テ之ヲ罰セリ之ヲ罰スルハ其危險甚タ大ニシテ他ノ罪ノ豫備ト同一視スルコト得サル者アルヲ以テ

之ヲ一罪トシテ罰シタルナリ而シテ第百八十六條ヲ以テ之ヲ罰スルニハ必ス行使スルノ意ヲ以テ偽造シタルコトヲ要ス即チ行使ノ意思盜ノ目的アルコトヲ必要トスルナリ若シ夫レ行使ノ意思ナク盜ノ目的ナク單ニ學問研究ノ爲メナルカ或ハ美術品トナサシメ爲メナルカ斯クノ如キ場合ニハ之ヲ罰スルコト得サルナリ何トナレハ之ヲ行使スルノ意思ナキ時ハ貨幣ヲ偽造シタルト謂フコト得サレハナリ故ニ貨幣偽造罪ヲ成スニハ單ニ故意ノミニテハ尙ホ足ラスシテ必ス惡意アルコトヲ必要トスルナリ夫ノ謀故殺ノ如キハ其意思人ノ苦痛ヲ去ラシムルニ出テ敢テ惡意ナク寧ロ善意ナルモ苟モ殺スル意思アル時ハ直チニ謀故殺罪ヲ成スト雖モ貨幣偽造罪ハ必ス之ヲ行使スルノ惡意ヲ要スルヲ以テ謀故殺罪ト同一ニ之ヲ論スルコト得ス故ニ第百八十六條ヲ以テ貨幣ヲ偽造シテ未タ行使セサル者ヲ罰スルニハ必ス行使スル

惡意ハ偽造ニ付テハ
ハスルカ或
カハスルカ
カハスルカ
カハスルカ

ハ意思ヲ以テ偽造シタル者ナルトテ要スルナリ
右述フル所ハ獨リ第百八十六條ニ關係シテ本條ヲ適用スルニ付テハ
更ニ關係アラサル者ノ如ク何トナレハ本條罰スル所ハ行使シタル者
ニ在ルヲ以テ苟モ行使シタル者ニ在テハ其模造ノ惡意ノ有無ヲ問フ
コトヲ要セサルカ如クニ見ユレハナリ然レモ右述フル所ハ貨幣偽造罪
構成ノ元素ナルヲ以テ無論本條ニ大關係ヲ有スル者ナリ即チ本條ノ
罪ヲ成スニハ模造者ノ必ス惡意アリタルトテ要ス但シ成文ヲ讀下ス
ル時ハ苟モ行使シタル時ハ其模造シタルニ付キテハ惡意アリタルト
テ必要トセサルカ如クシト雖モ決シテ然ラスシテ惡意ハ偽造ノ文辭中
ニ自然ニ包含セラレタルモノナリ若シ夫レ惡意ヲ以テ模造シタルニ
非サル時ハ假令之ヲ行使スルモ本條ノ罪トナラス何トナレハ上ニ已
ニ述ヘタルカ如ク行使スルノ意思ヲ以テ造リタルニ非サル者ハ之ヲ

偽造ト謂フコトヲ得ス已ニ偽造ト謂フコトヲ得サレハ本條ノ罪ヲ成サ
ルハ當然ナルハナリ故ニ例ハ學術研究ハ爲メ或ハ美術品トナサ
カ爲メニ模造シ後日ニ至リ惡意ヲ生シテ之ヲ行使シタル者ノ如キハ
本條ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得ス是レ之ヲ行使シタルハ惡意ナルモ之
ヲ造ルニ付テハ行使スルノ意アリタルニ非ス即チ貨幣ヲ偽造シタル
者ニ非サルヲ以テナリ然ラハ則チ何ニ由リテ此者ヲ罰スヘキカ曰ク
第百九十條ノ他人ノ偽造シタル者ヲ受取り而シテ之ヲ行使シタル者
ヲ罰スルノ刑ヲ適用スヘシ蓋シ行使スルノ意ヲ以テ偽造シタルニ非
スシテ他日ニ至リ惡意ヲ生シテ行使シタル者ハ恰モ偽造ノ情ヲ知テ
他人ヨリ之ヲ受取り而シテ行使シタル者ト同一一般ナレハナリ要スル
ニ本條ハ則チ行使スルノ意ヲ以テ偽造シ而シテ之ヲ行使シタル者ニ
非サレハ之ヲ適用スルコトヲ得サルナリ

第二眞貨ヲ摸擬スルヲ要ス

本條ノ罪ヲ成スニハ眞正ノ貨幣ヲ摸擬シタルヲ要ス即チ偽造貨幣ニシテ眞正ノ貨幣ノ外觀ヲ有シテ容易ニ人ヲ欺キ得ルヲ要ス若シ其製造ノ甚々粗惡ニシテ何人モ之ヲ見テ其偽造タルヲ知リ得ヘキカ如キ者ナル時ハ本條ノ罪ヲ成サス何トナレハ此等ハ假令惡意アルモ其所爲タル毫モ結果ヲ生セス毫モ損害ヲ來タサスシテ貨幣ヲ偽造シタリト謂フヲ得サレハナリ然ラハ則チ眞貨ノ摸擬タル如何ナル程度ニ達スルヲ要スル乎是レ法律ノ言ハサル所ニシテ其摸擬ト爲スヲ得ルヤ否ヤハ實ニ事實裁判官ノ判定如何ニ任ス而シテ眞貨ノ外觀ヲ有スルニ足ルト認マラレタル摸擬ニ付テモ各巧拙アリ我刑法ハ其巧拙ニ因テ刑ヲ異ニセス夫レ摸擬ノ巧妙ナルモノト拙劣ナルモノトハ其罪度ヲ異ニシ從テ之ニ科スルノ刑モ各異ナラサルヲ得ス然レモ我

眞貨ノ摸擬ノ程度

刑法ノ之ヲ區別セサルハ立法上實ニ區別スルヲ能ハサルニ由ル是レ亦裁判官ノ酌量ニ委テタル所ノモノナリ

第三貨幣ハ法律上ノ通用ヲ有スルヲ要ス

貨幣ノ法律上ノ通用ヲ有スルトハ法律ニ於テ貨幣ニ負債償却ノ効力ヲ與ヘ何人ト雖モ之ヲ受クルト拒ムヲ得サルヲ謂フ貨幣偽造罪タルニハ此法貨ヲ偽造シタルモノナラサル可カラス故ニ外國貨幣ハ如キハ法貨ニアラサルヲ以テ之ヲ偽造スルモ本條ノ罪ト成ラス又已ニ貨幣ノ効力ヲ失ヒタル舊時ノ貨幣モ法貨ニ非サルヲ以テ之ヲ偽造スルモ本條ノ罪トナラス曾テ小判ヲ偽造シタル者ニ本條ヲ適用シタルノ裁判アリタリ是レ本條ノ内國通用ノ語ヲ廣ク解シタルニ出ラタルヘシト確モ然レモ誤認ノ甚シキモノナリ大審院檢事長ハ非常上告ヲ爲シ大審院ハ其裁判ヲ破毀シタリト云フ本條ノ罪ヲ成スニハ必ス法

律上ノ通用ヲ有スルモノナラサル可カラサルヲ亦以テ知ル可キナリ
 法律上ノ通用ヲ有スル以上ハ紙幣ト雖モ之ヲ偽造スル者ハ亦同ク罰
 セサルヘカラス蓋シ紙幣ハ本位貨幣ヲ代表スル者ニシテ其効力ハ本
 位貨幣ト同一ナレハナリ是レ本條ノ紙幣ヲ偽造シタル者ハ金銀貨ヲ
 偽造シタル者ト同一ニ罰スル所以ナリ
 第四行使スルヲ要ス

行使ノ意

本條ノ罪ヲ成スニ行使スルヲ要スルハ法文上實ニ明白ナリ偽造シ
 テ未タ行使セサル時ハ第八十六條ノ罪トナル。貨幣偽造ニ付テハ
 行使ト云ヒ官印及ヒ私印偽造ニ付テハ使用ト云ヒ又官文書及ヒ私文
 書偽造ニ付テハ行使ト云フ蓋シ行使トイヒ使用トイフ其意義相異ナ
 ラスト雖モ行使ハ使用ヨリ較廣キ意義ヲ有スルカ如シ佛文章案ニハ
 「通用ニ置ク」トアリ是レ行使ノ意義ヲ表ハシタリト謂フ可シ

以上四條件ヲ具備スル時ハ本條ノ罪ヲ成ス此四條件ハ法文ニ明記セ
 ス是レ我刑法ハ一般ニ罪ノ定義ヲ與ヘサルカ故ナリ然レモ本條ノ罪
 ヲ成スニ右四條件ヲ必要トスルヲハ法理上ヨリ明ニ之ヲ知ルヲ得
 ヘシ

本條ノ偽造罪ハ無期徒刑ヲ以テ之ヲ罰ス然レモ其偽造額ノ多少ニ因
 テ罪度ニ輕重ナキヲ能ハサルヘシ數萬圓ノ偽造ヲ爲スト僅々一二圓
 ノ偽造ヲ爲ストハ其危害ノ大小自ラ異ナルモノアリ而ルニ之ヲ區別
 セスシテ一般ニ無期徒刑ヲ以テ之ヲ罰スルハ何ソヤ是レ之ヲ區別ス
 ルヲ能ハサルモノアルヲ以テナリ蓋シ之ヲ區別スルニ標準ナク縱令
 標準アリテ之ヲ區別シ得ルモ若シ區別スル時ハ錯雜ニシテ却テ不明
 了テ來タシ又縱令不明了ハ之ヲ免カル、モ他ニ一事ノ困難ナルモノ
 アリ例ヘハ偽造者偽造ノ器械ヲ豫備シタル際ニ於テ發覺シタル所ハ

其者多數ヲ偽造セントシタルヤ少數ヲ偽造セントシタルヤ更ニ之ヲ知ルヲ能ハス斯クノ如キ困難アルヲ以テ我立法者ハ全ク之ヲ裁判官ノ商量ニ委スルノ便ナルニ若カストナシタルナリ僅ニ二十錢ノ紙幣ヲ偽造スルモ無期徒刑ナリ(本條一錢ノ銅貨ヲ偽造スルモ輕懲役ナリ(第百八十五條裁判官タルモノ實際ニ當リ宜シク酌量スル所ナカルヘカラス

貨幣變造
行使罪

第二項ハ變造ノ罪ニシテ變造トハ眞正ノ貨幣ヲ自己ノ利益アル様ニ變更スルトヲ謂フ變造ハ偽造ニ比シテ社會ニ損害ヲ與フルト甚ナシ何トナレハ偽造ハ模型ヲ用ユルモノナレハ一度其模型ヲ作ル時ハ數萬ノ偽造貨幣ヲ得ルヲ難キニ非ス之ニ反シテ變造ハ個々ニ其手數ヲ要スルモノナレハ多數ヲ得ルヲ容易ナラサレハナリ故ニ變造ハ其刑輕シ而シテ變造ノ罪ヲ構成スル元素ハ偽造罪構成ノ元素ト異ナルト

偽造變造
ノ區別

變造ノ方
法

ナシ其偽造ト變造トヲ區別スルハ點如何曰ク偽造ハ他ハ物質ヲ以テ新ニ作り出スモノニシテ變造ハ貨幣若クハ紙幣其物ニ就テ之ヲ變更スルヲ云フ

變造ニハ其方法ニアリ左ノ如シ

第一、金銀貨ノ量目ヲ減殺シテ其實價ヲ減少スルト。此方法ハ金銀貨ノ縁ヲ削リ去ルカ或ハ化學術等ニ因リテ貨幣全面ヨリ金分ヲ取リテ以テ其實價ヲ減少スルカ如キ是ナリ

第二、貨幣ノ命價ヲ變シテ其價格ヲ増加スルト。例ヘハ五圓ヲ十圓トナシ十圓ヲ二十圓トナスカ如ク其命價ヲ増加スルナリ

第一方法ハ紙幣ニ付テハ行ハレサルモ第二方法ハ紙幣ニ付テモ亦行ハル右二方法ノ外他ニ變造ハ方法アリヤト云フニ變造トハ廣キ意義ヲ有スル者ナレトモ予ハ右二方法ノ外ニ他ハ方法アルヲ知ラス。茲

銀貨ニ金
ハ銅貨ニ
ハ銀貨ニ
ハ金貨ニ
ハ銀貨ニ
ハ銅貨ニ
ハ銀貨ニ
ハ金貨ニ

ニ似テ非ナル者アリ夫ハ銀貨ニ金ヲ鍍シ銅貨ニ金銀ヲ鍍スル者ナ
リ例ヘハ二十錢銀貨ニ金ヲ鍍シ或ハ五厘銅貨ニ金ヲ鍍シ其命價ヲ改
メテ五圓ト爲シタル者ノ如キハ之ヲ變造ト謂フヤト云フニ實際ハ之
ヲ變造トナス者ノ如シト雖モ決シテ變造ニ非サルナリ若シ二十錢銀
貨ニ金ヲ鍍シタル者ヲ變造トナス時ハ之ヲ金貨ノ變造ト謂フヤ將タ
銀貨ノ變造ト謂フヤ之ヲ金貨ノ變造ト謂フモ銀貨ノ變造ト謂フモ其
刑ニ於テハ則チ差別ナシ然レモ之ヲ區別セント欲セハ寧ロ銀貨ノ變
造ト謂ハサルヲ得サルヘシ然ラハ則チ銅貨ニ金ヲ鍍シタル者ハ銅貨
ノ變造ナリ銅貨ノ變造ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處セラルハニ
過キス而シテ銀貨ニ金ヲ鍍シタル者ハ銀貨ノ變造ニシテ輕懲役ニ處
セラル同シク金ヲ鍍シタルノ所爲ニシテ其刑ニ斯クノ如ク大差異ア
ルノ理ナシ乃チ其所爲ノ所謂變造ニ非サルヲ見ル可シ又法理上ヨリ

銀貨ニ金
ハ銅貨ニ
ハ銀貨ニ
ハ金貨ニ
ハ銀貨ニ
ハ銅貨ニ
ハ銀貨ニ
ハ金貨ニ

スルモ之ヲ變造ト爲スコトヲ得サルナリ夫レ金ヲ鍍シタル銀貨銅貨ハ
素ヨリ真正ノ貨幣ナレモ是レ唯金貨ノ偽造ハ材料ニ供シタル者ニシ
テ銀塊銅塊又ハ其他ノ物ヲ以テ金貨ヲ偽造シタル者ト何ソ擇ハンヤ
故ニ銀貨ニ金ヲ鍍シ銅貨ニ金銀ヲ鍍シタル者ハ變造ニ非スシテ偽造
ナリ紙幣ニ付テモ亦同一ニ論スルコトヲ得ヘシ即チ二十錢紙幣ヲ改メ
テ五十錢トナシ且着色ヲナシタル時ハ變造ニ非スシテ偽造タルヘシ
銀貨ニ金ヲ鍍シ銅貨ニ金銀ヲ鍍シタルモ其命價ハ之ヲ變造セスシテ
行使シタル時ハ變造カ將タ偽造カ曰ク予ハ變造ニモ偽造ニモ非スシ
テ詐欺取財ノ所爲ナリト思考ス蓋シ偽造變造ハ眞貨ニ摸擬スルコト
要スルモノナルニ右ノ所爲ノ如キハ鍍金ヲ爲シタルノミニシテ未タ
眞貨ノ摸擬アリト謂フ可カラス之ヲ用非テ人ノ財物ヲ取リタル者ノ
如キハ尋常一般ノ詐欺取財ニシテ貨幣ノ偽造變造ト謂フコトヲ得ザン

ハナリ若シ之ヲ偽造變造ナリトセハ彼ノ天保錢ニ鍍金ヲナシタル者
 テモ亦變造ト謂ハサル可カラス豈不當ノ至リナラスヤ然レモ此說ニ
 從ハ、以下ノ疑問ニ對スル決答如何日ク第百九十三條ニ據レハ貨幣
 テ收受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルトテ知リ之ヲ行使シタル者
 ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處セラル而ルニ此說ニ據ルキハ貨幣ヲ收受ス
 ルノ後ニ於テ金貨ニ金ヲ鍍シ銅貨ニ金銀ヲ鍍シタル者ナルトテ知リ
 テ之ヲ行使シタル者ハ該條ヲ適用スルトテ得スシテ詐欺取財ト爲サ
 ル可カラズ第百九十三條ノ刑ハ單ニ罰金ニ過キスシテ詐欺取財ノ
 刑ハ重禁錮及ヒ罰金ナリ同シク是レ貨幣ニ非ザル物件ヲ以テ人ヲ詐
 欺シタル者ナリ而ルニ偽造變造ノ貨幣ヲ以テスル者ト單ニ鍍金ヲ爲
 シタル物件ヲ以テシタル者トノ間ニ斯クノ如ク刑ニ差異アルハ何レ
 ヤ或ハ此不權衡ヲ以テ予カ説テ駁スル者アル可シト雖モ然レモ是レ

法文ハ不完全ヨリ生スル自然ノ結果ニシテ不權衡ハ故テ以テ法律ノ
 解釋ヲ變スヘカラサルナリ況ヤ法理上ヨリ之ヲ觀シテ敢テ不權衡ト
 謂フ可カラサル者アルニ於テヤ蓋シ第百九十三條ノ偽造又ハ變造
 ナルトテ知リテ之ヲ行使スル者ハ他人モ亦眞貨トシテ受取ル可シト
 想像スル者ナレハ其惡意小ナリ而ルニ鍍金ヲ爲シタルニ止マル者ハ
 何人モ一見其貨幣ニ非サルトテ知リ得ヘキヲ以テ之ヲ行使スルニ付
 テハ其方法ヲ巧ミニセサル可カラズシテ其惡意大ナリ惡意ノ小ナル
 者ヲ罰スルト輕クシテ惡意ノ大ナル者ヲ罰スルト重キハ當然ノトニ
 シテ敢テ不權衡ト爲スニ足ラサレハナリ但シ我立法者ハ右例ハ所爲
 ナク變造ト認メタル者ノ如シ

第百八十三條 内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタ
 ルハ有期徒刑ニ處ス
 若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

(第百八十三條) 第二編 第四章 第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

本條ハ内國ニ於テ通用スル外國金銀貨ヲ偽造變造シタル場合ニシテ其前條ト異ナル所ハ内國貨幣ト外國貨幣トニ在ルノミ内國通用ノ外國貨幣トハ外國トノ修交條約ニ依リテ其外國ノ貨幣ヲ内國貨幣ト同一ニ内國ニ通用セシムル如キヲ謂フ現ニ近頃迄ハ伊佛兩國ニ於テ互ニ其貨幣ヲ自國ニ通用セシメタリト云フ本邦ニ於テモ將來斯クノ如キヲ無キヲ保スヘカラス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

本條ニ紙幣ノ規定ナシ蓋シ紙幣ハ政府ニ信用アリテ始メテ通用シ得ル者ニシテ外國政府ニ對シテハ信用ナシ隨ヒテ外國紙幣ヲシテ内國ニ通用セシムルコトナクハナリ

第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處断ス官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣トハ我銀行條例ニ從ヒ銀行ニ於テ官許ヲ得保證ヲ立テ、以テ發行スル所ノ銀行紙幣ヲ謂フナリ第百八十

二條ハ政府發行ノ紙幣ヲ偽造變造スル者ヲ罰スルニ係ル本條ハ右銀行發行ノ紙幣ヲ偽造變造スル者ヲ罰スルモノナリ蓋シ銀行紙幣ハ既ニ政府ノ許可ヲ得公衆ノ信用ヲ受ケテ發行スル所ノモノナレハ之ヲ偽造變造スル者ノ如キハ大ニ社會公衆ノ信用ヲ害スルヲ以テナリ

前條ニ於テハ外國ノ金銀貨ヲ偽造變造スル者ヲ罰スルコトヲ規定シテ外國政府發行ノ紙幣ヲ偽造變造スル者ヲ罰スルコトヲ規定セス其之ヲ規定セサルノ理由ハ前條ニ於テ叙述シタリ今本條ニ於テハ外國銀行ハ發行シタル紙幣ヲ偽造變造スル者ヲ罰セリ政府發行ノ紙幣ヲ偽造變造スル者ヲ罰セスシテ獨リ銀行發行ノ紙幣ヲ偽造變造スル者ヲ罰スルハ其故何ソヤ是レ銀行紙幣ハ元來信用手形即チ爲替手形ノ如キ性質ヲ帶フル所ノモノナレハ自ラ信用ヲ置クニ足ルモノアリテ外國政府發行紙幣ノ信用ヲ置クニ足ラサル如キモノト異ナレリ隨ヒテ將

來、内國ニ通用スルヲ認ムルハ、場合ナキニ非サルヘシ、其通用ヲ認ムル場合ニハ、之ヲ偽造變造スル者アルニ當リテハ、商業上ハ勿論、公衆一般ノ信用ヲ保護スル爲メ之ヲ罰セサルヘカラサルヲ以テナリ

第百八十五條 内國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ、輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ、一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス
本條ニ付キ一疑問アリ曰ク銅貨ヲ偽造スルニ當リ官印ヲ偽造シタルハ、官印偽造罪ト本條ト數罪俱發ヲ以テ之ヲ論スルヤ否ヤ或ハ數罪俱發ヲ以テ之ヲ論セントスル者アルヘシト雖モ是レ誤謬ノ見ナリ予ハ官印偽造ノ點ハ之ヲ問フ可キモノニ非スト斷言ス何トナレハ若シ貨幣偽造ニシテ官印ヲ必要トスル場合アリトモ、其官印ナキニ於テハ貨幣ヲ偽造スルヲ得スシテ從ヒテ貨幣偽造罪ノ成立スヘキノ理ナシ即チ官印偽造ハ貨幣偽造罪構成ニ必要欠クヘカラサルノ原案

チナスモノニシテ官印偽造ト貨幣偽造トハ其所爲ハ則チ各異ナルモ二者相俟チテ一體ヲ成スモノナレハナリ人ヲ殺スニ刀ヲ以テセリ誰カ之ヲ殺人罪ト毆打罪ト俱發シタルモノト爲スモノアラフヤ然ラハ則チ本問ノ場合ニ於テモ獨リ官印偽造ノ點ノミヲ分離シテ之ヲ一罪ト爲スヲ得ス是ヲ以テ銅貨ヲ偽造スルニ當リテ官印ヲ偽造スル者アリタルハ數罪俱發ニ非スシテ本條ノ一罪アルノミ。上ハ問題ハ獨リ本條ニ於テハミ起ルモノニ非ス前數條ニ於テモ亦起ル所ハモハナリ然レモ前數條ハ其刑官印偽造ノ刑ニ比シテ重キカ故ニ之ヲ數罪俱發ト爲スモ常ニ前數條ヲ以テ罰スルヲ得テ數罪俱發ト爲スト否トハ其結果ニ於テ差異ヲ見サルカ故ニ右ノ問題ヲ起スノ必要ナキモ本條ノ刑ハ官印偽造ノ刑ヨリ輕キカ故ニ其之ヲ數罪俱發ト爲スト否トハ其結果大差ヲ生シテ大ニ之ヲ研究スルノ必要ヲ見ルナリ是レ予

カ本問ヲ本條ノ下ニ於テ辯シタル所以ナリ

第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス
若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル者ハ各三等ヲ減ス

前條迄ハ貨幣ヲ偽造變造シテ行使シタル場合ナリシカ本條ハ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル場合又其未タ成ラサル場合及ヒ器械ヲ豫備シタル場合ヲ規定シタルモノナリ予曾テ云ク偽造貨幣ノ行使ハ其性質詐欺取財ナリ立法者ノ之ヲ公罪中ニ編入シタルハ惟其所爲ノ公衆ノ信用ヲ害シ商業ハ圓滑ヲ妨クルハ點ニ重キヲ置キタルカ故ハミト然ラハ則チ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル場合ハ詐欺取財ノ豫備ナルヲ以テ本條ノ所爲ハ之ヲ詐欺取財ノ豫備ナリト謂ハサルヘカラス實ニ本條ハ詐欺取財ノ豫備ナリ豫備ノ所爲ハ我刑法ノ罰セサル所ナルニ本條ノ之ヲ罰スル所以ハモハハ何ソヤ是レ予カ曾テ述ヘタ

本條ニ於テハ前數條ノ性質ニ異ナラスヤルヤ否

ル所ニシテ此所爲タル其危險ヲ包藏スルト大ニシテ忽諸ニ付スヘカラサルモノアルヲ以テ之ヲ豫備ノ所爲ト見做サスシテ一罪トシテ罰シタルナリ立法者ハ其精神ヲ貫徹セシカ爲メ未タ行使セサル者ヲ罰スルノミナラス其未タ成ラサル者ト雖モ又器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル者ト雖モ之ヲ罰ス實ニ豫備中ノ豫備ヲモ尙ホ罰スル事トセリ
本條ノ減等ハ其文意太々總則ノ減等ニ肖テ從ヒテ其減等ハ前數條ノ刑ノミテ減スルニ止マリ其罪ノ性質ハ敢テ變更セサル者ノ如シ然レハ本條ハ減等ハ總則ノ減等トハ大ニ其精神ヲ異ニシテ前數條ノ刑ニ因リテ其罪ノ性質ヲ定メスシテ其減等ノ刑ヲ以テ罪ノ性質ト爲ス即チ前數條ノ刑ハ重罪ナルモ本條ノ減等ニ因リテ輕罪トナルハ之ヲ輕罪トナスナリ何ニ由テ本條ノ減等ハ罪質ヲ變更スルヤ今之ヲ三個ニ區別シテ之カ解答ヲ爲ス可シ
第一偽造變造已ニ成テ未タ行使セ

サ、ル、場、合、予、曾、テ、特、別、ノ、加、重、減、輕、ハ、其、加、減、ニ、ヨ、リ、テ、罪、質、ヲ、變、ス、ル、モ、
ト、否、ラ、サ、ル、者、ト、有、ル、ヲ、述、ヘ、且、之、ヲ、區、別、ス、ル、ノ、標、準、ヲ、示、シ、テ、曰、ク、加
重、減、輕、ハ、犯、罪、構、成、ノ、原、素、ニ、缺、ク、ル、所、ア、リ、テ、爲、メ、ニ、其、目、的、ヲ、達、ス、ル、
能、ハ、サ、ル、場、合、ニ、係、ル、時、ハ、是、レ、其、加、減、ハ、罪、質、ヲ、變、更、ス、ル、モ、ト、ス、之、
反、シ、テ、加、重、減、輕、ハ、犯、罪、ノ、目、的、ヲ、達、ス、ル、ニ、關、係、ナ、ク、犯、罪、構、成、ノ、原、素、ニ
缺、ク、ル、所、ナ、キ、場、合、ニ、係、ル、時、ハ、是、レ、其、加、減、ハ、罪、質、ヲ、變、更、セ、サ、ル、者、ト、ス
ト、(上、卷、第、六、六、九、頁、第、九、十、九、條、ノ、解、參、照)此、標、準、ニ、ヨ、レ、ハ、此、場、合、ノ、罪、質
ヲ、變、更、ス、ル、所、以、テ、知、ル、ヲ、得、ヘ、シ、乃、チ、貨、幣、ノ、偽、造、變、造、已、ニ、成、テ、未、タ、行
使、セ、サ、ル、所、爲、ハ、即、チ、是、レ、貨、幣、偽、造、變、造、罪、ニ、要、ス、ル、行、使、ナ、ル、一、條、件、ヲ
缺、キ、テ、偽、造、變、造、ノ、目、的、ヲ、達、ス、ル、ヲ、能、ハ、サ、ル、モ、ノ、ナ、リ、換、言、ス、レ、ハ、貨、幣
偽、造、變、造、罪、ノ、構、成、原、素、ニ、缺、ク、ル、所、有、リ、テ、其、罪、度、亦、前、數、條、ト、異、ル、所、之
ア、ル、モ、ノ、ナ、リ、故、ニ、立、法、者、ハ、之、ヲ、一、罪、ト、シ、テ、罰、シ、タ、ル、ナ、リ、即、チ、其、減、等

等、以、テ、罪、質、ヲ、變、ス、ル、所、以、テ、知、ル、ヲ、得、ヘ、シ。第、二、貨、幣、ノ、偽、造、變、造、ニ
着、手、ス、ル、モ、未、タ、成、ラ、サ、ル、場、合、此、場、合、ハ、偽、造、變、造、ノ、貨、幣、未、タ、成、ラ、サ、ル
ニ、ヨ、リ、其、行、使、ナ、キ、ヲ、ハ、勿、論、ニ、シ、テ、行、使、ナ、ル、條、件、ヲ、缺、ク、カ、爲、メ、ニ、減、等
ス、ル、ニ、非、ス、故、ニ、其、減、等、ニ、ヨ、リ、罪、質、ヲ、變、更、ス、ル、ノ、理、由、ハ、第、一、ノ、場、合、ニ
掲、ケ、タ、ル、標、準、ニ、ヨ、ル、ヲ、得、ス、蓋、シ、此、所、爲、ハ、第、一、ノ、場、合、ニ、於、ケ、ル、未、遂、犯
ナ、リ、詳、言、ス、レ、ハ、此、所、爲、ハ、偽、造、變、造、已、ニ、成、テ、未、タ、行、使、セ、サ、ル、罪、ト、同、質
ニ、シ、テ、其、未、遂、犯、ナ、リ、而、ル、ニ、立、法、者、ハ、總、則、未、遂、犯、ノ、例、ヲ、適、用、ス、ル、ヲ、テ
爲、サ、ス、シ、テ、別、ニ、本、條、ヲ、設、ケ、テ、之、カ、刑、ヲ、定、メ、前、數、條、ノ、本、刑、ヨ、リ、二、等、ヲ
減、ス、ル、ヲ、規、定、シ、以、テ、特、立、シ、タ、ル、一、罪、ト、爲、セ、シ、ナ、リ、故、ニ、其、減、等、ハ、罪
質、ヲ、變、更、ス、ル、者、ナ、リ、(假、シ、此、所、爲、ノ、減、等、ヲ、シ、テ、前、數、條、ノ、各、本、刑、ヨ、リ、減
ス、ル、ニ、非、ス、シ、テ、第、一、ノ、場、合、即、チ、偽、造、變、造、已、ニ、成、テ、未、タ、行、使、セ、サ、ル、罪
ノ、刑、ヨ、リ、減、ス、ル、モ、ノ、ナ、ル、時、ハ、此、場、合、ノ、減、等、ハ、罪、ノ、性、質、ヲ、變、更、ス、ヘ、シ)。

第三、偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル場合、此場合ハ實ニ豫備ノ所爲ナリ豫備ハ之ヲ罰セサルヲ原則トナス而ルニ特ニ之ヲ罰シタルハ此所爲ヲ一罪ト認メタルニ由ル即チ其減等ノ罪質ヲ減スル所以ヲ知ルヘシ要スルニ本條ハ總則ノ減等ト相肖タリト雖モ立法者ハ前數條ノ罪ニ付キ各其己ニ成テ行使セサル場合未タ成ラサル場合及ヒ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル場合ヲ規定シ一々刑ヲ配置スルノ煩雜ヲ避クンカ爲メニ特ニ本條ヲ設ケタルモノナリトス

本條ノ減等ハ罪質ヲ減スト雖モ次條ノ減等ハ全ク其趣ヲ異ニセリ個ハ次條ニ入りテ陳辯スヘシ

第百八十七條 貨幣ヲ偽造、變造スルノ情ヲ知テ雇テ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

本條ノ總則ハ
例則ニ依リテ
外犯ト爲ル
由シト爲ル

本條ハ總則共犯ノ例外ヲ示シタルモノナリ本條ヲ一讀スルモ本條ノ罪ハ前數條ノ從犯ナルカ如シ何トナレハ本條ニ情ヲ知テ雇テ受ケタル職工ト云フヲ以テ職工ハ偽造變造ノ爲メ雇ハレテ以テ正犯ノ所爲ヲ幫助シタル者ノ如クニ見ユレハナリ然レモ是レ從犯ニ非スシテ正犯ナリ已ニ情ヲ知テ雇テ受ケタル以上ハ其犯罪ノ謀議ニ加ハリタル者ニシテ共謀者ハ一人ト爲リタル者ナリ其製造ニ任シタルハ是レ所爲ハ一部ヲ擔當シタルモノナリ乃チ本條ノ罪ハ純粹ハ正犯ナリ已ニ純粹ノ正犯タリ正犯ハ各自同一ノ刑ニ處セラル、一ハ總則ニ於テ明記スル所ナルニ獨リ本條ノ正犯ノミ他ノ正犯ノ刑ニ一等ヲ減セラ

ル、ハ何ソヤ敢テ問フ何故ニ之ヲ例外ト爲シタルヤ曰ク我立法者以爲ラク本條ノ罪ハ純粹ハ正犯タルニ相違ナシト雖モ他ノ指令者アリテ始メテ現出スヘキモノニシテ若シ指令者ナクハ本條ハ罪ハ現出

本條ノ如何
ナルハ如何
ナリヤ
ナリヤ
ナリヤ

スヘキトナシ即チ他ニ根源ヲ爲ス者アルカ故ナリ而ルニ之ヲ其根源
ヲ爲ス所ノ他ノ正犯ト同刑ニ處スルハ酷ニ過クト是レ本條ノ減等ノ
因リテ起リタル所以ナリ

本條ニ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減スト
アルモ前數條ノ犯人ニハ偽造行使ノ者ト又未タ行使セサル者トアリ
テ各其刑ヲ異ニセリ本條ノ一等ヲ減スルハ偽造行使ノ者ノ刑ニ減等
スルモノナリヤ又ハ行使セサル者ノ刑ニ減等スルモノナリヤ將タ偽
造者ノ行使シタル場合ニハ本條ノ刑ハ其偽造者ノ受クヘキ偽造行使
ノ刑ニ一等ヲ減シ若シ其偽造者ニシテ未タ行使セサル場合ニハ單ニ
偽造ノ刑ニ一等ヲ減スルモノナルヤ例ヘハ第百八十二條ノ偽造者ニ
與シタル職工ハ其偽造者ニシテ行使シタル後ニ發覺シタルハ該條
ノ刑ニ一等ヲ減シ若シ偽造者ニシテ未タ行使セサル前ニ發覺スルハ

ハ偽造者ハ第百八十六條ニ據リテ一等ヲ減セラル、ヲ以テ職工ハ其
偽造者ノ受ク可キ刑ヨリ一等ヲ減シテ結局第百八十二條ノ刑ヨリ二
等ヲ減スルモノナリヤ本條ノ文面ニテハ此等ノ區別判然セスシテ從
ヒテ種々ニ論シ得ラル、カ如シ予ハ信ス本條ノ刑ハ未タ行使セサル
者ノ受クヘキ刑ニ一等ヲ減スルモノナルトテ元來貨幣偽造ナル者ハ
行使スルヲ目的トスル者ナレハ本條モ亦行使シタル者ノ受ク可キ
刑ヨリ減スルヲ以テ可ト爲スニ似タリト雖モ然レモ斯クノ如キ決定
ヲ爲スコトヲ得サルナリ何トナレハ職工ハ惟其製造丈ニ關係シテ行使
ニハ毫モ關係セス而シテ製造ハ常ニ行使前ノ事柄ニ屬スルモノナル
ヲ以テ之ヲ偽造者ノ行使セサル場合ト同格ニ置カサルヲ得サレハナ
リ故ニ本條ノ刑ハ偽造行使者ノ受ク可キ刑ニ一等ヲ減セス即チ偽造
者ノ行使シタルト否トニ關セス常ニ行使セサル者ノ受ク可キ刑ニ

一、等ヲ減セサルヘカラス、乃チ行使セサル者ハ本刑ヨリ一等ヲ減スルヲ以テ復タ其減等ノ刑ニ一等ヲ減シテ畢竟本條ノ刑ハ各本刑ニ二等ヲ減スルモノトナルナリ。若シ夫レ偽造者ノ行使シタル場合ニハ本條ノ刑ハ其行使者ノ受ク可キ刑ニ減等シ偽造者ノ行使セサル場合ニハ本條ノ刑ハ行使セサル者ノ受ク可キ刑ニ減等スルノ説ハ不道理ノ甚タシキモノナリ。此ノ如クナレハ則チ本條ノ刑ハ偽造者ノ所爲ニ由テ變化スルモノト謂ハサルヘカラス是レ豈理ナランヤ。

第二項ハ全ク偽造變造罪ノ從犯ニシテ從ヒテ總則ニ據リテ前數條ノ刑ヨリ減等ス可キモノナレハ茲ニ明記ヲ要セサル所ノモノナレハ前項ノ正犯已ニ他ノ正犯ヨリ一等ヲ減スルヲ以テ此正犯ノ刑ヨリ減等セシメシカ爲メニ特ニ茲ニ明記シタルモノナリ。乃チ第二項ハ第一項ノ從犯トナルモノナリ。

本條ノ減等ハ罪質カテ變スル

何故ニ貨幣偽造變造罪ニ付キ本條ニ於テ斯クノ如ク職工、雇人ニ對シ特別ニ規定ヲ設ケタリヤト謂フニ素ヨリ僅少ノ貨幣ヲ偽造變造スルハ職工、雇人ノ存在スルヲナシト雖モ若シ許多ノ貨幣ヲ偽造變造セントスル首謀者アルハ必ズ之ニ從屬スル職工、雇人ノ存在スルヲアルヲ以テ本條ハ此許多ノ貨幣偽造變造ノ場合ヲ想像シタルモノナリ。予ハ前條ニ於テ前條ノ減等ハ其減等ノ刑ヲ以テ罪ノ本質ト爲スモ本條ノ減等ハ大ニ前條ノ減等ト其趣ヲ異ニスルヲ一言セリ。今之ヲ解説セシテ予以爲ク本條ハ減等ハ其罪ノ性質ヲ變セズ、乃チ本條ニ因リテ重罪ヲ減等シテ輕罪トナリタルハ其罪ノ性質ヲ變セズシテ同シク重罪ナリ。故ニ例ヘハ第百八十五條銅貨偽造者ノ雇ヲ受ケタル職工ハ本條ニ因リテ第百八十五條ノ刑ニ一等ヲ減シテ輕罪ノ刑トナルモ其罪ハ重罪タルナリ。其理由如何曰ク本條ノ罪ハ已ニ述ヘタルカ如ク純

粹ノ正犯ニシテ總則共犯ノ例ニ從フヘキモノナレモ茲ニ特別ノ規定ヲナシテ他ノ正犯ヨリ一等ヲ減スルモノハ元來本條ノ罪タル他ニ首謀者アリテ始メテ現出スル者ナレハ其使役ニ供セラレタル者ヲ首謀者ト同一ニ罰スルハ酷ニ過クト思惟シタルニ因ルモノニシテ即チ其減等ハ犯罪構成ノ元素ニ缺クル所アルニ由ルニ非スシテ立法者カ犯者ノ情狀ヲ酌量シタルニ由ルナリ茲ニ特別ニ之ヲ規定シタルモノハ別罪ト爲シタルニ非スシテ總則共犯ノ例外ヲ示シタルニ過キサレナリ素ヨリ其罪ノ性質程度ニ至テハ首謀者即チ前數條ノ本犯ト同一ニ在ルモノナリ豈其減等ハ其罪ノ性質ヲ變スルモノナランヤ第二項ハ第一項ノ從犯ニシテ其減等ハ罪質ヲ變セズ從犯ノ減等ノ罪質ヲ變スルモノニ非サルナリハ總則第九十九條ノ解ニ於テ詳説シタルハ今復タ贅セス(上卷六七六頁以下參照)

職工雇人ニ關シテ特別ノ規定ヲ爲シタルヲ以テ職工雇人ニ付テハ明白ニシテ一點ノ疑ナシト雖モ今若シ職工ニモアラス雇人ニモアラサル他ノ通常ノ從犯アリタルハ如何ニ之ヲ處分スヘキヤ即チ職工ニモ雇人ニモアラスシテ他ノ普通ノ所爲ヲ以テ偽造變造ヲ幫助シタル者アルトハ如何ニ之ヲ處分スヘキカ

以下前數條及ヒ本條ニ付テ起ル所ノ二三ノ疑問ヲ決シテ本條ノ解ヲ終ラシ

第一問 偽造變造罪ニ付キ本條ハ職工雇人ニ關シ特別ノ規定ヲ爲シタルヲ以テ職工雇人ニ付テハ明白ニシテ一點ノ疑ナシト雖モ今若シ職工ニモアラス雇人ニモアラサル他ノ通常ノ從犯アリタルハ如何ニ之ヲ處分スヘキヤ即チ職工ニモ雇人ニモアラスシテ他ノ普通ノ所爲ヲ以テ偽造變造ヲ幫助シタル者アルトハ如何ニ之ヲ處分スヘキカ

曰ク我刑法ハ此場合ニ關シテ一ノ例外法ヲ設ケサルヲ以テ總則從犯ノ規定ニ從テ偽造變造罪ノ本犯者ノ受クヘキ刑ニ一等ヲ減シテ之ヲ處分スヘキノミ故ニ此場合ニハ同シク從犯ニシテ本條第二項ノ從犯ヨリ重ク又本條第一項ノ正犯ト同一ノ刑ニ處セラルハノ結果ヲ見ル可シ何トナレハ本條第二項ノ從犯ハ職工ノ受ク可キ刑ニ一等又ハ二

職工又ハ
雇人カ其
行使ニ關
係シタル
時ハ如何

等ヲ減スルニ因リ偽造變造ノ本犯ヨリ二等又ハ三等ヲ減スルモノト
ナレトモ總則ノ從犯例ニ從フモハ偽造變造ノ本犯ヨリ一等ヲ減スルニ
過キサルヲ以テ總則ノ從犯ハ常ニ本條第二項ノ從犯ヨリ重ク又本條
第一項ノ正犯ハ偽造變造ノ本犯ヨリ一等ヲ減シ總則ノ從犯モ亦偽造
變造ノ本犯ヨリ一等ヲ減スルモノナルヲ以テ總則ノ從犯ハ常ニ本條
第一項ノ正犯ト同一ノ刑ニ處セラルヲ以テナリ
第二項、職工又ハ雇人カ其製造ニ關係セシハ、ミ、非スシテ其行使ニ
關係シタルモハ如何ニスヘキヤ即チ職工雇人カ偽造變造ノ貨幣ヲ製
造シテ而シテ本犯者ト共ニ之ヲ行使シタルモハ仍ホ本條ヲ以テ之ヲ
論ス可キヤ
曰ク否ナ第百八十二條以下自ラ製造シテ自ラ行使シタル者ハ刑ヲ以
テ之ヲ罰ス可シ何トナレハ本條ハ單ニ製造ノミニ關係シタル者ニ適

單ニ行使
ニ關シタ
ルモノハ
處分如何

用スヘキモノニシテ行使シタル者ニハ適用スルヲ得サレハナリ
第三項、偽造變造即チ製造ニハ關係セスシテ單ニ行使ハ、ミ、ニ關係シ
タル者ハ如何ニ之ヲ處分ス可キカ偽造變造ニハ關係セサルモ已ニ其
情ヲ知テ本犯者ト共ニ之ヲ行使シタルニ於テハ仍ホ本犯者ト同シク
第百八十二條以下ヲ以テ之ヲ論セサル可カラサル乎
曰ク第百八十二條以下ヲ以テ之ヲ論スルヲ得ス何トナレハ第百八
十二條以下ハ偽造者自ラ行使シタル場合ニシテ本問ノ如キハ偽造變
造ニハ更ニ干與セサル者ナレハ其情ヲ知リテ之ヲ行使シタレハトテ
直チニ偽造者ノ行使ト同一ニ論スルヲ得サレハナリ然ラハ則チ此
者ヲ罰スルヲ如何予ハ第百九十條ヲ適用スルハ外チカナル可シト思惟
スルナリ然レモ今立法者ノ精神ヲ考フルニ第百九十條ハ偽造變造ノ
情ヲ知テ他人ヨリ取受シテ之ヲ行使シタル場合ヲ想像シテ偽造者ト

共謀ノ場合ヲ想像セス而ルニ本問ハ偽造者ノ行使ニ共謀シタル者ナレハ其事實彼此自ラ相異ルモノアリテ從テ第九十條ヲ適用スルコトヲ得サルカ如シ其然リ立法者ノ精神ハ本問題ノ場合ヲシテ第九十條ニ包含セシメスト雖モ然レ已ニ正文ヲ適用スルニ當リテハ立法者ノ想像セシ場合以外ニ涉ラシメスト云フノ理ナシ之ヲ適用シテ害ナキ限リハ如何ナル場合ニモ適用スルヲ得ヘキナリ且ヤ第九十條ハ共謀ノ場合ヲ想像セサルハ明了ナリト雖モ本問ノ行使者ノ其偽造變造ノ情ヲ知テ之ヲ行使シタルノ點ニ於テハ第九十條ノ偽造變造ノ情ヲ知テ他人ヨリ取受シテ之ヲ行使シタル者ト其情狀同一ナレハ本問ノ場合ニ第九十條ヲ適用スルモ取テ不可ナカル可キヲ信スルナリ若シ夫レ第九十條ヲ以テ論スルコトヲ得サル場合ニ於テハ固ヨリ詐僞取財ニ問フ可キモノナリ但シ本問ハ行使者ノ毫モ偽造變造

貨幣偽造
罪ニ未遂
アルカ

ニ關係セサル場合ヲ想像シタルモノナレハ若シ多少偽造變造ニ關係セシキハ自ラ偽造變造ニ手ヲ下サスト雖モ第八十二條以下ヲ適用ス可キナリ

第四問 貨幣偽造罪ニ未遂犯アリヤ

曰ク單ニ貨幣ヲ偽造シ變造シタル罪ニ付キテハ未遂犯ナキコトハ第八十六條ヲ一讀シテ之ヲ知ルコトヲ得然レモ行使ノ場合ニハ未遂犯ヲ生スルヲ見ル即チ行使セントスルニ當リテ發覺シテ行使ヲ遂クル能ハサリシキハ是レ行使ハ未遂犯ナリ而シテ此場合ニハ法律ニ特別ノ規定ナキヲ以テ總則未遂犯ノ例ニ從テ行使者ノ受ク可キ刑ニ一等又ハ二等ヲ減スルナリ此減等法ニ據ルキハ或ハ奇怪ナル結果ヲ見ルコトアル可シ即チ偽造變造シテ未タ行使セサル者ハ一等ヲ減セラルニ止マルモ之ヲ行使セントシテ遂クル能ハサリシ者ハ即チ二等ヲ減セ

ラル(必ス二等ヲ減スト謂フニ非サルモ已ニ總則ニ於テ未遂犯罪ハ一等又ハ二等ヲ減スト云フヲ以テ二等減ノ場合ヲモ想像セサル可カラス)夫レ行使ニ着手シタル者ハ單ニ偽造變造シタルノミノ所爲ニ一步ヲ進メタルモノナリ而ルニ却テ偽造變造ノ刑ヨリ輕キハ是レ事ノ大小輕重ヲ轉倒セルモノト謂ハサルヘカラス然レモ正文ノ不完全ヨリ生スル所ノ結果ニシテ如何トモスルヲ得ス唯實際ニ當ラハ行使未遂ノ場合ニハ一等ノ外減スヘカラサルヲ記憶スヘキノミ否ラサルハ則チ彼此相牴觸シテ不都合ヲ見ル可シ

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

本條モ亦總則共犯ノ例外ナリ凡ソ從犯タルニハ豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シタルヲ要ス而ルニ本條ノ所爲ハ未タ豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シタル者ト爲スニ足ラス何トナレハ房屋ヲ給與スル者ハ

多クハ貨銀ヲ得ントスル自己ノ利慾ニ基クモノニシテ其偽造變造ハ敢テ知ル所ニ非ス從テ之ヲ以テ正犯ヲ幫助シタル者ト爲ス可カラサルハナリ然レモ貨幣ノ偽造變造ハ元來陰密ニ爲ス所ハモハニシテ其房屋ヲ給與スルハ所爲ハ自ラ非常ノ危險ヲ包藏スルモノナルヲ以テ立法者ハ從犯ハ所爲ト見做シテ之ヲ罰スルヲ規定シタルモハナリ從犯ハ素ト正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス而シテ本條ハ二等ヲ減ス蓋シ本條ノ所爲ハ純粹ノ從犯ニ非サルヲ以テ立法者ハ純粹ノ從犯ヨリ輕減スヘキノ至當ナルヲ信シタルニ由ル

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

本條ハ偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シキヲ規定シ而シテ輸入シテ行使シタル者ニ付テハ別ニ規定セスト雖モ其行使シタル者ハ偽造變造貨幣行使罪ノ刑ニ同シトノ意ヲ包含

偽造、變造ノ情ヲ知ル
ルモ行使シタル
ニシテ受取リタル
之ヲ行使スル時
如何ナルハ

スルヲ勿論ナリ

第二百九十條 偽造、變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタル者ハ
偽造、變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス
其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

本條ハ偽造、變造ニ關セサル者カ偽造、變造ノ情ヲ知リテ其貨幣ヲ受取
リ而シテ之ヲ行使シタル者ヲ罰スルノ條ナリ本條ニ付キ切要ニシテ
且直接ニ起ル所ノ問題ハ偽造、變造ノ情ヲ知リタルモ行使セサルハ意
思ヲ以テ之ヲ受取り而シテ後日ニ至リ惡意ヲ生シテ之ヲ行使シタル
ハ仍ホ本條ヲ以テ之ヲ罰スヘキヤト謂フト是ナリ予ノ思考スル所
ニ由レハ此所爲ハ本條ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得サルナリ元來本條ハ
罪ハ偽造、變造ノ情ヲ知リ且行使スルハ意思ヲ以テ之ヲ受取りタル
ヲ要ス若シ行使スルハ意思ヲク單ニ偽造、變造ノ情ヲ知リテ之ヲ受取
リタルハミナルハ本條ハ罪ヲ成サス第二項ニ其未タ行使セサル者

ヲ罰スルニ因リテ之ヲ知ルヲ得ヘシ夫レ偽造、變造ノ情ヲ知ルモ若
シ行使ノ意思ナクシテ之ヲ受取りタルハ害毒ヲ醸生スルノ危險ナ
クシテ從ヒテ本條第二項ニ於テ之ヲ罰スルノ必要ナシ其之ヲ罰スル
所以ノモノハ行使ノ意思ヲ以テ受取りタルモノヲ想像シタルモノニ
シテ行使ノ意思ヲ以テ受取りタルモノハ假令未タ之ヲ行使セサルモ
其危險大ナルモノアルヲ以テナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ本條ノ罪ヲ成
スニハ行使ノ意思ヲ以テ之ヲ受取りタルヲ要ス若シ行使ノ意思ナ
キハ本條ノ罪ヲ成サス乃チ本問ニ於テハ之ヲ受取ルノ初メハ行使
ノ意思ナクシテ後日ニ至リ惡意ヲ生シテ之ヲ行使シタルニヨリ本條
ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得サルナリ偽造、變造罪ニ付キ之ヲ行使スルノ
意思ナクシテ單ニ模造ニ止マリタルモノナルハ偽造、變造ノ罪ヲ成
サス他日惡意ヲ生シテ之ヲ行使スルモ偽造、變造行使罪ヲ成サ、ル

ヲ述ヘタリ偽造變造罪ニシテ尙ホ且然リ況ヤ本問題ニ於テヤ其行使ノ意思ナクシテ之ヲ受取り而シテ他日行使スルニ至ルモ本條ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得サルハ當然ノコトナラスヤ若シ是ヲモ尙ホ罰セントスルハ美術品ト爲サントシテ受取り而シテ他日之ヲ行使シタル者ヲモ罰セサルヘカラサルニ至ル豈斯ノ如キ不道理ノコトアラザヤ然ラハ則チ本問ノ場合ハ無罪カ若クハ詐欺取財ヲ以テ之ヲ罰スルハ外ナキナリ論者アリ曰ク貨幣ノ偽造變造ハ元來詐欺取財ノ罪ナリ而ルニ我立法者貨幣ノ偽造變造ヲ詐欺取財ト分離シテ此ニ特別ノ規定ヲ爲シタル以上ハ貨幣偽造變造ト詐欺取財トハ全ク別個ノ罪ニシテ相離隔セルモノナリ然ラハ則チ此ニ入ラザレハ彼ニ入レ此ニ於テ無罪ナレハ彼ニ於テ有罪トナスカ如キ或一部分ニ付キテ詐欺取財ヲ適用スルコトヲ得ス右例ノ受取ルノ初メ行使ノ目的ナクシテ後ニ至リ惡意

ヲ生シテ行使シタル者ハ本條ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得サレハ則チ全ク無罪ト爲サル可カラズ決シテ詐欺取財ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得ス若シ詐欺取財ヲ以テ之ヲ罰ストセシカ甚タ奇ナル結果ヲ生ス即チ第百八十五條第二項銅貨ヲ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ナリ此變造銅貨ヲ行使スルノ意思ヲクシテ受取り而シテ後日ニ至リ之ヲ行使シタル者ハ詐欺取財ナリトセハ其刑ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ナリ其長期ニ於テハ第百八十五條第二項ノ刑ヨリ長シ變造貨幣ヲ行使スルノ意思ヲクシテ受取り而シテ後ニ至リ之ヲ行使シタル者ノ刑ハ却テ行使スルノ意思ヲ以テ變造シ而シテ之ヲ行使シタル者ノ刑ヨリ重キハ何ソヤ豈不權衡不道理ノ甚タシキモノナラスヤ故ニ此場合ニハ詐欺取財ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得スト此論稍理アルニ似タリト雖モ未タ以テ正鵠ヲ得タリト爲スニ足ラス夫レ貨

美術品
シテ行使
シテ行使
シテ行使
シテ行使
シテ行使

幣偽造變造ハ其性質素ト詐欺取財タル可キモノナリ然レモ立法者貨幣ノ偽造變造ハ稍他ノ詐欺取財ニ異ナルハ點アルヲ認メテ詐欺取財中ヨリ之ヲ抽キ拔キテ貨幣ノ偽造變造罪ヲ特別ニ規定シタルニ過キスシテ其本然ノ性質ハ矢張詐欺取財ナリ然ラハ則チ或所爲ニシテ其特別ノ性質ヲ具フルヲナクシテ偽造變造ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得サルニ於テハ其本然ノ性質即チ詐欺取財ヲ以テ之ヲ罰ス可キモノナルヲハ法理ノ當然ナリトス然リ而シテ論者ノ所謂不權衡不道理ハ正文ノ不完全ヨリ生スル所ノ結果ニシテ此不權衡不道理ノ故ヲ以テ法理ヲ罔ス可カラサルナリ

ノ如何

的ヲ以テ受取リタル時ハ如何ニ處分スヘキヤ曰ク其貨幣ハ行使ノ目的ヲ以テ偽造セラレタルモノニ非スト雖モ已ニ取受ノ際行使ノ目的アルニ於テハ本條ヲ以テ之ヲ罰セサル可カラサルナリ

第九十一條 前條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

右二條ハ別ニ説明ヲ要セス

第九十三條 貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但シ其罰金ハ二圓以下ニ降ストヲ得ス

本條ハ貨幣ヲ取受スルノ初メハ其偽造變造ナルヲ知ラスシテ後ニ至リ之ヲ知リテ而シテ行使シタル者ヲ罰スルノ條ナリ本條ハ所爲ハ

(第九十一、二、三條) 第二編 第四章 第一節 貨幣ヲ偽造スル罪 二六五

本條ノ
詐欺ノ
取財
理由

元來盜ハ目的ヲ有スル者ニシテ純然タル詐欺取財ナリ何トナレハ已ニ偽造變造ノ貨幣ナルヲ知ルモ尙ホ之ヲ使用シテ他人ノ財物ヲ騙取シタル者ナレハナリ然レモ此所爲タル盜ハ則チ盜ナリト雖モ本是レ己レハ他人ヨリ受ケタル損害ヲ回復セントスルニ出テタルモノニシテ他人ヨリ受ケタル損害ヲ回復セントスルハ人情ノ免カルヘカラサル所ハモノナレハ他ノ普通ノ詐欺取財トハ自ラ異ナリテ重ク罰スヘカラサルハ情狀アルヲ以テ立法者ハ之ヲ詐欺取財罪トナサスシテ茲ニ特別ニ一罪トシテ之ヲ規定シタルナリ乃チ其刑ハ罰金ニシテ而モ他ノ罰金ト異ナリテ其行使シタル價額ノ二倍ヲ以テ標準トセリ故ニ二圓以下ニ降ストテ得サルモ其最高額ニ至リテハ際限ナキナリ本條ハ罰金ハ加重減輕ノ法ヲ適用スルヲ得サルナリ他ノ凡テノ刑ハ一般法定ノ加重減輕ヲ適用シ且裁判官ノ酌量ニ基ク減輕ヲモ用井ル

ヲテ許セレ本條ノ罰金ニハ裁判官ノ酌量ニ基ク減輕ハ勿論他ノ凡テノ加重減輕ヲ適用スルヲ得ス蓋シ其行使シタル價額ノ二倍ハ罰金ヲ科スルヲハ法律ノ命シタル確定不動ハモノニシテ事情ハ爲メニ左右シ得ヘキモノニ非サレハナリ

第二節 官印ヲ偽造スル罪

凡ソ印章ハ證據上ニ大ナル力ヲ與フル者ナリ官印ハ官ヨリ出テタル書類物件ナルヲ證シ私印ハ私人ヨリ出テタル書類物件ナルヲ證スル者ニシテ實ニ貴重スヘキモノナリ但シ印章ハ證據ヲ構成スル必要ノ元素ニ非スシテ印章ナキモ證據力ナシト云フニ非サレモ之ヲ偽造スル時ハ大ニ公衆ノ信憑ヲ害シテ其危害甚ク大ナリ是レ立法者ノ之ヲ公罪中ニ編入シタル所以ナリ而シテ印章偽造中(爰ニ印章ト云フハ第百九十六條ニイフ印章ノトニアラスシテ各種ノ印ヲ總稱シタル

モノナリ官印偽造ハ最モ重シ信用ヲ害スル罪ノ章中貨幣偽造ニ次キテ第二節ニ之ヲ置キタル所以ナリ

第百九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

本條ハ官印偽造罪中ニ於テ最モ重大ナルモノナリ然レモ實際之ヲ偽造スルモノ無カルヘシ又之ヲ偽造スルモ使用スルノ場合ナカルヘシ何トナレハ御璽國璽ハ立法行政ニ關シテ政府ニ屬スル文書ノ正本等ニ押捺スルモノニシテ人民ハ之ヲ見ルノ要ナク從ヒテ之ヲ偽造スルノ利益ナシ但シ此偽造ハ國務ニ關與スル者ノ手ニ出ツルノ恐ルニ似タレモ是レ亦然ラス國務ニ關與スル者ハ政府ノ信用ヲ受クル所ノ者ナレハ斯ル犯罪ヲ爲ス者アラサルヘケレハナリ然レモ將來外交ノ頻繁ナル或ハ萬一之レ無キヲ保スヘカラス是レ之ヲ缺如スヘカラスシテ苟モ刑法ノ完全ヲ得ント欲セハ之ヲ規定スルノ必要ヲ見ル是レ

本條ノ罪
構成ノ要件

本案ノ出テタル所以ナリ

御璽トハ天皇陛下ノ御印章ニシテ國璽トハ日本政府ノ印章ナリ本條ハ罪ヲ構成スルニハ左ノ三條件ヲ具フルヲ要ス

- 第一 御璽國璽ハ有形的偽造アルヲ要ス
- 第二 使用ノ意アルヲ要ス
- 第三 眞物ハ摸擬アルヲ要ス

第一御璽國璽ハ有形的偽造アルヲ要ス

有形的偽造トハ印章其物ヲ偽造スルコトニシテ即チ印願又ハ印影ヲ偽造スルヲ謂フ印願トハ印章ノ實物ニシテ印影トハ印願ヲ紙ニ押捺シタルモノナリ此印影亦偽造シ得ヘキモノナレハ本條ハ御璽國璽ハ偽造中ニハ獨リ印願ノミナラス印影ヲモ包含スト謂ハサルヘカラス

印影若クハ印願ヲ偽造スルニハ之ヲ使用スルノ意アルヲ要ス元來印章ヲ偽造スル者ハ必ズ之ヲ使用スルノ意アリト謂フ可カラス使用スルノ意ヲクシテ之ヲ摸造スル者アリ例ヘハ美術上ノ研究ノ爲メニ摸造スル者ノ如シ本條ノ罪ヲ成スニハ必ズ他ニ使用スルノ意思ヲ以テ之ヲ偽造シタルヲ要ス若シ其意思ナク單ニ美術上ノ研究ノ爲メニ摸造シタル者ノ如キハ本條ノ罪ヲ成サズ本條ノ偽造ニ使用ノ意アルヲ要スルハ恰モ貨幣偽造ニ行使ノ意アルヲ要スルト同一理由ナリ

元來本節ハ所爲ハ他ハ犯罪ノ豫備ナリ豫備ノ所爲ハ之ヲ罰セサルヲ以テ原則トスレモ然レモ本節ノ之ヲ罰スル所以ハ本節ノ所爲タル他ノ普通ノ豫備ノ所爲トハ其性質相異ナル點アルヲ以テナリ他ノ普通ノ豫備ノ所爲ト其性質相異ナルニ因リテ之ヲ罰ストハ云ヒ凡ソ豫備

ノ所爲ヲ罰セサルハ其背徳加害ノ果シテ罰スルニ足ル可キモノアルヤ否ヤヲ知ルヘカラサルニ由ルナリ故ニ特別ノ場合ニ於テ之ヲ罰スルニハ背徳加害ノ果シテ罰スルニ足ル可キモノアルヲ要スルナリ若シ罰スルニ足ル可キモノナキニ於テハ之ヲ罰スルヲ得サルナリ是レ本條ノ罪ヲ構成スルニハ使用ノ意思即チ惡事ニ使用スル意思ノ危険ヲ包藏シテ背徳加害ノ罰スルニ足ル可キモノアルヲ要スル所以ナリ

第三眞物ハ摸擬アルヲ要ス

偽造貨幣ノ眞貨ノ摸擬アルヲ要スルト同シク他人ノ見テ以テ眞實ノ印章ナリト信スル程ノ外形アルヲ要スル者ニシテ若シ眞物ノ摸擬ナクシテ一見以テ其偽造ナルヲ識別シ得ルモノナルモハ之ヲ偽造ト謂フヲ得ズ從ヒテ本條ノ罪ヲ成ササルナリ而シテ其摸擬ノ何レ

ノ程度ニ達スレハ真物ノ模擬アリト爲ストテ得ルヤニ至リテハ裁判官ノ認定ニ任ス裁判官ハ其印章ノ大小又ハ文字等ニ因リテ之カ決定ヲ爲スナリ

右三條件ヲ具備スルハ本條ノ罪ヲ構成ス若シ其一ヲ缺クハ本條ノ罪ヲ構成セス此元素ハ敢テ法文ニ表白セルニ非ス唯本條ノ罪ノ性質上自然ニ生出スル所ノ結果ナリ

御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用云々ト故ニ御璽國璽ヲ偽造シタル者ト其偽璽ヲ使用シタル者トハ同刑ニ處セラル然レモ單ニ御璽國璽ノ偽造即チ製造ニ止マリタル者ト製造シテ尙ホ且使用シタルモノト同刑ニ處スルハ果シテ正當ナルカ貨幣偽造罪ニ於テハ偽造シテ行使シタル者ト偽造ニ止マリテ未タ行使セサル者トテ區別シテ其刑ヲ異ニセリ本條ノ之ヲ區別セサルハ貨幣偽造罪ニ對シテ果シテ權衡其

如何ナル
場合ニ使
用アリヤ

宜キテ得タルモノナルヤ予ハ貨幣偽造罪ニ於ケル區別ノ如ク本條モ亦偽造シテ使用シタル者ト未タ使用セシテ偽造ニ止マリタル者トテ區別シテ其刑ヲ異ニスルノ道理ニシテ且正當ナルトテ信スルナリ再閱佛文章案ニハ之ヲ區別シ偽造シテ使用シタル者ハ無期徒刑ト爲シ偽造シテ未タ使用セサル者ハ有期徒刑ト爲シタリキ(第百二十八條)「偽璽ヲ使用シタル者トハ偽造者自ラ使用シタル場合ヲ指スノミナラス他人ノ偽造シタルモノナルトテ知リテ之ヲ使用シ又偽璽ヲ押捺シタル文書ナルトテ知リテ之ヲ使用シタル者ヲモ包含スルナリ此ニ注意スヘキハ使用ノ文辭是ナリ偽璽ヲ使用スルトハ如何ナルトテ謂フカ其自ラ偽造シタル御璽國璽又ハ他人ノ偽造シタル御璽國璽ヲ文書ニ押捺シタル時ハ之ヲ以テ偽璽ノ使用ト謂フ可キカ或ハ其偽璽ヲ押捺シタル文書ヲ他人ニ提供シ以テ利益ヲ得ント企テタル時ヲ以テ偽

璽ノ使用ト謂フ可キカ佛文草案ニハ「偽造印ヲ押シタル物品或ハ書キ物ヲ偽リ用非ルヲナス者」云々ト有リ因テ佛文草案ノ意ハ其偽璽ヲ文書ニ押捺シタルノミニテハ尙ホ未タ足ラスシテ其偽璽ヲ押捺シタル文書ヲ他人ニ提供シ以テ利益ヲ得ント企テタル時ヲ以テ偽璽ノ使用アリタリト爲シタルナリ知ラス佛文草案ノ意ハ直チニ取テ以テ本條ヲ解釋スルニ足ル可キ乎此問題タル實ニ重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ決シテ輕忽ニ附ス可カラサルナリ佛文草案ノ精神ハ上述フル所ノ如ク偽璽ヲ文書ニ押捺シタルノミニテハ尙ホ未タ其罪ヲ成サスシテ其罪ヲ成スニハ必ス其偽璽ヲ押捺シタル文書ヲ他人ニ提供スルヲ要スルナリ本條ハ佛文草案ノ文辭ヲ改メテ「偽璽ヲ使用シタル者」ト爲シタリト雖モ未タ之ヲ以テ佛文草案ノ精神ヲ變改セシ者ト謂フ可カラス抑本條「偽璽ヲ使用シタル者」トハ偽璽ヲ文書ニ押捺シタルハミ

ニテハ尙ホ未タ足ラスシテ其偽璽ヲ押捺シタル文書ヲ他人ニ提供シ其文書ヲ使用シタル者ナルトヲ要スルナリ然レモ徹頭徹尾此解釋ヲ墨守ス可カラス時ニ或ハ此解釋ヲ適用スルト得サル場合アラフ即チ偽璽ヲ押捺シタルノミニテモ尙ホ本條ノ所謂偽璽ヲ使用シタリト謂ヒ得ル場合無キニ非ス斯クノ如キ場合ニハ實際其文書ヲ他人ニ提供シ其文書ヲ使用セサルモ本條ノ罪ヲ成ス例ヘハ官廳ノ諸帳簿ニ偽璽ヲ押捺シタル場合ノ如シ然レモ元來帳簿ナルモノハ常ニ官廳ニ備ヘ付クル者ナレハ之ニ偽璽ヲ押捺スレハ他ノ偽璽ヲ押捺シタル文書ヲ使用シタルト同一ノ結果ヲ生ス故ニ此ノ如キ場合ニハ押捺ハ則チ使用トナルナリ要スルニ本條所謂偽璽ヲ使用スルトハ其押捺シタル物件ノ種類ニ因リテ其使用ト見做サルハ點ヲ異ニスルト知ラサル可カラサルナリ

本條ノ罪
ハ未遂及
ビ未遂

(第百九十五條) 第二編 第四章 第二節 官印ヲ偽造スル罪

二七六

本條ハ罪ハ如何ナル點ニ違スルトハ既遂ニシテ如何ナル點迄ハ未遂ナルヤノ問題ハ第二百條ニ至テ明了ヲ得ヘシ

第百九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲
役ニ處ス

本條ハ前條ノ偽造犯ニ比シテ其情稍輕シ前條ハ御璽國璽ノ偽造ニ係リ本條ハ各官署ノ印章ノ偽造ニ係リ而シテ實際偽造犯ノ現出スルハ本條ノ罪ナリ又實際害毒ヲ流スノ大ナルコトモ本條ノ偽造犯ナラン本條ノ其偽印ヲ使用シタル者トハ前條ト同シク獨リ偽造者カ自ラ其偽印ヲ使用シタル場合ノミナラス他人ノ偽造シタルモノナルコト知リテ之ヲ使用シ又偽印ヲ押捺シタル文書物件ナルコトヲ知リテ之ヲ使用シタル場合ヲモ含蓋スルナリ其他前條ニ就キテ爲シタル解釋ハ皆移シテ以テ本條ノ解釋ト爲ス可シ

官名ヲ刻
シタル官

茲ニ一問題アリ何省何局ト彫刻シタル者ハ無論官署ノ印章ニシテ之

吏ノ印
ハ之ヲ官
形
ハ之ヲ印
形
得ルカ
ヲト

テ偽造スル者ハ本條ノ罪ヲ成スハ明白ナレトモ官名ヲ刻シタル官吏ハ印章ハ之ヲ官署ノ印ト謂フコトヲ得ヘキヤ例ヘハ何官何氏名ト彫刻シタル印章ヲ偽造スル者ハ本條ノ罪ヲ成スヤ否ヤ凡ソ官署ノ權利義務ヲ生ズル場合ニハ多クハ官名ヲ刻シタル官吏ノ印章ヲ押捺スト云フ即チ何官何氏名ト刻シタル官吏ノ印章ハ何省何局ト刻シタル官署ノ印章ヨリ其効用多クシテ之ヲ偽造シテ詐欺取財ヲ爲サントスル者ニ在テハ官署ノ印章ヲ偽造スルヨリ寧ロ官吏ノ印章ヲ偽造スルヲ以テ利益アリト謂ハサル可カラス從ヒテ官吏ノ印章ヲ偽造スルノ徒多カ
ル可キヲ以テ官吏ノ印章ハ本條所謂官署ノ印中ニ入ル可キヤ否ヤノ問題ハ重大ノモノナル可シ已ニ本條ノ正面上官署ノ印ト云フニ於テハ氏名ヲ記シタル官吏ノ印章ハ之ヲ官署ノ印中ニ入ルコトヲ得サルカ如シ然ラハ之ヲ私印ト云フヤト云フニ官名ヲ記シタルモノハ私事ニ

(第百九十五條) 第二編 第四章 第二節 官印ヲ偽造スル罪

二七七

使用スルモノニ非サレハ之ヲ私印ト謂フヲ得サルヤ亦明ナリ之ヲ決スルヲ如何實際ノ例ヲ見ルニ官名ヲ刻シタル官吏ハ印ハ官署ハ印中ニ入レテ之ヲ偽造スル者ハ本條ヲ以テ之ヲ罰スル者ハ如シ是レ大ニ其理アルヲ見ルナリ蓋シ官名ヲ刻スル以上ハ一人ハ印章ニ非スシテ官吏ノ印章ナリ即チ官名ノ彫刻ハ職務ノ表章ニシテ職務ヲ表章シテ氏名ヲ刻スルハ是レ官署ヲ代表スル者ナリ即チ此印章ハ官署ヲ代表スル場合ニ之ヲ押捺スルモノナルヲ明ナリ已ニ官署ヲ代表スル場合ニ押捺スルノ印章ナルハ之ヲ官署ノ印章ト謂ハスシテ可ナラシヤ故ニ予モ亦官名ヲ刻シタル官吏ノ印章ハ本條所謂官署ノ印中ニ入レテ之ヲ偽造スル者ハ本條ヲ以テ之ヲ罰ス可キモノナルヲ斷言スルナリ

第九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ノ使用ノ意義

書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ハ官印偽造中最モ輕キ罪ナリ記號トハ官署ニ於テ產物若クハ商品等ニ附スル所ノ標識ヲ謂フモノニシテ印章トハ金銀細工物ノ品位ヲ保證スル爲メニ鑿槌ヲ用非テ打ツ所ノ記號ヲ謂フナリ本條ノ罪ヲ構成スルノ元素ハ第九十四條ニ於テ述ヘタル所ト同一ナレド第九十四條及ヒ第九十五條ト異ナル點ハ使用ノ意義ナリトス第九十四條及ヒ第九十五條ノ使用トハ偽印ヲ文書ニ押捺シタルノミニテ直チニ使用トナル場合ト其文書ヲ他人ニ提供シタル場合トヲ想像シタレド本條ノ使用ハ偽印ヲ押用シタル物品ヲ他ニ提供スルヲ要セス其押捺ハ直チニ使用トナルナリ蓋シ其偽印ヲ押用スルノミヲ以テ已ニ偽造ノ爲メニ自己ノ希望セシ所ノ不正ノ利益ヲ得ルヲ以テ本條第二項ハ無用ノ規定タルヲ免カレサルカ如シ本項ノ所謂記號印

章「トハ内閣文庫ノ印トカ或ハ何省圖書ノ印トカ云フカ如キモノニシテ斯ノ如キモノハ之ヲ偽造シ之ヲ押用スルモ偽造者押用者ニ於テハ更ニ利益ナクシテ從ヒテ之ヲ罰スルノ必要ナクシハナリ例ハ予カ書籍ニ何省圖書ノ印ト云フ印ヲ押捺スルハ予ニ於テ更ニ利益ナキノミナラス却テ損害ヲ來タスヘシ世豈斯ノ如キモノヲ偽造スル者アラヤ是レ本項規定ノ必要ナキ所以ナリ

第百九十七條

御璽國璽官印記號印章ノ影贋ヲ盜用シタル者ハ前數條

ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

盗用ノ解

本條ハ眞印ヲ盜用シタル者ヲ罰ス盗用トハ眞印ヲ盜ミテ不法ニ之ヲ押用シタルトヲ謂フ然レ眞印ヲ盜ミテ不法ニ之ヲ押用シタルハトテ未タ以テ本條ノ所謂盜用ト爲スニ足ラス本條所謂盜用トハ其押捺シタル文書ヲ他ニ使用シタルトヲ要スルナリ已ニ之ヲ盜捺シタルト

本條脱漏ノ第一

ハ未タ其文書ヲ使用セサルモ危害ノ暴發遠キニ非スシテ其危險甚ク大ナルヲ以テ直チニ之ヲ罰シテ不可ナルナキカ如シト雖モ然レハ前數條ノ使用トハ偽印ヲ押捺シタルノミニテハ尙ホ未タ足ラスシテ其偽印ヲ押捺シタル文書ヲ利用スルトヲ要スルトヲ述ヘタルヲ以テ權衡上本條ノ盜用モ亦其盜捺ノミニテハ尙ホ未タ足ラスシテ盜捺シタル文書ヲ利用スルトヲ要スルモノト解釋セサル可カラズ草案ノ意モ亦蓋シ此ニ在リ

本條ニハ脱漏アリ曰ク盜用ノ罪ハミテ規定シテ盜捺シタル文書ナルトヲ知テ之ヲ使用シタル者ノ罪ヲ規定セサルト是ナリ故ニ例ハハ人アリ官印ヲ盜ミテ或文書ニ押捺シ而シテ他人其盜捺ニ加功シタルニ非サルモ其情ヲ知テ之ヲ受取リ使用シタル者ハ之ヲ罰スルトヲ得サルナリ佛文案案及ヒ日本文文案ニハ之ヲ明記シタリ(草案第二百三

十三條而シテ本刑法之ヲ削除シタルハ予其何ノ故ナルヲ知ラサルナ
 又他ニ一ハ脱漏アリ即チ真正ノ官印ヲ押捺シタル文書ヨリ其影蹟ヲ
 切取リ而シテ他ノ偽造文書ニ貼附シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ其影蹟ヲ
 他ノ偽造文書ニ壓着シ以テ之ヲ使用シタル者ハ如キハ本條ハ所謂官
 印ハ影蹟ヲ盗用シタル者ト謂フヲ得サルヲ以テ之ヲ罰スルヲ得
 サルナリ草案ニハ此等ノ者及ヒ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ヲ罰ス
 ルノ條ヲ置ケリ(草案第二百三十三條)而シテ本刑法之ヲ削除セリ蓋シ
 スクノ如キノ變造ハ之ヲ爲スト太々難クシテ絶テ爲ス者アラサル可
 シト思惟シタルニ因ルナル可シト雖モ然レモ他日人智大ニ進歩シテ
 技術ノ巧妙ヲ極ムルヤ如何ナル工夫ヲ回ラス者アルヤモ亦未タ知ル
 可カラズ故ニ草案ノ條文ヲ存スルモ敢テ贅疣ニ屬セサルヲ信ス

本條ハ刑ハ偽造ノ刑ヨリ一等ヲ減スル所以ハモハハ何ソヤ本條ノ罪
 ハ眞印ヲ以テスルモノナルニ因リ人ノ之ヲ信スルヲ厚ク其偽造文書
 ナルヲ發見スルニ難クシテ從ヒテ害ヲ生スルヲ大ナリ其刑ヲ重ク
 スヘキノ必要アルモ輕クスヘキノ理由アラサルニ似タリ其レ然リ然
 レモ偽造ナルモ一旦之ヲ使用シテ其偽造ヲ發見セラレサルモハ復
 タ他ノ文書ニ利用スルヲ得ヘキモ本條ノ罪ハ若シ官印ノ監守者ニ
 シテ一層注意ヲ加フルモハ再度盜捺ノ防クヲ得ヘク且偽造ハ十分
 豫備ヲ爲シ多クノ時間ト勞力トヲ要スルモノナルニ因リ其惡意大ナ
 リト雖モ本條ノ罪ハ此等ノ時間ト勞力トヲ要セスシテ容易ニ犯スト
 ヲ得ルモノナレハ其惡意小ナリ是レ本條ノ刑ノ偽造ノ刑ヨリ其刑ヲ
 減輕シタル所以ナリ

第百九十六條第一項ハ印章ヲ盗用シタル者ハ本條ニ依リテ第百九十

六條第一項ノ輕懲役ニ一等ヲ減シテ重禁錮即チ輕罪ハ刑トナル然ルモ其罪ノ本質ハ重罪ナリヤ輕罪ナリヤト云フニ輕罪ナリ而シテ其理由ハ本條ノ罪ト偽造ノ罪トハ其罪ヲ構成スル事實ニ於テ異ナル所アリテ立法者ハ之ヲ一種ノ罪ト見做シタルニ由ルナリ此點ニ付テハ予ノ嘗テ屢詳述シタル所ナリ

本條ノ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シト規定シタルハ敢テ通常人ノ刑ニ一等ヲ加フルノ精神ニ非スシテ一個ノ別罪ヲ規定シタルモノナリ而シテ偽造ノ刑ニ同シト云ヒタルハ刑ヲ盛ルノ繁ヲ避ケタルノミ

第九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ印章偽造中ニアレハ偽造文書ノ性質ヲ有シ從ヒテ文書偽造ト

本條ノ罪ニ
當リ官印
ヲ偽造シ
タル時ハ
如何ニ處
分スルカ

云ヒ得ルカ如シ然レハ亦純然タル文書偽造中ニ入ル、ヲ得サルノ點アルヲ以テ立法者ハ之ヲ印章偽造中ニ入レタルナリ

本條ノ罪ヲ犯スニ當リ官印ヲ偽造シタルモ如何ニ之ヲ處分スヘキヤ今日ハ本條ノ罪ヲ犯スニ官印ヲ偽造スルノ必要モナクレハ他日印紙界紙郵便切手ノ制ノ變シテ之ヲ偽造スルニ官印ヲ偽造スルノ必要ヲ生スル場合ナキニ非ス此場合ニハ之ヲ數罪俱發ト爲スヤ將タ單ニ本條ノ罪ノミヲ成スヤ曰ク數罪俱發ト爲スコトヲ得ス何トナレハ官印偽造ハ本條ノ罪ノ構成元素ニシテ恰モ紙幣偽造ニ必要ナル官印ヲ偽造スルモ其官印偽造ハ之ヲ罰スルコトヲ得サルト同一一般ナレハナリ故ニ右ノ場合ニ於テハ單ニ本條ノ罪ノミヲ罰スルナリ

第九十九條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ已ニ一旦貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ノ消印ヲ洗滌シ

ヲ再ヒ貼用シタル者ヲ罰スルノ條ナリ而シテ本條ノ罪ヲ犯スニハ一々綿密ナル手數ヲ要スルニ因リテ甚々難シ又巧ミニ之ヲ爲シ遂クルモ此等ノ印紙郵便切手ノ價額極メテ僅少ナルニ因リ社會ニ及ホス害毒モ亦從ヒテ僅少ナリト是レ其刑ノ輕キ所以ナリ
貼用トハ貼附シタルノミニテハ尙ホ未タ足ラスシテ之ヲ使用シタル場合ヲ謂フナリ故ニ使用セントシテ消印ヲ洗滌スルモ又消印ヲ洗滌シテ之ヲ書類ニ貼附スルモ未タ使用セサルニ於テハ本條ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得サルナリ

第二百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
偽造ノ未遂トハ偽造ニ着手シテ未タ其偽造ノ成功セサル前ニ發覺シテ之ヲ遂クル能ハサル場合ニシテ使用ハ未遂トハ利益ノ目的ヲ以テ其偽造ハ文書ヲ官署又ハ私人ニ提供セントシテ其偽造發覺シ終ニ

目的ヲ達スルコト能ハサル場合ヲ謂フナリ(第百九十五條ノ解ノ末段參照)

第二百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
本條ハ説明ヲ要セス

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

文書偽造罪ハ範圍廣漠事實錯綜スルヲ以テ極メテ明晰ナル規定ノ存スル有ルニ非ザレハ其解釋ヤ不明其適用ヤ難濫ヲ感ス不幸ニシテ我刑法ノ本節以下各種ノ文書偽造ノ規定ハ明晰ノ規定ヲ缺ク是ニ於テ乎疑義難問湧發紛起シテ非常ニ錯雜ヲ極メ爲メニ之カ明解ヲ得テ釋然タルヲ得ルハ頗ル難シ然レモ予ハ成ル可ク詳細ニ成ル可ク明晰ニ解釋シテ着々肯綮ヲ得ント欲ス故ニ本節ヲ講スルニ先チ一般文書偽造罪ニ就キテ講述ス可シ

我刑法ハ第二編第四章ノ第三節乃至第五節ニ於テ文書ノ偽造ニ係ル罪ヲ規定シタリ然レモ其各條ハ行文甚々簡單ニシテ不明了ノ點甚カラス所謂文書偽造罪ナルモハ如何ナル罪ナルヤヲモ知ルヲ能ハス蓋シ我立法者カ文書偽造罪ノ定義ヲ明示セサルニ由ルモノニシテ爲メニ幾多ノ疑問ヲ生セシメ我刑法中最モ解釋ニ苦ムノ罪トナラシメタリ然レモ凡ソ立法者ハ法律ニ定義ヲ與フルトハ其欲セサル所ナリ何トナレハ法文ナルモノハ辭簡ニシテ意達スルヲ必要トスルモノニシテ彼ノ論說記文ノ如ク縷々敷延スルヲ得ル者ニ非ス而シテ僅々數言ノ間ニ人間百般ノ行爲ヲ含蓄セシムルハ大ニ難シトスル所ニシテ若シ明了ノ定義ヲ得タリト爲スモ往々脱漏瑕疵ヲ生シテ殆ト完璧ヲ得ヘカラスシテ却テ定義ヲ與ヘサルノ優レルニ若カストノ感ヲ起サシムルヲ免カレサルヲ以テナリ是レ立法者ノ容易ニ定義ヲ與ヘ

サル所以ニシテ我立法者ノ文書偽造罪ノ定義ヲ與ヘサルモ亦此ニ由ル歟然リト雖モ一般普通ノ法律ニ在テハ或ハ然ラン之ヲ以テ直チニ刑法ニ適用スヘカラサルナリ夫レ刑法ナルモノハ吾人ノ生命自由財產榮譽ノ諸權利ニ關スルモノニシテ吾人ノ一舉一動ハ刑法ノ支配ニ係ルモノト謂ハサル可カラス刑法ノ明不明ハ吾人ノ權利ニ影響ヲ及ホスト其レ如何ソヤ然ラハ則チ刑法ハ明晰ニ如何ナル所爲ヲ罰スルヤヲ確定セサル可カラス若シ其確定ヲ缺クハ吾人ハ如何ナル所爲ヲ行フトハ罰セラル、ヤヲ知ルヲ能ハス爲メニ安堵シテ業務ニ就キ實際ヲ爲ストテ得スシテ日夜惴々焉トシテ疑懼ノ思ヲ抱カサル可カラス豈危險ノ至リナラス乎故ニ刑法ニ在テハ立法者ハ何ソ漫然定義ヲ與ヘスシテ止ム可クン哉

我立法者ハ或ハ罪ノ定義ヲ與ヘタルノ處アリ而シテ我立法者ノ罪ノ

定義ヲ與フルヤ字句ノ關係行文ノ舛誤ノ間ニ其定義ヲ表彰セリ例ハ
竊盜罪ニ付キ第三百六十六條ニ於テ人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ
竊盜ノ罪ト爲シ云々ト規定シタルカ如シ或ハ罪ノ定義ヲ與ヘサルノ
處アリ是レ其關係甚タ簡ニシテ其意味甚タ明ニ別ニ定義ヲ要スル程
ノモノニ非サレハナリ其關係甚タ簡ニ其意味甚タ明ナルモノハ固ヨ
リ定義ヲ與フルノ必要ナクハ定義ヲ與ヘサレハトテ一概ニ缺典ナ
リ不明瞭ナリトハ斷言スヘカラスト雖モ然レモ罪其物ニヨリテハ其
範圍甚タ汎博其關係甚タ錯雜ニシテ明了ナル定義ヲ與ヘテ其範圍ト
其關係トヲ確定スルニ非サレハ則チ解釋スルヲ得スシテ又實際ニ
適用スルヲ得サルモノアリ文書偽造罪ノ如キハ其一ナリトス此等
ノ罪ハ最モ明晰簡潔ナル定義ヲ與ヘテ其範圍ト其關係トヲ限定セザ
ル可カラサルモノナリ而シテ我立法者ハ文書偽造罪ニ付キテハ途ニ

定義ヲ與ヘス其範圍其關係ヲシテ明瞭ナルヲ得セシメサルハ是レ
我刑法ノ大ナル缺典ト謂ハサル可ラス爲メニ種々ノ疑問ヲ紛起セ
シメ解釋者裁判官ヲシテ非常ノ困難ヲ感セシムルハ實ニ遺憾ノ事ト
謂ハサル可ラス今左ニ文書偽造罪ニ付キ生スル二三ノ困難ナル問
題ヲ研究セン

第一疑問 例ハ市町村役場ノ戶籍簿等ヲ偽造スルカ増減變換スル
カ又ハ毀棄スルカハ疑モナク第二百三條ヲ適用スルヲ得ヘシト雖
モ市町村役場ノ戶籍簿等ノ偽造變造ニ官文書偽造罪ノ第二百三條ヲ
適用スルヲハ明治廿三年十月八日法律第百號刑法中官廳官署ニ關ス
ル條項ハ公署ニ適用シ官吏ニ關スル條項ハ公吏ニ適用シ官ノ印文書
及免狀鑑札ニ關スル條項ハ公署ノ印文書及免狀鑑札ニ適用スルヲアル
ニ據ルナリ民事被告人裁判所ヨリ發セラレタル呼出狀ヲ受取リ而シ

文書偽造
罪ニ於ケ
ル規定ノ
間ニ於テ
疑義アリ
トシテ

裁判所ノ

呼出狀ヲ
毀棄シタ
ルモノハ
第二百三
條ノ罪ト
ナルカ

テ毀棄スルハ之ヲ官文書毀棄罪トシテ第三百三條ヲ以テ罰不可キ
ヤ之ニ付キテハ嘗テ實例アリタリ或裁判所ニ於テ民事被告人ニ對シ
テ呼出狀ヲ發シタルニ被告人大ニ原告ノ爲ス所ヲ憤リテ斯ル呼出狀
ヲ受クルノ理由ナシトテ之ヲ寸裂シテ火中ニ投セリ豫審判事ハ之ヲ
第二百三條官文書毀棄ノ罪ト見做シテ公判ニ移シタリト云フ夫レ第
二百三條ノ罪ハ其刑輕懲役ニシテ長期ハ八年ナリ而シテ服役アリ附
加刑アリ實ニ重シト謂ハサル可カラズ一片ハ呼出狀ヲ毀棄シタルハ
所爲此ノ如キ重キ刑ニ處スルハ吾人ノ感想果シテ其正當ヲ認ムルコ
ト得ルヤ幸ニ公判廷ハ無罪ノ言渡ヲ爲シタリ其理由トスル所ハ呼出
狀ハ固ヨリ官文書ナリト雖モ已ニ之ヲ被告人ニ渡シテ被告人ノ手中
ニ入りタル以上ハ官文書ノ性質ヲ失フテ被告人ノ私有物トナル私有
物ヲ毀棄スルニ何ノ罪カ之レ有ンヤト云フニ在リト云フ此理由果シ

呼出狀ヲ
毀棄シタ
ルモノハ
第二百三
條ノ罪ト
ナルカ

テ理アリトスルモ其受取ルト受取ラサルトハ間髪ヲ容レヌ一步進メ
ハ罪トナリ一步退クハ罪ナシ豈危殆ノ事ナラスヤ又之ヲ受取ルト受
取ラサルトヲ以テ或ハ官文書トナリ或ハ私文書トナルハ豈奇怪ノ事
ナラスヤ又呼出狀ナル者ハ正本ト謄本トアリテ正本ハ之ヲ被告人ニ
渡シ謄本ハ執達吏之ヲ持チ還ルモノナリ若シ正本謄本ヲ同一ニ破棄
スルハ謄本ハ私有物ナレハ罪トナラサレモ正本ハ官文書ナルヲ以
テ罪トナルモノトスルハ同一ノ所爲ヲ以テ同一ノ呼出狀ヲ破棄シ
タルモノナルモ其一部分ノミニ付キテ罪トナルモノト謂ハサル可カ
ラス是レ亦奇怪ノ事ナラスヤ而シテ執達吏ノ持チ還ル可キモノヲ破
棄シタルハトテ幾何ノ損害ヲ生スルヤ或ハ官憲ヲ蔑如スルノ所爲ア
リトスルモ之ヲ輕懲役ノ刑ニ處スルノ必要アリヤ夫レ吾人ハ固ヨリ
惡事ヲ爲スコトヲ欲セス常ニ汲々乎トシテ善事ヲ爲シテ唯及ハサラン

トテ恐ル、ト雖モ然レモ時ニ或ハ忿怒ノ餘リ呼出狀ヲ破棄スルカ如キ所爲アルハ往々免カレサル所ナリ而ルニ忽チ輕懲役ノ重刑ニ處セラル、アラハ吾人ハ何ニ依テ安堵シテ業務ニ就クトテ得シヤ予ハ古今ノ刑法ヲ通覽スルモ未タ此ノ如キ輕微ノ所爲ニ此ノ如キ重大ナル刑罰ヲ加フルヲ見サルナリ若シ我刑法ニ於テ之ヲ創設シタリトセハ我刑法ハ野蠻苛酷ノ極ト謂ハサル可カラス上ノ如キ重大ナル關係ニ付キ疑義ヲ生スル所以ノモノハ我立法者カ文書毀棄罪ノ定義ヲ與ヘサルニ由ルモノナリ是レ文書偽造罪ニ付キテ生スル難問ノ一ナリトス

想像ノ人
ヲ記入シ
テ證書ヲ
偽造シタ
ル時ハ本
法ハ如何
スヤ

第二疑問、我刑法ハ如何ナル場合ニ文書偽造アリト爲スヤト云フニ是レ亦大ニ不明瞭ナリトス例ヘハ大藏省ヨリ發行スル證券類ヲ偽造スルカ或ハ金錢借用證書ヲ偽造シタル者ノ如キハ固ヨリ各條規定ス

ル所ニ因リテ其文書偽造ナルト疑テ容レスト雖モ然レモ世ニ現在セサル想像ノ人ニ就キテ證書ヲ偽造シタル例ヘハ爲替手形ノ信用ヲ得ノカ爲メニ其裏書ニ數多想像ノ人ヲ記載スルカ如キ又爲替手形ノ振出人若クハ支拂人ニ付キ想像ノ人ヲ記入スルカ如キ所爲ハ決シテ無害ト謂フ可カラス若シ此偽造ノ爲替手形ヲ信用シテ通用スルトアラハ大ナル損害ヲ來タスアル可シ此等ノ所爲ハ之ヲ罰スルトテ得ルヤ否ヤ約言スレハ想像ノ人ヲ以テ證書ヲ偽造シタル者ハ罰否如何ト云フニ是レ實ニ不明瞭ナリトス又官吏カ其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シタルモハ之ヲ罰スルノ明條アリト雖モ今通常人カ官吏又ハ公吏ニ對シテ虚偽ノ陳述ヲ爲シ以テ無實ノ文書ヲ作ラシメタル例ヘハ生鬼ノ男子ナルヲ詐リテ女子ト陳述シ或ハ生存者ヲ死シタリト陳述シテ市町村役場ノ戸籍簿ニ無根ノ事實ヲ記入セシムル所爲ノ如キハ徵

文書トハ如何

兵ノ義務又ハ相續人ノ權利ニ重大ナル關係ヲ生スルモノナルニ因リ其害決シテ鮮少ニ非ス我刑法ハ之ヲ罰スルノ精神ナリヤ否ヤ文書偽造罪ノ各條ヲ通覽スルモ容易ニ之ヲ知ルヲ得ス蓋シ立法者カ定義ヲ掲ケテ如何ナル所爲ヲ罰スル者ナルヤヲ明示セサルニ由ルモノニシテ是レ文書偽造罪ニ付キテ生スル難問ノ二ナリトス

第三疑問、文書偽造罪ノ各條ヲ通覽スルニ文書トハ如何ナルモノハナリヤ文書其レ自身カ實ニ不明瞭ナリトス第二百三條ノ規定ヲ見ルニ其第一項第二項ニ「官ノ文書」ト記シタルハ一項二項共ニ同一ノモノナリヤ例ヘハ大藏省ヨリ發行スル所ノ證券類ヲ偽造スル如キハ疑モナク其第一項ノ所謂官文書ヲ偽造シタル者ナリト雖モ今若シ同シク大藏省ヨリ發行スル所ノ證券ニ係ルモ已ニ我所有ニ屬シタルモノ即チ公債證書ノ如キモノヲ毀棄シタルトハ其第二項ノ所謂官文書ヲ毀棄

シタルモノナルヤ自己所有ノ證券ヲ毀棄スルモハ社會ニ如何ナル損害ヲ及ホスヤ自己ノ權利ヲ損傷スルノ結果ヲ生スルニ止マリテ社會公衆ヲ害スルヲ無カル可シ又一方ヨリ見ル時ハ世人誰カ自己ノ財產ヲ組織シ自己ノ權利ヲ證明スル證書ヲ破棄シ以テ自己ノ損害トナル可キ所爲ヲ行フ者アラシヤ立法者ハ世人ノ絶テ行フヲナキ事柄又之ヲ行フアルモ社會ヲ害スルヲナキ事柄ニ付キテ規定スルヲナキハ誠ニ明白ナリ故ニ第二百三條第一項第二項ニ於テ同シク「官ノ文書」ト云ヘル同一ノ文辭ヲ用井タリト雖モ第二項ノ官文書ヲ毀棄スルトハ右ノ如キ私人ノ所有ニ歸シタル文書ヲ指スニ非サルヲ知ル可キノミ、若シ例ヲ換ヘテ大藏省所藏ニ係ル文書ヲ毀棄シタル時ハ其社會ニ損害ヲ及ホスヲ決シテ鮮少ニ非サルナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ同條ハ所謂官ノ文書トハ其第一項ハ官ヨリ發行スル文書ニシテ其第二項ハ官

ハ所管ニ係ル文書ト解釋セサル可カラス然レモ已ニ法文ノ表面同シク官ノ文書ト明記セルヲ以テ一方ハ之ヲ官ノ發行ニ係ル文書ト云ヒ一方ハ之ヲ官ノ所藏ニ係ル文書ト解釋スルハ果シテ如何ソヤ又第二百三條ニハ行使云々ト云フ行使トハ通用ニ置クト謂フヲナル可シ而シテ第二百八條ニハ私印ヲ偽造シテ使用シタル者云々ト云フ行使ト使用トハ果シテ同一ノ事柄ナルヤ將タ偽造文書ハ通用ニ置クト得ルモ偽造私印ハ通用ニ置ク可カラサルヲ謂フ歟此等ノ疑問紛々トシテ起リ殆ト其繁ニ堪ヘス是レ亦立法者カ文書偽造罪ノ定義ヲ與ヘテ其關係ヲ限定セサルニ由ルモノナリ

以上述フル所ヲ要約スル時ハ我刑法ニ於テ文書偽造罪トハ如何ナルモノナリヤ文書偽造罪ハ如何ナル場合ニ生スルヤ文書トハ如何ナルモノナルヤ此三點甚々不明瞭ニシテ爲メニ之ヲ實際ニ適用スルニ當

文書偽造罪ノ定義

ハ種々ナル困難ニ遭遇スルナリ然レモ裁判官タル者ハ法文ノ不明瞭ナルヲ以テ之カ裁判ヲ拒ムト得ス法學者タル者之カ解釋ヲ辭スルト得ス會辭スルト得サルノミナラス不明ノ法條ニ遇フ毎ニ概チ仔細ニ研究シ精密ニ解剖シ以テ法律ノ精神ノ在ル所ヲ探リ而シテ疑義ヲ排シ明確ヲ得ルハ則チ法學者解釋者タルモノ、當サニ務ムヘキノ事ト爲ス

文書偽造罪ノ講義ヲ爲スニ當リ之カ明解ヲ得ント欲セハ先ツ其原則ヲ説明セサル可カラス其原則ヲ説明セシニハ先ツ其定義ヲ與ヘサル可カラス定義明ニシテ而ル後原則自ラ明ニ原則明ニシテ而ル後各條ニ入ル時ハ各條ノ精神モ亦自ラ明ナルト得ヘシ佛國ノ法律博士フロースタンエリ、氏ノ著書ニ曰ク文書偽造罪ニ付キテハ何レハ國モ定義ヲ與ヘタルトナシ唯之ヲ與ヘント試ミタルハ北米合衆國ルイヂ

文書偽造
罪ノ構成
條件

ニヤ州ノ刑法草案ノ起草者リパンクス頓氏ハミナリ然レモ惜イ哉
同氏ノ定義ハ未タ完全ヲ得サリシト而シテ今日學者一般ニ憑據トス
ル所ノ定義ハ千八百十六年三月十五日千八百四十三年四月八日ノ大
審院裁判例ニシテ此裁判例ハ最モ完全ナル定義ヲ示シタリ曰ク文書
偽造罪トハ惡意ヲ以テ人ニ害ヲ與ヘ又ハ害ヲ與ヘ得可キ方法ニテ文
書ノ眞實ヲ變更スルヲ謂フト此定義ハ文書偽造罪ノ性質ヲ詳悉セル
モノニシテ實ニ完全善美ト謂フ可シ故ニ予モ亦今取リテ以テ我刑法
文書偽造罪ノ説明ノ材料ト爲サント欲ス

右ノ定義ハ左ノ三要素ヲ包含ス

- 第一 眞實ノ變更
- 第二 惡意
- 第三 害ハ生シ又ハ生シ能フ

眞實ノ變
更ノ區別

此三元素ハ則チ文書偽造罪構成條件ナリ故ニ若シ其一ヲ缺クトハ文
書偽造罪ヲ成サス今各條件ニ付キテ左ニ一々説明ヲ爲ス可シ

第一 眞實ノ變更

眞實ノ變更トハ有ル事ヲ無シトシ無キ事ヲ有リトスルコトニテ例ヘハ
生存者ヲ死亡者ト云ヒ子ノ生レタル事無キニ之レ有リト云ヒテ文書
ヲ造リタルカ如キ場合ニシテ若シ此眞實ノ變更ナキニ於テハ假令惡
意アルモ又實際損害ヲ生スルモ文書偽造罪ヲ成ストナシ何トナレハ
眞實ノ事ヲ記載シタルモノハ偽造ト謂フト得サレハナリ其眞實ヲ
變更スルニ付キテハ有形ト無形トハ別アリ左ノ如シ
一、有形的眞實ノ變更 有形的眞實ノ變更トハ例ヘハ成立セサル事實
即チ貸借ノ事實ナキニ借用證書ヲ造ルカ如キ或ハ成立セル文書例ヘ
ハ借用證書ノ月日員數氏名等ヲ變更スルカ如キ事ニシテ此等ハ有形

的ニ文書ノ眞實ヲ變更シタルモノナリ有形的眞實ノ變更ニ係ル文書ハ右ノ如ク債權者自ラ作ル所ノモノナルニ因リ其偽造ナルヲ鑑定人ヲシテ之ヲ證明セシムルヲ得ヘシ

二無形的眞實ノ變更 無形的眞實ノ變更トハ文書其物ハ眞實ニシテ文中合著セル事實ヲ變更シタルモノヲ謂フ例ヘハ公證人契約者双方ノ陳述ヲ聽キテ公正證書ヲ作り或ハ登記官吏登記簿ニ記入ヲ爲スニ當リ其陳述ニ反シタル事實ヲ記載スルカ如キハ其公正證書登記簿ノ記載ハ公證人登記官吏ノ手ニ成リタルニ因リ文書其物ハ眞實ナリト雖モ記スル所ノ事實ニ變更アリトス又市町村長カ男子出産ノ届出アルニ際シ戸籍簿ニ女子ト登録アルカ如キハ市町村長ノ自書ニ係ルヲ以テ文書其物ハ眞實ナリト雖モ記スル所ノ事實ニ變更アリトス又甲乙ト契約ヲ爲シ甲ハ乙ノ依頼ニヨリテ契約書ヲ作ルニ當リ乙ノ文盲

文章ノ偽造トハ如何

ナルヲ奇貨トシテ其契約ニ反シタル事實ヲ記入シテ之ニ示シ以テ捺印セシメタルカ如キハ契約書其物ハ乙ノ捺印アルヲ以テ眞實ナリト雖モ記スル所ノ事實ニ變更アリトス此等ノ場合ニハ文書其物ハ眞實ニシテ完全ナルモ記スル所ノ事實ニ變更アルヲ以テ無形的眞實ノ變更ナリトス此無形的眞實ノ變更ハ鑑定人ハ鑑定ニ因リテ證明スルヲ得サルナリ

以上ノ如ク眞實ノ變更ニ二種アリ而シテ此ニ注意セサル可カラサルヲハ文章ノ偽造ト文書ノ偽造トヲ混ス可カラサルト是ナリ例ヘハ甲男ヨリ乙婦ニ贈リタル艶書ヲ偽造シテ姦通罪ノ證據ト爲スカ如キハ文書偽造トナルヲアル可シト雖モ單ニ艶書ノ文章ノミヲ偽造シテ之ヲ新聞紙ニ掲ケタルカ如キハ文書偽造ト爲ストヲ得ス其形跡太ク有形的眞實ノ變更ニ類似スト雖モ其實然ラサルナリ元來文書偽造罪ニ

ハ文書ノ現存スルヲ要ス若シ文書無キニ於テハ之ヲ文書ヲ偽造シ
タリト謂フヲ得サルヲ以テ文書偽造罪ト成ラサルヲ當然ナリ即チ
文章ノミヲ偽造シタルモノハ文書ノ現存スルヲナキヲ以テ決シテ文
書偽造罪ヲ成スヲ得サルナリ

眞實ノ變更アリテ且他ノ二元素ヲ具備スルハ其變更ノ有形無形タ
ルヲ問ハス文書偽造罪ヲ成ス但シ官文書私文書ニ付キ區別アリ後ニ
説明スヘシ

今眞實ノ變更ナキハ文書偽造罪ヲ成サ、ルノ例ヲ示サン甲者嘗テ
乙者ニ金ヲ貸與シ證書ヲ領收シタルモ其證書ニハ乙者ノ印影ナキヲ
以テ其後屢捺印ヲ要求スレト乙者毫モ應セサルニ因リ甲者憤懣ニ堪
ヘス一日乙者ニ酒ヲ飲マシメ其醉フテ精神錯亂セルニ乘シ乙者カ懷
ニスル所ノ印願ヲ出シテ該證書ニ捺印シタリ斯ノ如キハ之ヲ文書偽

眞實ノ變更
ニ關スル
制限

造罪トナス可カラス何トナレハ眞實ノ事ニシテ事實ニ變更ナケレハ
ナリ

然レハ眞實ノ變更ニ付キテハ制限ケルヲ知ラサル可カラス眞實ノ
變更アル時ハ絶對的ニ文書偽造罪ヲ成スト謂フ可カラス佛國刑法ハ
文書偽造罪ノ定義ヲ與ヘサルモ其偽造ノ方法ニ付キテ規定スル所ア
ルカ故ニ如何ナル眞實ノ變更アルハ罪トナルヤヲ知ルヲ得之ニ
反シテ我刑法ハ其方法ヲモ示サ、ルヲ以テ茫漠トシテ其範圍ヲ知ル
ヲ得ス實ニ遺憾ト謂フ可シ然レハ文書偽造罪ノ性質トシテ左ハ二
個ノ制限ニ遵ハサル可カラス因テ文書偽造罪ヲ成スニハ左ノ二個ノ
限内ニ在ルモノヲラサル可カラス
一眞實ノ變更ハ事ヲ證明スルニ足ル可キ文書ニ於テ爲サレタルヲ
要ス

所謂事ヲ證明スルニ足ル可キ文書トハ廣ク之ヲ解釋セサル可カラス故ニ夫ノ公證人又ハ市町村長ノ面前ニテ虛偽ノ陳述ヲ爲シ以テ文書ヲ作ラシメタルカ如キハ其文書ハ十分ニ證據トナル可キモノナルヲ以テ無論文書偽造罪ヲ成ス而シテ證據ノ端緒トナル可キ書類即チ借金ヲ陳謝シタル書狀ノ如キモノヲ偽造スルモ亦罪トナル何トナレハ此等ノ書狀ハ本ト借金ヲ證明シ得可キノ性質ヲ有スル所ノモノナレハナリ斯ノ如ク事ヲ證明スルニ足ル可キ文書ヲ偽造スル時ハ文書偽造罪ヲ成ス之ニ反シテ事ヲ證明スルニ足ラサル文書ナル時ハ假令眞實ニ違ヒタル事實ヲ記載スルモ罪ト成ラサルナリ故ニ夫ノ訴訟關係人カ裁判官ノ面前ニテ虛偽ノ陳述ヲ爲シ而シテ書記ノ調製シタル調書ニ捺印シタルカ如キハ其調書ハ固ヨリ確實ノ證據ト成リ得可キカ如クナルモ之ヲ文書ヲ偽造シタリト謂フ可カラス何トナレハ調書ハ

陳述ヲ筆寫シタル迄ニシテ其證據トナルノ點モ唯訴訟關係人カ斯ク々々ノ陳述ヲ爲シタリト云フコトヲ證明スルニ過キス其陳述中ニ含ミタル事實ノ眞偽ヲ證明スルモノニ非サレハナリ再言スレハ調書ハ文書ニ相違ナキモ其實訴訟關係人ノ言論ナリ言論ハ如何ナル虛偽アルモ決シテ文書偽造罪ト成ラス因テ調書ハ公證人又ハ市町村長カ依頼人ノ陳述ヲ聽キテ作りタル文書ノ如キ者ニ非サルナリ又例ヘハ子ハ財產家タル名譽ヲ博センカ爲メニ無實ノ人ヲ作爲シテ予ニ差入レタル借用證書ヲ數通偽造シタリトセンニ個ハ眞實ノ變更アリト雖モ文書偽造ニ非ス何トナレハ此證書ハ財產家タルコトヲ證明スルニ足ル可キカ如シト雖モ元來此證書ヲ造リタルハ財產家タルコトヲ證明スルカ爲メニ非スシテ唯之ヲ人ニ示シテ其富ニ誇ラントスルノ外目的アラサルヲ以テナリ斯ノ如キ類例ヲ擧ク來レハ頻々トシテ枚擧ニ違アラ

ス而シテ此等ハ事ヲ證明スルニ足ル可キ文書ニ非サルヲ以テ之ヲ造
 ルモ文書偽造罪トナラス文書偽造罪トナルニハ必ス事ヲ證明スルニ
 足ル可キ文書ナラサル可カラズ
 二、眞實ノ變更ハ關係人ノ知ラサル時ニ於テ爲サレタルヲ要ス
 眞實ノ變更アリト爲スニハ此條件ヲ必要ト爲ス若シ關係人ノ知リタ
 ル時ニ爲シタルモノハ所謂眞實ノ變更ニ非ス故ニ例ヘバ予ト某ト百
 俵ノ米ノ取引契約ヲ爲シ而シテ公正證書ヲ公證人ニ求ムルニ當リ予
 ハ千俵ノ取引契約ナルヲ陳述シタルニ某黙シテ之ヲ拒マス遂ニ千
 俵ノ公正證書ヲ授受シタルカ如キ又貸借契約ニ付キ債主負債主ノ面
 前ニテ其借用證書ノ金員若クハ月日ヲ變更シタルニ負債主ノ之ヲ拒
 マサルカ如キ場合ニハ眞實ノ變更アリト雖モ文書偽造ト爲スヲ得
 ス何トナレハ關係人ニ於テ其變更ヲ知テ之ヲ拒マサルハ其變更ヲ認

代理者ニ印
 紙捺シ
 捺シ
 之者ニ
 印
 外ニ
 記載
 如何
 時

諸シタルモノト看サル可カラサレハナリ
 今一步ヲ進メテ論センニ茲ニ甲者乙者ニ或事ハ代理ヲ委任スルニ自
 ラ委任狀ヲ作ラシテ己レハ印ヲ捺シタル白紙ヲ乙者ニ與ヘ乙者
 ヲシテ委任狀ヲ作ラシメタリ而ルニ乙者ハ其白紙ナルヲ奇貨トシテ
 委任權外ノ事件ヲ記載シタリ乙者ハ實ニ信實ヲ變更セリ以テ
 文書偽造ト爲ストヲ得ル乎一見スル時ハ自ラ委任狀ヲ作ラシテ捺
 印シタル白紙ヲ與ヘタルヲ以テ委任權外ノ事件ヲ記載セラル、トハ
 豫知セサル可カラズ隨ヒテ其生シタル結果ニ付キテハ責任アルトテ
 自認セサル可カラス乙者ハ甲者ノ知ラサルニ乘シテ眞實ヲ變更シタ
 リト謂フヲ得ス即チ文書偽造ト爲ストヲ得サルカ如シ此問題タル
 實際太々緊要ノモノナリ若シ乙者ノ所爲ヲ以テ文書偽造ニ非スト爲
 スカ乙者ノ第三者ト爲シタル契約ハ有効ニシテ其損失ハ甲者ノ責ニ

歸セサル可カラス若シ文書偽造ト爲スカ乙者第三者ト爲シタル契約ハ無効ニシテ甲者ハ損失ノ責ニ任スルヲ要セス例ヘハ甲者乙者ニ家屋ノ賃貸ノ事ヲ委任スルニ當リ其委任狀ニ供センガ爲メニ捺印シタル白紙ヲ與ヘタルニ乙者ハ家屋賃貸ノ委任ヲ記セスシテ家屋賣却ノ委任ヲ記シテ而シテ第三者ト賣買契約ヲ爲セリ此場合ニ於テ乙者ノ所爲ヲ文書偽造ト爲スルハ乙者ノ第三者ト爲シタル賣買契約ハ無効ニシテ甲者ハ直チニ第三者ヨリ該家屋ヲ取戻スヲ得可ク第三者ハ空シク其家屋ヲ奪却セラレテ僅ニ乙者ニ對シテ損害賠償ヲ請求スルヲ得ルニ過キス若シ文書偽造ニ非スト爲スルハ乙者ノ第三者ト爲シタル賣買契約ハ有効ニシテ第三者ハ正當ニ該家屋ノ所有者トナリ甲者ハ乙者ニ對シテ損害賠償ヲ請求スルヲ得ルニ過キス夫レ斯ノ如ク至大ノ關係ヲ有スル問題ナルヲ以テ之カ斷定ヲ爲スニハ最モ慎

重ヲ加ヘサル可カラサルナリ佛國刑法第四百七條ハ之ニ付キ正條ヲ設ケテ背信罪ト爲シタルニ因リ明白ナリト雖モ我刑法ハ固ヨリ明文ナシ如何ニ之ヲ斷定スヘキヤ論者或ハ云フ甲者ノ乙者其人ヲ信用シテ捺印シタル白紙ヲ與ヘタルハ己レノ權利ノ幾分ヲ分與シタルモノニシテ其生シタル結果ニ付キテハ責ニ任スルヲ自認シタル者ト謂ハサル可カラサルニ因リ乙者ハ甲者ノ信用ニ背キタルノ罪アルモ文書偽造ト謂フヲ得ス現ニ草案ハ之ヲ背信罪ト爲シタリト草案第四百三十八條予以爲ラク然ラス乙者ハ甲者ノ知ラサルニ乘シテ爲シタルニ非ス乎甲者ハ固ヨリ幾分ノ過失ナキニ非スト雖モ本賃貸ノ事ヲ委任シテ賣却ノ事ヲ委任セス豈乙者ト第三者トハ賣買契約ノ結果ノ責ニ任スルヲ想像センヤ是レ乙者ハ甲者ノ知ラサルニ乘シテ爲シタルニ非スシテ何ソヤ因テ法律ニ明文ナキ限りハ乙者ノ所爲ハ文書

偽造ト爲サ、ルヲ得サルナリ
以上所述ヲ約言スルハ眞實ハ變更ニハ有形ト無形トハ二種アリ而シ
テ文書偽造ト爲ルニ付キ眞實ハ變更ニ二個ノ制限アリ第一其變更ハ
事ヲ證明スルニ足ル可キ文書ニ於テ之ヲ爲シタルトテ要シ第二其變
更ハ關係人ノ知ラサルニ乘シテ之ヲ爲シタルトテ要スト云フニ在リ
第二、惡意

凡ソ犯罪ヲ構成スルニハ犯意アルヲ要シ犯意ナキノ所爲ハ之ヲ論
スルコト無シ但シ無意犯ハ犯意ナシト雖モ之ヲ罪スルコト有リ然レモ是
レ例外ノ場合ニ屬シ犯罪ノ多クハ凡テ犯意アルヲ要スルナリ此犯
意ハ各本條規定ノ罪ヲ犯スノ意ト解スヘキ者ナルヲ以テ所謂犯意ハ
犯罪ノ種類ニヨリテ各異ルモノトス(上卷第七十七條五六五頁以下參
照例ヘハ殺人罪毆打罪ノ如キハ人ヲ殺スノ意毆打スルノ意アレハ即

文書偽造
者ニ惡意
ヲ要スル
理由

チ罪トナリ別ニ特種ノ意思ヲ有スルコト無ク唯故意ノミニテ罪トナル
然レモ犯罪ノ種類ニヨリテ故意ト或目的ヲ達セントスルノ意思ト符
合シテ所謂犯意ヲ成スモノ有リ例ヘハ貨幣偽造罪ノ如キ即チ是ナリ
貨幣偽造罪ナル者ハ曾テ一言シタルカ如ク之ヲ構成スルニハ貨幣ヲ
偽造スルノ意アルノミナラス尙ホ特種ノ意思即チ偽造シテ以テ人ヲ
害スルノ意アルヲ要ス今此ニ論スル所ノ文書偽造罪ナル者モ亦夫ノ
貨幣偽造罪ト同シク文書ヲ偽造スルノ意アルノミナラス偽造シテ以
テ人ヲ害スルノ意即チ惡意アルトテ要スルナリ故ニ惡意ナクハ偽
造スルモ犯罪ヲ構成セサルナリ
何故ニ文書偽造罪ニハ惡意ヲ必要トスルヤ曰ク元來文書偽造罪ナル
者ハ或目的ヲ達セントスルニ必要ナル一箇ノ手段ニシテ或ハ人ノ名
譽ヲ毀クントスル目的ニ出テ或ハ他人ヨリ財物ヲ得ントスル目的ニ

出テ或ハ其他ノ目的ヲ達セシトスルニ出ツル有リト雖モ要スルニ一箇ノ罪ヲ構成スルニ必要ナル豫備ノ所爲ナリ豫備ノ所爲ハ之ヲ罪セサルヲ原則トス例ヘハ人ヲ殺サントシテ兇器ヲ購求シタル所爲ノ如シ是レ即チ殺人罪ノ豫備ノ所爲ナリ此豫備タル法律上ヨリ觀ルルハ何ノ爲メニ豫備シタルモノナルカ固ヨリ得テ知ル可カラス故ニ法律ハ之ヲ罰スルヲ無シ然レモ或ル所爲ハ一罪ノ豫備タルニモ拘ハラシ必要アル時ハ之ヲ罰スルヲ得サルニ非ス例ヘハ貨幣ノ偽造ノ如キ是レ亦一ノ豫備ノ所爲ナリト雖モ法律ハ之ヲ罰スルナリ(第百八十六條)之ヲ罰スルハ豫備ノ所爲トシテ罰スルニ非ス一罪トシテ之ヲ罰スルナリ即チ豫備ハ罰セストイフ原則ノ例外トシテ之ヲ罰スルナリ女書偽造罪モ亦之ト同シク豫備ハ罰セストイフ原則ノ例外トシテ之ヲ罰スルナリ既ニ女書偽造罪ハ例外トシテ之ヲ罰スル時ハ之ヲ例外ト

スル所以ハ者ナカル可カラス是レ即チ女書偽造罪ハ單々之ヲ偽造スルトイフ故意アルノミナラス惡意即チ人ヲ害スルトイフ意思カ之ニ附着シテ始メテ罪ト爲ル所以ナリ是レ女書偽造罪ニ惡意ヲ要スルノ理由ナリトス
 惡意即チ人ヲ害スルノ意思ハ其目的唯他ヲ害スルハミニ非スシテ自己ヲ利シ若クハ他人ヲ利スルハ目的ニテ他ヲ害スルトモ之レ有ル可ク何レノ場合ニテモ結局人ヲ害スルハ意思アレハ女書偽造罪構成ノ一原素タル惡意トナルナリ又惡意ハ或ハ他人ノ財産ヲ害スルヲ目的トスルヲ有リ或ハ名譽ヲ害スルヲ目的トスルヲ有リ 又人ヲ害スルトハ只一私人ノ權利即チ私益ヲ害スルノミヲ指スニ非ス社會ノ權利即チ公益ヲ害スルヲ目的トスルヲ有リ例ヘハ旅行免許狀ノ偽造ハ一私人ノ財産又ハ名譽ヲ害スルニアラサレモ公益ヲ害スルモノナリ

狩獵免許狀ヲ偽造スルハ公益即チ社會ノ警察權ヲ害スルノミナラス
 社會ノ私益即チ財産上ノ利益ヲ害ス何トナレハ免許狀ヲ偽造シテ免
 許料ヲ拂ハサレハ社會ノ私益ヲ害スルモノナレハナリ又大藏省ノ或
 文書ヲ偽造スルカ如キ是レ全ク社會ノ私益ヲ害シタル者ナリ一見ス
 レハ公益ヲ害シタルニアラサルヤノ疑ナキ能ハサレ此ノ如キ官有
 財産上ニ關スルトハ皆私益ニ關スルノ害ナリト知ル可シ
 既ニ論シタルカ如ク文書偽造罪ニハ惡意アルトテ要ス惡意ナクハ
 其結果ノ如何ナルニ拘ハラス文書偽造罪トハナラサルナリ惡意ナキ
 文書ハ偽造ハ其例實ニ鮮シ何トナレハ戲ハニ文書ヲ偽造シ以テ樂ミ
 ト爲ス呆漢アルト稀ナレハナリ然レモ不動産ノ所有者アリ或人其不
 動産ノ賣却ヲ慫慂シテ止マス所有者之ヲ拒絕スルノ辭ニ窮シ其不動
 産ヲ他人ニ賣却シタルノ證書ヲ偽造シ併セテ之ヲ登記シタルカ如キ

ハ惡意ナキ文書ノ偽造ナリト謂ハサル可カラズ又或一部ノ人民カ政
 府ニ建白スルニ當リ他郷ニ滞留スル某ヲモ連署セシムルノ必要ニ際
 シタルニヨリ其者ノ印章ヲ偽造シテ終ニ其建白書ニ署名捺印シタリ
 是レ亦惡意ナキ偽造ノ一例トスルニ足ルヘシ然レモ建白書ノ一例ハ
 其建白ノ如何ニヨリ建白人カ不利益ヲ被ムル時即チ其建白ニヨリ政
 府ニ於テ建白者ヲ逮捕スルカ如キ利害ヲ有スル場合ナル時ハ偽造者
 ハ罪ナキニ非サルナリ又尙ホ一例ヲ舉ケンニ公證人カ契約者雙方ノ
 歸リシ後其帳簿ニ日附ヲ脱シタルヲ發見シテ之ヲ記入シタルカ如キ
 或ハ契約者ノ陳述ノ儘ヲ記載シタルモ價額非常ニ廉如何ニシテモ陳
 述ノ錯誤ト信シテ數字ヲ書キ加ヘタル所爲ノ如キ若シ公證人ノ所爲
 カ契約者ノ意思ニ反スル時ハ生スル所ノ害實ニ大ナリト雖モ惡意ナ
 キヲ以テ罪トナラス又公證人ニ關シタル一例ヲ舉ケンニ聞ク公證人

カ依頼事件ヲ帳簿ニ記入スルニハ一事件ノ次ニ他ノ事件ヲ記シ曾テ
 空處ヲ存スルヲ得ス若シ空處ヲ存スル時ハ處罰セラレ、ト有リト今
 公證人カ如何ナル錯誤アリテカ多クノ事件ヲ記入スルニ當リ一ノ空
 處ヲ存シタルトテ後ニテ發見シ其處罰ヲ恐レテ一ノ想像事件ヲ構造
 シテ其空處ヲ填充シタリトスレハ此所爲タル第二百五條ノ官吏其管
 掌ニ係ル文書ヲ偽造シタル罪ニ該當スルカ如ク見ユレモ惡意ナキニ
 ヨリ亦罪トナラサルナリ要スルニ惡意即チ公益又ハ私益ヲ害スルハ
 目的アリテ犯シタルニアラサレハ假令他ノ條件ヲ具備スルモ所謂文
 書偽造罪トハナラサルナリ

第三 損害アルト又ハ損害ノ生シ得ヘキト

一ノ所爲カ犯罪トナルニハ社會ヲ害シタル者ナラサル可カラズ其害
 ニハ犯罪ノ種類ニヨリ多少アリ或ハ公益ト私益トノ區別アリト雖モ

要スルニ損害ナキ所爲ハ犯意アリテ爲シタルニモセヨ罪トナラサル
 ナリ然リ而シテ其損害ナルモノハ必スシモ現ニ生シタルヲ要セス公
 益私益カ害セラレ可キ地位ニ立ツト即チ社會ニ損害ノ生シ得ヘキ場
 合ニハ罪トナルナリ例ヘハ或商人己レノ振出シタル爲替手形ノ信用
 ヲ博センカ爲メ裏書人トシテ多クノ想像人ヲ署名シタリ(元來爲替手
 形ノ如キ裏書ニテ流通スル者ハ其裏書人ニ有力ノ者多キニ隨ヒテ信
 用ヲ増ス者ニテ或ハ表面ノ金額ヨリ多ク流通スルト間々之レ有ルナ
 リ是レ裏書人ハ保證人ノ地位ニ立ツテ以テナリ)此場合ニ於テ金額ノ
 支拂期限ニ至リ支拂人差支ナク金額ヲ受取人ニ渡スルハ其所爲ハ何
 人ヲモ害セス即チ實害ヲ生スルト無キヲ以テ罪トナラサルカ如キモ
 大ニ然ラサル所ノ者アルナリ蓋シ此場合ニハ幸ニシテ裏書人ニ金額
 ノ支拂ヲ請求スルノ必要ヲ生セサリシカ若シ不幸ニシテ支拂人及ヒ

其商人カ支拂期限前ニ無資力トナルカ或ハ支拂期限ニ至リテ差支アル時ハ勢ヒ受取人ハ裏書人ニ對シテ支拂ヲ請求スルノ必要ヲ生ス可シ此場合ニハ果シテ損害ヲキカ裏書人ハ想像ノ人ナリ想像ノ人ハ支拂ヲ爲ス能ハス即チ受取人ノ損害尙少カラシヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ商人ノ所爲ハ社會ヲ害スヘキ地位ニ在ルモノニシテ危險云フ可カラサル者アリ即チ損害ノ生シ得ヘキ所爲ナルヲ以テ罪トナルナリ。此ニ又一例アリ予或人ニ金ヲ貸與シ證券ヲ受取リタリ後日之ヲ閱覽スルニ義務ノ原因ヲ記載セサルヲ以テ大ニ後來ヲ思慮シ要用有之無據恩借等ノ文辭ヲ挿入シテ原證書ヲ變造セリ此場合ニハ如何ホト予ニ惡意アリトスルモ或ハ文書偽造ノ實アルニモセヨ此等文辭ノ有無ハ權利義務ニ關係ヲ有セス即チ害ヲ生シ得可キ者ニアラサレハ罪トナラサルナリ

文書ヲ偽造スルモ其効力無効ナリ

損害トイフハ、付キ區別スヘキモノハ有リ、蓋シ損害ニ種々アリテ財産上ニ及ホスモノハ其損害明白ナリ例ヘハ借金證書ヲ偽造スレハ是レ明ニ被害者ノ財産上ノ權利ヲ害シタル者ナリト雖モ公益ヲ害スルカ如キ又ハ人ノ名譽ヲ害スルカ如キ財産以外ノ損害ハ之ヲ知ルト易キニアラス例ヘハ文書ヲ偽造シテ人ノ名譽ヲ毀クタル所爲ハ單ニ被害者ノ名譽權ヲ害スルノミナラス其他ノ損害モ生スルヲ有ルヲ以テ財産以外ノ損害ニ付キテハ各事件ニ對シ損害ノ存スル所ヲ調査セサル可カラス凡ソ裁判宣告書ニハ損害ノ何タルトテ明白ニ記載セサルカラス若シ明白ニ記載ナクハ理由ヲ附セサル裁判トシテ大審院ハ破毀スル所トナル可シ

損害ニ關シ一ノ難問アリ文書ヲ偽造スルモ其文書カ無効ノ者ナル時ハ罪トナルヤ否ヤ此問題ノ決定ニ關シテ種々ノ議論アリト雖モ予ノ

ハナル時
如何

決定ハ正サニ下ノ如シ即チ偽造ノ文書カ性質上ヨリシテ不成立ハ者
ナル時タトヘハ契約ノ目的物ヲキ證書ヲ偽造スルモ契約ハ當然無効
ニシテ固ヨリ民事上ノ結果ヲ生スヘキ理ナキヲ以テ其證書ハ素ヨリ
無効ナリ無効ノ證書ヲ偽造スルモ害ノ生シ得ヘキト無キニヨリ罪ト
ナラサルナリ然レモ爰ニ區別スヘキ者アリ要式契約タトヘハ贈與ハ
私署證書ヲ以テ證明スルヲ允サス必ス公正證書ヲ要ス而シテ贈與
ハ私署證書ニ證明ヲ允サルノミナラス契約其物モ亦無効ナリトス
而ルニ茲ニ法律ヲ知ラサル者カ贈與ヲ證明スルカ爲メニ私署證書ヲ
偽造シタリトセンニ此證書ハ無効ノ契約ヲ記録シタル者ナレハ損害
ノ生スヘキナク從ヒテ無罪タルト疑ナキカ如シト雖モ予ハ之ヲ以テ
文書偽造罪ヲ成立スヘキ損害アリト斷言ス蓋シ此證書ハ之ヲ裁判所
ニ訴フル時ハ固ヨリ無効ナリト雖モ若シ訴フルト無クシテ義務履行

ヲ爲シタル被害者アル時ハ損害ナシト謂フ可カラス蓋シ此場合ノ被
害者ハ多ク被偽造者ノ相續人又ハ承繼人ナリ相續人又ハ承繼人カ其
偽造證書ヲ真正ノ者ト誤認シテ義務ヲ履行スルハ固ヨリ損害ヲ生シ
タルモノナリ但シ方式ノ欠缺ノ爲メ無効ナル贈與ニ對シテ相續人又
ハ承繼人辨濟ヲ爲シタルハ自然義務ヲ盡シタルモノナリヤ或ハ新ニ
贈與ヲ爲シタル者ナリヤ是レ亦一箇ノ問題ナリト雖モ予ハ之ヲ自然
義務ヲ盡シタル者トイフ(自然義務トハ裁判所ニ於テ請求スルノ權利
ナキ者ヲ債務者カ任意ニテ且良心ニ委テ履行スル義務ヲ謂ヒ而シ
テ一旦債務者カ履行シタル時ハ之ヲ取戻スヲ得サル者ナリ民法財
産編第五百六十二條第五百六十五條夫レ既ニ被偽造者ノ相續人又ハ
承繼人ハ自然義務ノ履行ヲ爲スヘキ地位ヲ有スルヲ以テ此等ハ人ニ
對シテハ偽造文書其物カ元來性質上無効ナル者ニ非サレハ贈與ニ關

正當ニ義
務ノ履行
ヲ得ヘキ
場合ニキ
シテ偽造
ハ如何
ナル時

スル私署證書ヲ偽造スルモ亦損害ノ生シ得ヘキ者ナルニヨリ罪トナ
ルナリ又夫ノ銷除シ得ヘキ契約ニ關スル證書ヲ偽造スル時ノ如キハ
損害ヲ生シ得ル者ナリ例ヘハ未成年者ノ作爲シタル契約書ハ成年ノ
後之ヲ追認スル時ハ全ク有效ノ證書トナリ得ルニヨリ未成年者ノ證
書ノ偽造ハ罪トナルナリ

茲ニ損害ニ關シテ尙ホ一個ノ問題ヲ剩セリ曰ク正當ニ義務ノ履行ヲ
得ヘキ場合ニ證書ヲ偽造シテ其履行ヲ得タル時ハ如何例ヘハ甲者乙
者ニ或物件ヲ預ケタリシニ乙者復タ之ヲ丙者ニ預ケタリ甲者急ニ其
物件ヲ取還スノ必要ニ遭遇シ乙者ノ手書ヲ偽造シ丙者ヨリシテ其物
件ヲ詒キ取りタリ此場合ニハ固ヨリ實害ノ生シ得ヘキ者ニアラサレ
ハ罪トナラス但シ乙者其物件ヲ丙者ニ質入シタル時ハ同シク論スル
トテ得サルナリ。又甲乙ニ信用上無證書ニテ金圓ヲ貸與シ辨濟期限

ニ到達スレハ返濟セサルニヨリ一策ヲ案出シテ乙ノ證書ヲ偽造シ之
ヲ示シタルニヨリ終ニ辨濟ヲ得タリ此場合モ亦實害ノ生スルヲ無キ
所爲ナルヲ以テ文書偽造罪トハナラス蓋シ此等ノ場合ニハ實害コソ
無クハ返濟ヲ得ルノ方法トシテ證書ヲ偽造スルハ容シ可カラサルノ
所爲ナルカ如シト雖モ其證書ヲ偽造シタルハ辨濟ヲ得ル手段ニ過キ
ス自己ノ物件ヲ取戻スニ於テ何ソ罰ヲ受クルノ理アラシヤ猶ホ金圓
ヲ貸與シタル者ニ債務者カ義務ヲ履行セサルニヨリ暴行脅迫ヲ加ヘ
テ之ヲ取戻シタルカ如シ其暴行強迫ハ或ハ罰セラルハ有ルモ強盜
罪トシテ處罰セラルハ無カルヘシ然レモ此ニ注意スヘキハ前例ニ
於テ乙ノ甲ニ辨濟セサルハ正當ノ理由アルトキ即チ義務ノ辨濟相殺
免除若クハ現ニ其義務ニ關シテ訴訟ヲ提起シツハ有ル場合ナル時ハ
文書偽造罪トナル可シ要スルニ正當ノ理由ナクシテ返濟セサル債務

者ノ證書ヲ偽造シタリトテ文書偽造罪ノ原素タル損害ヲ生セサルニヨリ無罪ナリトス

以上文書偽造罪ノ構成ノ三原素ヲ講了セリ是レ一般ニ付キ文書偽造罪ノ性質ヲ解説シタルニ過キス而シテ我刑法ハ文書偽造罪ヲ規定スルヤ多ク偽造文書ノ行使ヲ必要條件トナシ其以上説明シタル條件ハミニテ單ニ罪トナルハ唯第二百二條ハ一罪アルハミ此等ノ事ハ各條下ニ就キテ詳解スヘシ以下本節即チ官ノ文書ヲ偽造スル罪ニ入り説明スヘシ

我刑法ハ文書ノ性質ニ從ヒテ文書偽造罪ヲ二節ニ區別シタリ蓋シ遠ク佛國刑法ノ規定ニ模倣シタルナリ文書ニ二種アリ曰ク官文書私文書是ナリ夫ノ免狀鑑札及ヒ疾病證書ノ如キハ文書中ニ包含セシメス依テ此等書類ノ偽造ハ所謂文書偽造罪トナラス然レモ是レ正當ノ區

官文書偽造罪
由シタル理由

別ニアラス何トナレハ免狀鑑札及ヒ疾病證書モ亦一ノ文書ニ外ナラサレハナリ

本節ハ官文書偽造罪ヲ規定シ文書偽造罪中最モ重ク之ヲ罰セリ何故ニ重ク之ヲ罰スルカ曰ク嚴罰シテ以テ官ノ威權ヲ維持擴張セントスルニ非ス又重罰シテ以テ人民ヲ恐縮畏怖セシメントスルニ非ス又其偽造ヨリ生スル害惡ノ重大ナルカ爲メニ出ツルニモ非ス害惡ノ大小ヲ以テ本罪ヲ定ムルモノトスレハ私文書偽造罪中其害惡ノ大ナル本罪ノ右ニ出ツルモノナキニ非ス故ニ害惡ノ重大ハ本罪ヲ重罰スル所以ノモノニ非サルナリ然ラハ則チ其重罰スル所以ノ者果シテ如何曰ク官文書其物ノ信用甚々大ナルヲ以テ重ク之ヲ罰シテ其安全強固ヲ保スルノ必要アルカ爲メナリ而シテ官文書ノ私文書ニ比シテ信用ノ厚ク且大ナルヲハ何人モ能ク知ル所ナリ

官ノ文書トハ如何ナル種類ノ書類ヲ曰フヤ其説明ハ之ヲ第三百三條ニ譲ル、爰ニ偽造罪トアルハ單ニ偽造シタル罪ノミニアラス増減變換ノ罪即チ變造罪又ハ毀棄罪ヲモ包含スルモノトス此等ハ各條下ニ至リ其詳細ヲ知ルヲ得ヘシ

第二百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

詔書ハ文書中最モ尊敬スヘク最モ貴重スヘキ者ナルヲ以テ特ニ一條ヲ設ケテ之ヲ罰スルコトセリ然リト雖モ熟ラ之ヲ考フルニ本條ノ罪ハ唯之ヲ犯ス者ノ稀有ナルノミナラス或ハ之ヲ犯スノ却テ無益ナルコト有ルヘシ惟フニ國事犯ヲ企ツル者ノ如キ或ハ詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ之ヲ利用スル者ナキヲ保スヘカラサレトモ通常私益上ニ關シ此種ノ罪ヲ犯スモ何等ノ益アルコト無シ然レモ我刑法ハ既ニ御璽國璽ノ偽造ヲ想像シタルニヨリ其結果トシテ本條ノ罪ヲ規定シタルナ

勅令又ハ詔勅ヲ記載セル官報ハ本條ノ罪トナル

官文書ト如何

ランカ予ハ本條ヲ分解シ詳細ナル説明ヲ與ヘント欲スレモ事多クハ皇室ニ關シ至尊ニ係リ從ヒテ尊嚴ヲ汚スノ恐アルニヨリ敢テセス諸君ハ第二百三條ノ解説ト對照シ以テ本條ノ下ニ起ル場合ト疑問トヲ判定セラレシコトヲ望ム唯一言シテ諸君ノ注意ヲ望ムモノアリ所謂詔書トハ勅令ノ如キ若クハ詔勅ヲ隱録セル官報ノ如キヲ指シタルニアラス故ニ此等ノ文書ヲ偽造スルモ本條ノ罪トナラサルナリ、又次條以下ノ文書偽造罪ニハ偽造シタル文書ノ行使ヲ必要トスレモ本條ハ唯偽造變造ノミヲ想像シテ行使ノコトヲ規定セラレス是レ本條ノ罪ノ重大ニシテ行使ヲ待ツヲ得サル必要アルニ由レハナリ

第二百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタルモノ亦同シ
官ノ文書トハ如何文辭簡ニ失スルヲ以テ之ヲ説明スルコト困難ナリト

雖モ予ノ思考スル所ニテハ此文辭中ニ二様ノ意義ノ含蓄スルヲ知ル
 曰ク第一項ノ官ノ文書トハ官署ヨリ發行スル文書ヲ謂ヒ第二項ノ官
 ノ文書トハ官署ノ所管ニ係ル文書ヲ謂フ此ク解シ去レハ諸多ノ疑問
 始メテ釋然タルニ至ル可シ例ヘハ大藏省ヨリ發行スル證券ノ類ヲ毀
 棄シタル所爲ハ第一項第二項何レノ罪トナルヤ其文書ハ已ニ大藏省
 ノ手ヲ離レテ一私人ノ握有スル所トナル者ナレハ官署ノ所管ニ係ル
 者ニアラス故ニ第二項ニ問フヘカラス左レハ逆之ヲ第一項ニ問フ
 ヲ得ス何トナレハ第一項ハ官ヨリ發行スル文書ヲ想像スルモ毀棄ヲ
 合マサレハナリ故ニ此所爲ハ他ノ罪トナルヤハ之ヲ問ハス本條ノ罪
 トハナラサルヘシ然レモ例ヲ換ヘテ之ヲ見シニ登記所ノ登記簿ノ如
 キ文書ヲ毀棄スレハ本條ノ罪トナル即チ是レ官署ノ所管ニ係ル文書
 ナルヲ以テナリ斯ノ如ク第一項第二項ノ文書ハ其性質ヲ異ニスルヲ

本條第一
 項ノ官ノ
 文書ノ種
 類

以テ其種類ヲ示シテ詳解スルノ必要アルヘシ以下本條ヲ二項ニ分チ
 テ解釋シ其文書ノ性質ヲ示シ并ニ數多ノ疑問ヲ決スヘシ

第一項 官ノ文書ヲ偽造シ云々

本項ニ所謂官ノ文書即チ官ヨリ發行スル所ノ文書トハ如何ナル種類
 ノモノナリヤ曰ク之ヲ四種ニ區別ス即チ左ノ如シ

- 一、立法權、行政權ヨリ發行スル文書、即チ法律勅令、閣令、省令、府縣令等
 ヲ記錄スル文書ノ如キ是ナリ
- 二、裁判上ノ文書、此文書中ニハ司法權ヨリ發行スル文書、其他裁判ニ
 關スル總テノ文書ヲ包含ス豫審判事ノ調書ノ如キモ亦此中ニ包含
 スト謂フヲ得ヘシ
- 三、行政事務上ヨリ發スル文書、タトヘハ大藏省ヨリ發行スル證券類
 ノ如キ是ナリ

四、官吏人民ノ爲メニ公證スル文書

本法ハ次條ニ公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ノ偽造ニ關シテ一條ヲ設ケタリ然レ其性質官署ヨリ發行スル文書ニ係ルヲ以テ右ノ類別中ニ包含セシメタリ
公證人ノ作リタル公正證書ハ官文書ナリヤ公證人ハ公正證書ヲ作ルノ任務アル公吏ニシテ純然タル官吏ニ非ス公證人ヲ官吏ニアラストセハ其作りタル文書ハ官文書ニ非スシテ私文書ナリト謂ハサル可カラサルカ此疑問ノ決定ハ次條ニ於テ辯ス可シ
官文書ノ類別ニ關シテハ尙ホ第二項ニ至リテ再ヒ見ルコト有ル可ケレハ以下本項ノ詳解ニ入ルヘシ唯コ、ニ一言スヘキハ此類別ハ文書ノ性質上ヨリ出テ若クハ草案ニ起因シタル者ニシテ一己ノ構造ニ係ルモノニ非ストイフコト是ナリ

第一項ノ如何

管轄外ノ官署ノ文書ノ有形的偽造ハ如何
管轄外ノ官署ノ文書ノ有形的偽造ハ如何
管轄外ノ官署ノ文書ノ有形的偽造ハ如何

本項ニ所謂偽造トハ如何曰ク官署ニ於テ發行シタルコト無キモノ即チ曾テ存在シタルコト無キ文書ヲ作爲シ義務者ニ非サル者ヲシテ義務者ノ地位ニ立タシムルカ如キ場合ニハ即チ文書ノ偽造アリトス然レハ偽造ト變造トハ固ヨリ之ヲ混スヘキニ非ス變造ハ已ニ存在スル文書ニツキ増減變更シタルモノナレハ偽造トハ全ク相異ルモノトス
本項ノ偽造ニモ亦有形無形ノ區別アリ有形的偽造トハ曾テ存在シタルコト無キ文書ヲ存在シタルカ如ク作爲シ且其作爲シタル物ハ有形上
官文書ハ資格ヲ有シ即チ眞實ナラハ必ス効力ヲ生スルニ足ルヘキヲ要ス是故ニ管轄外ノ官署ノ文書ヲ偽造スルモ有形ノ偽造アリト謂フヘカラス例ヘハ文部省ノ名義ヲ以テ裁判宣告書ヲ偽造シタルカ如キ
裁判宣告書ハ文部省ノ管轄スル所ニアラス即チ官文書ノ資格ナキヲ以テ其偽造ハ刑法ノ問フヘキモノニアラス然レハ官署ノ連絡シテ管

轉テ明カニシ難キ場合アリ例ハ農商務省ト内務省トハ所轄ノ事務
相連絡シテ判別シ易カラサル者アリ是ヲ以テ實際農商務省ヨリ發行
ス可キ文書ヲ内務省ノ名義ニテ發行スルモ有形的偽造アリト謂フテ
得ヘキ場合アリ但シ其連絡スルヤ否ヤ偽造トナルヤ否ハ事實上ノ問
題ナリトス

想像ノ官署ヨリ發行スル文書ヲ作爲シタル時ハ
所請偽造トナルヲ得ヘキヤ例ハ工部省ハ曾テ設ケラレタリシカ
今日ニテハ既ニ廢セラレタリ人アリ其省存在シタル時ノ日附ヲ以テ
其省發行ノ文書ヲ偽造シタル時ハ偽造罪ヲ成スニ足ルヘシト雖モ今
日ノ日附ニテ其官署發行ノ文書ヲ偽造シタル時ハ如何曰ク現存セザ
ル官署ハ文書ヲ發行シ得ヘキ理由ナク從ヒテ公正ノ効力ナク官文書
ハ資格ナシ故ニ此偽造ハ罪トナラサルナリ且前段ニ於テ一例ヲ示シ

タルカ如ク官署ハ現ニ存在スルモ管轄違ナルカ爲メニ偽造罪トナラ
ス況ヤ現ニ存在セサル官署ノ文書ヲ偽造スルニ於テ乎是ニ由リテ
之ヲ觀レハ想像ノ官署ヨリ發行スル文書ヲ偽造スルモ偽造罪トナラ
ス諸君後日私印私書偽造罪ノ處ニ至ラハ本問同一ノ問題ニ遭遇スヘ
シ諸君諸レテ注意セヨ

眞印ノ形ニ反シ
狀ニ官印
ナシタル官
文以テ官
造シタル
時ハ如何

文書ニ押捺シタル印章ハ文書ノ信憑ヲ保證スルニ最モ必要ナル者ナ
リ況ヤ官文書ニ於ケル印章ニ於テヤ茲ニ官文書ヲ偽造スルニ際シ
之ニ要スル眞正ノ印章ハモト四角ノモノナルニ故ラニ圓形ト爲シテ
押捺シタル時ハ官文書ノ偽造罪トナリ得ルヤ予ハ之ヲ偽造罪ト爲ス
ニ躊躇セザラントス尙ホ歩武ヲ進メ其印章ノ形狀ハ眞正ノ四角ヲ故
サラニ圓角ト爲シタルカ如キ差違アルノミナラス大小點畫文字等眞
物ニ類似セサル場合ト雖モ尙ホ偽造罪ニ問フテ得ヘシト曰ハント

無形的偽造
有形的偽造
區別方法

ス此疑問ニ關スル詳細ノ説明ハ今此ニ畀ケテ異日私文書偽造罪ニ
關シテ右同一ノ疑問ニ接スヘキヲ以テ彼處ニ至リテ詳解スヘシ唯予
ハ爰ニ其前置説明トシテ本問チ一言シタルニ過キサルナリ
是ヨリ無形的偽造ニ關シテ説明スヘシ
文書其物ハ眞實ノモノニシテ唯其含蓄スル意義ニ虛偽ハ事アル文書
ヲ作爲シタル時ハ所謂無形的偽造成立スルモノトス曾テ一言シタル
カ如ク有形的偽造ハ其眞否ヲ判スルニ當リ裁判所ハ鑑定人ヲシテ之
ヲ驗眞セシムルヲ得ヘシト雖モ無形的偽造ハ鑑定人ハ驗眞ヲ以テ
之ヲ證明スルヲ能ハサルモノナリ例ヘハ人アリ出產届ヲ市町村役場
ニ提出シタルヲ以テ市町村長ハ直チニ之ヲ戶籍簿ニ登錄シタルニ其
出產ノ事實ハ虛偽ニ屬シタリ是レ所謂無形的偽造ナリ何トナレハ此
戶籍簿ハ固ト登錄ス可キ資格アル者カ登錄シタル者ナレハ有形上ハ

本條ニ無
形的偽造
ヲ包含ス
ルカ

眞實ノ者ナレハ其事實ハ全ク虛偽ナレハ無形上ニ偽造アレハナリ
此ニ緊要ナル問題アリ本條即チ第二百三條中ニハ所謂無形的偽造ヲ
包含スルヤ否ヤ法文ヲ一讀シタルノミニテハ其包含シタル痕跡アル
ヲ見ス或ハ曰ク是レ立法者ノ遺忘シタル者ナリト然レモ予ハ本條中
ニ包含シタリト曰ハント欲ス夫レ本條ノ規定ハ實ニ漠然トシテ無形
的偽造ヲ包含シタルカ如ク見ヘスト雖モ第二百四條ニ於テハ或ハ包
含シタルナラント思ハル、痕跡アリ第二百五條ニ於テ官吏其管掌ニ
係ル文書ヲ偽造シタル場合ニハ疑ヒモ無ク無形的偽造ヲ包含スルヲ
見ル乃チ此レヨリ推釋スレハ第二百三條中ニモ無形的偽造ヲ包含セ
シメタルノ法意ナリトイフモ敢テ過言ニアラスト信ス夫レ此無形的
偽造ハ公私ノ害ヲ生スルヲ決シテ有形的偽造ニ劣ラサルノミナラス
却テ之ニ優ルモノ間之レ有リ立法者豈之ヲ遺忘セシヤ況ヤ立法者故

ラニ之ヲ抛棄シタリト看ルヘキ者アラサルニ於テヤ人或ハ曰ク無形的ノ偽造ノ場合ハ之ヲ詐欺取財ニ問フヲ得ヘク附會シテ之ヲ第二百三條ニ問擬スルヲ要セスト吁コレ思ハサルノ論ナリ蓋シ虛偽ノ事實ヲ吐露シテ無形的偽造ヲ成シ因テ以テ財物ヲ騙取スル場合ノ如キハ文書偽造罪ニ問ハスシテ之ヲ詐欺取財罪ニ擬スルヲ得サルニ非サル可シト雖モ無形的偽造ハ必スシモ財物騙取ノ所爲ノミニアラズ彼ノ出產届ニ關スル無形的偽造ハ其目的決シテ財ヲ得ルニ存セス故ニ論者ノ如ク速斷スルヲ得サルナリ人或ハ此場合ハ到底缺文ト謂ハサルヲ得ス乃チ律ニ正條ナキヲ以テ無罪ト爲スヘシト謂ハシカ此ノ如キ重大ノ罪ヲ罰セスシテ之ヲ不問ニ置クハ何人モ是認セサルノミナラス我立法者モ亦之ヲ不問ニ置クノ意ニ非サルヘシ今法理ニ訴ヘテ之ヲ論スルニ無形的偽造ヲ第三百三條ニ問フノ妥當ナルヲ

知ルヲ得ヘシ何トナレハ虛偽ノ陳述ヲ爲シテ人ヲシテ文書ヲ作ラシムルハ己レ自ラ偽造スルト敢テ異ル所ナク唯人ヲ換ヘテ偽造シタルニ過キサレハナリ。以上論スル所ニヨレハ我立法者カ第二百三條ヲ規定スルニ當リテ無形的偽造アルヲ想像シタルヲ明瞭ナルヲ知ルヲ得ヘシ然リト雖モ無形的偽造ヲ第二百三條中ニ包含スト論スルハ大ニ困難ナラサルニ非ス何トナレハ單ニ其行文上ヨリ之ヲ見ル時ハ明瞭ナリトイフヲ得サレハナリ故ニ現行法改正ノ特別ニ一個條ヲ設クテ之ヲ規定スルヲ最モ佳ナリト爲ス此ニ注意ス可キト有リ官文書偽造罪ニ於テ無形的偽造アリトイフニハ如何ナル事項ニ付キテ虛偽ノ陳述アルヲ必要トスルカ曰ク其事項カ證明ニ關スルモノナルヲ要スルナリ例ヘハ人アリ兒ヲ擧ク其出產ヲ届出ツルニ當リ生子ノ生年月ヲ偽リ或ハ男女ノ性ヲ詐ハリ若

クハ父母ノ名等ヲ伴ハリテ届出テタルカ如キハ無形の偽造ヲ爲ス何
 トナレハ出産届ナルモノハ實ニ生子ノ生年月男女ノ性及ヒ父母ノ名
 等ヲ證明スルニ必要ナル事項ニ屬スレハナリ之ニ反シテ出産届ニハ
 生子ノ生年月男女ノ性及ヒ父母ノ名等ヲ眞實ニ記載スルモ其母ヲ正
 妻ナリト偽ハリタリ即チ其生子ハ私生子ニシテ正妻トイヒシハ虚偽
 ナリトスレハ則チ無形の偽造ヲ爲サス何トナレハ出産届ハ生子ノ父
 母タル者ノ結婚ノ有無ヲ證明セシカ爲メニ爲スモノニアラサレハナ
 リ故ニ正妻ナリト偽ハルモ其父母ノ名ニシテ眞實ナレハ無形の偽造
 ヲ爲サ、ルナリ但シ以上ノ二例ハ共ニ其陳述ヲ記載スヘキ文書ニ其
 虚偽ノ事項ヲ記載セシメタルヲ想像スルモノナリ又以上ハ實ニ一
 ノ類例ヲ示シタルニ過キス而シテ事項ノ證明ニ關スルモノナリヤ否
 ヤハ文書ノ種類并ニ其用方ニヨリテ或ハ證明スヘキ事項タルヲ有リ

本項ノ増
減換ト
如何

變造ノ方
法

或ハ否ラサルヲ有リ要ハ事實ノ問題ニ屬ス
 本項ニ所謂増減換トハ如何曰ク眞實ハ文書ヲ増加若クハ減却スル
 所爲ニシテ所謂變造コレナリ例ヘハ十月二十日金二千圓ヲ某人ヨリ
 借用シタル證書アラシニ或ハ十月二十日ヲ五月廿一日ト改メ或ハ二
 千圓ヲ變シテ三千圓ト爲シ或ハ其證書ニ他ノ義務者ヲ書キ加ヘタル
 カ如キ孰レモ變造ノ所爲アリトナス又證書面ノ義務ハ條件附ナルニ
 之ヲ削除シテ單純ノ義務ト爲シタルカ如キモ亦變造アリトス、此變
 造ノ方法タル固ヨリ一ニシテ足ラス或ハ小刀ニテ文辭ヲ削リ取ルア
 リ或ハ墨モテ文辭ヲ塗抹スルアリ或ハ欄外ニ正誤スルカ如キ種々ナ
 ル方法アリト雖モ苟モ眞實ノ文書ヲ改ムルニ足ルモノハ總テ變造ノ
 方法トスルニ足ルヘシ
 然リト雖モ變造ノ方法又ハ其所爲ノ如何ニ拘ハラズ所謂官文書變造

罪ヲ成スニハ文書偽造罪ニ要スル三個ノ原素ナカル可カラズ
 第一眞實ノ變更。第二惡意。第三損害ヲ生シ又ハ生シ得キト此三
 原素ヲ具備セズハ變造罪ヲ成スコトヲ得サルナリ故ニ例ヘハ證書面
 ノ三千圓ヲ參千圓ト改ムルカ如キハ眞實ノ變更アルニ非サルナリ證
 書調製ノ時二月日ノ記入ヲ遺忘シタルニヨリ眞實ノ月日ヲ記入シタ
 ルカ如キハ惡意アルニアラサルナリ證書ノ文辭簡ニ失スルヲ慮リ無
 相違又ハ確實等ノ文辭ヲ記入シテ辨濟ヲ確ムルカ如キハ損害ヲ生シ
 又ハ生シ得ヘキ者ニ非サルナリ約言スレハ以上數多ノ場合ハ文書偽
 造罪成立ノ條件ヲ具備セサルニヨリ罪トナラサルナリ。此ニ一言ス
 ハキモノ有リ文書ノ變造罪ニ付キ其原素タル三條件ニ附隨シテ無數
 ノ疑問ヲ惹起スト雖モ曾テ偽造罪ニ付キ與ヘタル説明ト同一ナルヲ
 以テ今復タ茲ニ贅言セス唯變造罪ニハ偽造罪ハ如ク無形的ハ變造ア

行使トハ如何

如何ナル場合ニ於テ行使アリヤ

ルトナシ是レ其異ル所ナリトス
 本項ニハ行使ナル文辭アリ行使トハ如何曰ク偽造又ハ變造シタル文
 書ヲ以テ事ヲ爲スニ供シタルト即チ此等ノ文書ヲ以テ財物ヲ詐取ス
 ルカ或ハ義務ヲ免カルハカ或ハ人ノ榮譽ヲ害シタルカ如キ場合ニハ
 則チ行使アリトス。茲ニ我刑法第百九十四條以下官印偽造罪ノ下ニ
 ハ使用ナル文辭アリ又第二百八條私印偽造罪ノ下ニモ亦使用ナル文
 辭アリ而シテ本條ニ至リテハ行使ナル文辭ヲ用非タリ行使トイヒ使
 用ト云ヒ異義ノ文辭ナリヤ個ハ當サニ第二百八條ニ讓ルヘシ
 行使ニ關シ緊要ナル問題アリ如何ナル場合ニ行使ノ既遂アルヤ之ヲ
 詳言スレハ行使ノ既遂即チ官文書偽造ノ既遂犯ニハ犯者カ行使ノ目
 的ヲ達スルトテ必要トスル乎曰ク否犯者カ偽造ノ官文書ヲ行使シタ
 ルハ目的ハ人ノ榮譽ヲ害スルニ在ルト人ノ財産ヲ奪ハントスルニ在

行使ハ目的ノ達成ヲ要セス

三十四
ルト、其他如何ナル目的ニ在ルト、テ問ハス之ヲ達スルヲ要セス行使ノ事實アレハ、則チ其既遂アリタルナリ、即チ官文書偽造ノ既遂犯トナルナリ、例ヘハ惡漢アリ文書ヲ偽造シ財物ヲ得ント欲シ之ヲ證據トシテ法衙ニ訴ヘ出テタリシカ審理ノ未終ニ證據不充分ノ爲メニ敗訴セリ此場合ニハ惡漢其目的ヲ達シタルニ非スト、雖モ行使ノ事實ハ則チコレ有ルナリ又例ヘハ偽造ノ文書ヲ用井テ訴訟ヲ爲シタルニ訴訟中ニ偽造ノ所爲發覺シタリ此場合モ亦其目的ヲ達シタルニ非サレ、行使ノ事實ハ則チ存スルナリ夫レ行使スル事ト行使ノ目的ヲ達スル事トハ固ヨリ別個ノ問題ニシテ其達セントスル目的ノ成否ハ行使ノ既遂ニ關係スルト無シ、即チ行使ノ既遂ニハ犯者カ或目的ヲ達セントシテ使用シタルヤ否ヲ觀察シ果シテ使用シタル時ハ目的ヲ達スルトナキモ行使茲ニ成立ス之ヲ例スルニ財物ヲ奪ハント欲シテ人ヲ殺シタ

行使ノ如何ナル場合ナリヤ

ルレハ目的トスル所ノ財物奪取ヲ達スルト能ハスト、雖モ殺人罪ノ成立スルカ如シ之ト同シク財物ヲ得ント欲シテ偽造ノ文書ヲ行用シ其財物ヲ得ルト能ハスト、雖モ文書偽造ノ罪ハ成立スルナリ、今行使ナル文辭ニ付キテ觀察スルモ行使トハ即チ事ニ用井ルトニシテ或目的ヲ達スル豫備ノ行爲ヲ指シタル文辭ナリトス、然ラハ則チ其目的ヲ達スル事ハ行使ノ結果ナリト謂ハサル可カラス、是ニ由テ之ヲ觀レハ行使ノ既遂即チ官文書偽造ノ既遂犯ニハ行使ノ目的ヲ達スルト否トハ之ヲ問フテ要セサルナリ、但シ予カ所謂行使ノ事實アレハ行使ノ既遂アリトイフトハ固ヨリ事實ノ問題ニ屬スルモノナルコトハ諸君ノ既ニ了スル所ナリト信ス、故ニ偽造文書ヲ以テ訴訟ヲ起シ手續不備ノ爲メ却下セラレタル時例ヘハ裁判所ノ受付係ニ於テ貼用印紙ノ不足ナルカ爲メニ訴狀ノ却下セラレタル場合ノ如キハ行使シタルニハ相違ナ

偽造行使
合立スル場

シト雖モ稱シテ行使ノ既遂アリト謂フテ得サル可シ即チ是レ行使ナ
ル所爲ニ着手シテ未タ遂ケサル者ニシテ未遂犯ナリトス蓋シ行使ノ
既遂未遂ヲ區別スルヨリ其利益實ニ重大ニシテ唯刑ニ輕重ノ差アルノ
ミナラス官文書偽造罪ノ輕罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰スルト無シ何ノ之ヲ
輕視スルヲ得ンヤ
文書偽造ノ行使ノ所爲カ適切ニ事實ニ符合セサルト有リ即チ事ヲ陳
述ス可キ責アル者當該吏ノ面前ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ文書ノ無形
的偽造ヲ成スモ其文書ヲ用非テ事ヲ證明スルカ如キコトヲ爲サ、ル場
合ニハ偽造文書ノ行使ヲキカ如シ然レモ予テ以テ之ヲ觀ルニ此ハ如
キ場合ニハ行使ハ文書ハ偽造ト共ニ成立スルモノナリ惟フニ當該吏
カ人民ノ陳述ニヨリテ作レル文書ハ多ク之ヲ備置キテ公衆ノ閱覽ニ
供スルモノナレハ其文書ハ人民何時之ヲ閱覽スルヤモ計ラレス故ニ

本條以下
偽造行使
要件ニ爲
ス理由

其記載ニシテ虛偽アレハ人民ハ何時其害ヲ受クルヤモ計ラレサルモ
ノナリ因テ無形的偽造セラレタル文書ヲ備置クハ危害ヲ生スヘキ地
位ニ文書ヲ置キタルモノナリ之ヲ換言スレハ文書ノ無形的偽造アレ
ハ其偽造ト共ニ危害ヲ生スヘキ地位ニ文書ヲ行使シタルモノナリ故
ニ曰ク文書ノ無形的偽造ノ場合ニハ行使ノ事實ナキカ如キモ其實偽
造ニシテ成立スレハ行使モ亦同時ニ成立スルモノトス
爰ニ深ク留意セサルヘカラサル一事アリ即チ本條ノ罪ハ文書ノ偽造
又ハ變造アルノミニテハ未タ以テ成立セスシテ行使ナル一條件アリ
テ始メテ成立スルモノナルト是ナリ夫ノ官印偽造罪又ハ詔書偽造罪
ハ行使ヲ必要條件ト爲サス偽造又ハ變造アレハ則チ犯罪成立ス而シ
テ本條ノ偽造罪ノミ特ニ行使ヲ必要條件トナスハ何故ナリヤ本條ノ
罪ハ假令行使ナキモ偽造又ハ變造アレハ之ヲ罰スルコトヲ得サルニ非

然レモ我立法者ハ以爲ク官文書詔書ヲ除クハ偽造又ハ變造ハミニ
 行使ナキ時ハ未タ以テ之ヲ罰スル程ノ危険ナシト且官文書ノ偽造
 又ハ變造ヲシテ他ニ對シテ信用ヲ置カシムルニハ官印ノ盗用若クハ
 偽造ハ實ニ必要ナル手段ニシテ若シ之ヲ無クシハ殆ト官文書ノ資格
 ナ有セサルモノナリ是ヲ以テ偽造ノ官文書ヲ行使セサル時ハ常ニ官
 印盗用若クハ偽造ノ罪ヲ以テ論セラルルハ故ニ實際上ニ於テモ官文
 書ハ偽造又ハ變造ハミヲ罰スルノ必要ナシ假令官文書ノ偽造又ハ變
 造ノミノ所爲カ多少ノ危険ヲ生スルコト有リトスルモ既ニ官印ノ盗用
 又ハ偽造ノ點ニ於テ之ヲ罰スルカ故ニ重テ之ヲ罰スルノ必要アル
 ナ見サルナリ是レ本條ノ罪ハ必ス行使アリテ後ニ之ヲ罰スルコト爲
 シタル所以ナリ。行使ハ唯本條ノ犯罪構成ノ必要條件ハミナラス本
 條以下ハ官文書又ハ私文書偽造罪ノ構成ノ必要條件トナル者ナリ故

本條以下
 ノ文書偽
 造罪ノ構
 成條件

ニ本條行使ニ關スル説明ハ本條以下ノ犯罪ニ關シテモ亦適用ス可キ
 者ナルコト知ル可シ
 本條以下ノ文書偽造罪ハ其成立ノ一條件トシテ行使ヲ必要ナリトス
 ルハ彼ノ一般ノ文書偽造罪成立ノ條件トシテ掲ケタルモノヲ以テ
 直チニ本條以下ニ適用スルヲ得ス一般ノ文書偽造罪成立ノ條件ニ三
 箇アリ即チ第一眞實ノ變更アルコト第二惡意アルコト第三損害ヲ生シ又
 ハ生シ得ヘキモノナルコトハ既ニ見タル所ナリ此第一第三ノ條件ニハ
 何等ノ變更ヲ生セスト雖モ第二ノ條件ニ對シテ變更ナキ能ハサルナ
 リ抑文書ノ偽造又ハ變造ハミヲ罰スル場合第二百二條ニ於テ惡意ハ
 犯罪成立ノ條件中其基本トナリタル者ナレモ本條以下ノ文書偽造罪
 ニ於テハ行使ナル一條件ハ實ニ惡意ナル一條件ニ代ハル者トス然レ
 モ本條以下ノ文書偽造罪ハ惡意ナキモ行使アレハ則チ罪ヲ成ストイ

フニ非ス法律ハ行使アレハ則チ惡意アル者ト推定シタルモノナリ是故ニ本條以下ノ文書偽造罪ノ成立ニハ左ノ三條件ヲ具備スルヲ要ス

第一 眞實ノ變更アルヲ要ス

第二 行使スルヲ要ス

第三 損害ヲ生シ又ハ生シ得ヘキヲ要ス

本條以下ノ文書偽造罪ノ成立ノ條件ニ關シ上ノ如キ變更ヲ生シタルニヨリ此レヨリシテ下ノ結果ヲ生ス即チ文書ノ偽造又ハ變造ノミヲ罰スル場合ニハ裁判所ハ一般ノ文書偽造罪ニ要スル三個ノ條件即チ眞實ノ變更惡意及ヒ損害ヲ證明セザレハ理由不備ノ裁判トシテ大審院ノ破毀スル所トナル之ニ反シテ本條以下ノ文書偽造罪ハ眞實ノ變更損害及ヒ行使トテ證明シ別ニ惡意ヲ證明スルヲ要セス之ヲ證明セザレハトテ大審院ノ破毀ヲ受クルコトナシ何トナレハ惡意ハ常ニ行使

本項ノ官署ノ如何ナルモノナリ

ニ隨伴スルモノナレハナリ

第二項 其官ノ文書ヲ毀棄シタル者云々

本項ニ所謂官ノ文書トハ已ニ一言シタルカ如ク官署ノ保管ニ屬スル文書ニシテ其發行ニ係ル文書ニ非サルナリ即チ第一項ノ下ニ於テ示シタル四種ノ官文書ノ原本其他總テ官吏ノ手ニ成リテ官署ニ保存スヘキ文書ヲ謂フ故ニ大藏省ヨリ發行シタル證券ヲ毀棄スルモ本項ノ罪トナラサルナリ蓋シ此等ノ證券カ毀棄者ニ屬スル者ナルモ自己ノ權利ヲ消滅スルノミニシテ他人ニ對シテ何等ノ損害ヲ生スルコト無ク若シ其證券カ他人ノ所有ニ屬スル者ナル時ハ他人ノ權利ヲ侵害シタルノ實アリト雖モ個ハ第四百二十四條人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタルノ罪ニ問ヒ得ヘキモ本項ノ罪トナラサルナリ之ニ反シテ登記役所ノ登記簿ヲ毀棄シタル時ノ如キハ其登記簿ハ官署

官文書ノ
毀棄ヲ罰
スル理由
ニ其範圍
ニ由ル

毀棄罪ト
比照ノ
理由ト

ニ保存スヘキ者ナレハ本項ノ罪トナルナリ
本項ニ於テ官文書ノ毀棄ヲ罰スルノ理由ソレ何クニ在ルヤ官ノ保管
スル文書ノ毀棄ニ係ルハ如何ナル場合ニテモ本項ノ罪トナルヤ此
問題タル第三編第四百十七條以下ニ規定スル物件毀壞ノ罪ト相關係
シテ最モ緊要ナル者ナリトス請フ本項ト物件毀壞罪トヲ比照論究シ
テ以テ本項ノ毀棄罪ヲ罰スルノ理由并ニ本項ノ範圍ヲ知ラシメント
ス、諸君ハ未タ第三編ヲ講究セサルニヨリ物件毀壞罪ノ何物タルト
テ知ラスト雖モ此罪ノ中ニハ人ノ證書類ヲ毀棄スル所爲等ヲ包含シ
大ニ本項ノ場合ト類似スルモノ有リ、然レモ此二罪ノ間大ニ規定ノ
精神ヲ異ニセリ蓋シ物件毀壞ノ罪ヲ罰スルハ惡意ヲ以テ人ノ所有權
ヲ侵害スルヲ目的トスト雖モ本項ノ毀棄罪ハ決シテ所有權侵害ノ點
ヲ目的トスルニ非ス本項ハ官文書偽造罪ト共ニ規定セラレタル所ハ

官文書毀
棄罪ト
物件毀
壞罪ト
ノ差
異

(第二百三條) 第二編 第四章 第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

モハニシテ一種ノ官文書變造罪ナリ之ヲ換言スレハ則チ本項ハ官文
書ヲ變造スルト同一ノ害ヲ生セシムルヲ目的トシテ毀棄シタル者ヲ
罰スルハ條文ナリ其犯罪ノ結果ニ於テ或ハ人ノ所有權ヲ侵害スル
有リト雖モ犯罪ノ目的ハ此ニ在リテ彼ニ存セサルナリ、今本項ノ文書
ハ官ニ保存スル所ノモノナルカ故ニ之ヲ變換シ之ヲ増減スルハ實ニ
至難ノ事ニ屬ス然レモ之ヲ寸裂シ若クハ燒失スルカ如キ方法ニテ毀
棄スルハ其事甚タ易シ其事甚タ易クシテ而シテ變造ト同一ノ害ヲ生
セシムルヲ得ルヲ以テ人動モスレハ輒チ此罪ヲ犯ス是レ本項ノ罪
ハ官文書變造ノ罪ト等シク罰スル所以ナリ。本項ノ毀棄罪ヲ罰スル
ノ法意ソレ此ノ如シ決シテ所有權侵害ヲ以テ目的トスルニ非ス故ニ
官文書毀棄罪ト物件毀壞罪トノ間ニハ下ノ如キ差違アルヲ見ル物件
毀壞ノ罪ハ所有權侵害ヲ以テ目的トスルカ故ニ家屋牛馬竹木證書等

尙モ所有權ノ目的物トナリ得ヘキ物件ハ皆之ヲ包含ス然レモ官文書
 毀棄罪ハ所有權侵害ヲ目的トセサルカ故ニ此ハ如ク諸種ノ物品ヲ含
 蓄セスシテ只官ノ文書ノミヲ包含ス物件毀壞罪ハ所有權侵害ヲ目的
 トスルカ故ニ財産ニ關スルハ罪ナリ又私罪ナリ官文書毀棄罪ハ官文
 書ノ變造ト同一ノ害ヲ生セシムルヲ目的トスルカ故ニ公ハ信用ニ關
 スル罪ナリ又公罪ナリ此ノ如キ差違ヲ生スルハ二罪ヲ罰スルノ法意
 相異ルヲ以テナリ。余ハ尙ホ此二罪ノ法意ヲ明瞭ナラシメンカ爲メ
 ニ一例ヲ示サノ例ヘハ登記役所ニ備ヘ置ク登記簿中ノ記入ニ關係ヲ
 有スル者カ登記簿ヲ變換シテ利益ヲ得ント欲スレモ之ヲ爲スト甚々
 難シ依テ之ヲ毀棄シタリ此所爲タル疑モ無ク本項ノ罪即チ官文書毀
 棄罪ニ問フヲ得ヘシ之ニ反シテ或人登記官吏ノ不親切ヲ憤リテ役所
 ニ入り直チニ其保管ニ係ル登記簿ヲ毀棄シタル時ハ之ヲ本項ノ罪ニ

問擬スヘキカ如シト雖モ是レ只當該官吏ノ所爲ヲ憤リ之ヲ因却セシ
 メンカ爲メニ毀棄シタルニ過キス依テ惡意ヲ以テ官ノ所有權ヲ害ス
 ルノ目的アリト言ヒ得ルモ文書ノ變造ト同一ノ害ヲ生セシムルヲ
 目的トシタル者ニアラサレハ之ヲ第四百廿四條ニ問ヒ得ルモ本項ニ
 擬スルヲ得サルナリ。之ヲ要スルニ官文書毀棄罪ハ一層進ミタル
 方法ヲ以テ官文書ヲ變造シタルモノナレハ其所罰ノ精神モ亦官文書
 ノ變造罪ト同一ニシテ決シテ第四百十七條以下ノ物件毀壞罪ノ如ク
 所有權侵害ノ點ヲ以テ處罰ノ理由トナサ、ルナリ。又本項ニモ第四
 百十七條以下ニモ同シク毀棄ノ文辭アリ故ニ或ハ其法意ヲ同ラス
 ルニアラザルカト云フ疑問ヲ存スレモ文辭ノ同一ハ未タ以テ法意ノ
 同一ヲ期ス可カラサルナリ

以上解説スル所ニヨレハ官文書毀棄ノ罪ヲ罰スルハ官文書ノ變造ヲ

罰スルト其理由ヲ同一ニスルヲ以テ其犯罪成立ノ點ニ於テモ亦其原
案ヲ同一ニセスンハアル可カラサルナリ即チ

第一、眞實ノ變更アルヲ要ス、

第二、惡意アルヲ要ス、

第三、損害ヲ生シ又ハ生シ得ヘキヲ要ス、

此三條件ヲ具備スルニ非サレハ文書毀棄ノ事實アルモ或ハ他罪ヲ成
スヲアラフ官文書毀棄罪ハ成立セサルナリ之ヲ例スルニ曾テ掲ケタ
ル裁判所ノ召喚狀ヲ受取り原告人ノ亡狀ヲ憤リテ之ヲ寸裂シタル行
爲ノ如キハ毀棄ノ事實ハ存スト雖モ之カ爲メニ眞實ノ變更アリトス
ルヲ得ルカ又變造罪ト同一ノ害惡ヲ生セシムヘキ目的ニ出テタル惡
意アリヤ又之カ爲メニ何等ノ損害ヲ生シ若クハ何等ノ損害ヲ生シ得
ルヤ或ハ其毀棄ハ多少官憲ヲ蔑如スルノ跡アリト雖モ之カ爲メニ官

文書毀棄ノ罪ニ問擬シ之ニ輕懲役ヲ科シテ重罰スルノ必要アラフヤ

第二百四條 公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増

減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス
若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ二等ヲ加フ

本條ニ公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書トアルヲ觀ンハ公債
證書又ハ地券ハ官吏ノ公證シタル文書ニ屬スルカ如シト雖モ是レ固
ヨリ官吏ノ公證シタル者ニアラサルナリ乃チ本條ニハ二様ハ官文書
ヲ包含スルヲ見ル曰ク公債證書及ヒ地券曰ク官吏ノ公證シタル文書
是ナリ地券ハ既ニ廢セラレタリ官吏ノ公證シタル文書モ亦現時適當
ノ例ナシ舊時ニ在リテハ戶長ノ與書割印シタル抵當設定證書ノ如キ
者ヲ稱セシト雖モ今ヤ此種ノ抵當設定證書ナシ唯公證人ハ公證シタ
ル公正證書ハ或ハ其中ニ包含スルカ如シ然レモ公證人ハ公證ト謂フ
ヘク官吏ト稱スヘカラス公吏ノ公證シタル者ヲ以テ直チニ官吏ノ公

證シタル者ト爲スハ彌縫ノ解釋ト曰ハサルヲ得ス且本法制定ノ當時ハ公證人ノ制度ナシ即チ立法者ノ本條ヲ制定スルニ當リテ公證人ヲ想像スルヲナシ是故ニ別ニ法律ヲ以テ公證人ヲ官吏ト見做サ、ル以上ハ其公證シタル文書ヲ以テ官文書ト爲シ本條ヲ適用スルヲ得サルナリ但シ公證人ハ司法大臣之ヲ任スルヲ一般ノ官吏ト同一ナルノ故ヲ以テ又ハ其公證シタル文書ノ効力他ノ官文書ト大差ナキノ故ヲ以テ公證人ヲ官吏トシ其公證シタル者ヲ官文書ト論スル者モ亦之ナキニ非サレトモ牽強附會ノ説ト謂ハサルヲ得ス然ラハ公證人ノ公證シタル文書ヲ偽造シタル者ハ之ヲ私文書偽造罪ニ問フヘキカ曰ク單ニ本條ノミニシテ特別ノ法律ナキ以上ハ然リト答ヘサル可カラス然リト雖モ之ヲ私文書偽造罪ニ問擬スルハ實際其刑輕キニ失シ權衡其平ヲ失ス我立法者深ク此ニ慮ル所アリ明治廿三年十月八日法律第百號

ヲ以テ刑法中……………官吏ニ關スル條項ハ公吏ニ適用シ官ノ印文書……………ニ關スル條項ハ公署ノ印文書……………ニ適用ス下規定セラレタルニヨリ此法律施行以後ハ公證人ノ公證シタル文書ハ官吏ノ公證シタル文書ト同一視スルヲトナシ(第百三條ノ下ニ於テ公證人ノ公證シタル文書ヲ偽造シタル者ハ官文書偽造罪ニ擬スルヲ得ルヤトイフ疑問ヲ掲ケテ未タ其決定ヲ與ヘサリシカ是ニ至リテ其疑問全ク氷解シタルナラン)
無記名ノ公債證書トハ如何ナルモノナルヤ曰ク例スルニ中山道鐵道公債證書海軍公債證書ノ如キ是ナリ此等ノ證書ヲ偽造又ハ變造スレバ記名ノ公債證書ノ偽造又ハ變造ノ罪ヲ罰スル刑ニ二等ヲ加フルトシタルハ何故ナリヤ曰ク無記名ノ證書ハ記名ノ證書ニ比スレハ容易ニ其偽造又ハ變造ヲ發見スルヲ得スシテ危險ノ度一層重大ナル

ニ由ルナリ

爰ニ一言ス可キ者アリ、本條ノ文書ハ總テ官ヨリ發行スル所ノモノナ
 リ前條第一項ノ文書モ亦官ヨリ發行スル所ノモノナラサルハナシ均
 ク官ヨリ發行スル文書ナレハ則チ別ニ本條ヲ設クルノ必要ナク前條
 第一項ニテ充分ナルカ如シ而シテ特ニ本條ヲ規定シタルハ重複ノ嫌
 アルニ非スヤ、此疑問タル一理ナキニ非スト雖モ仔細ニ講究スレハ本
 條ノ規定アルハ以テ我立法者ノ注意ノ周到ナルヲ知ルニ足ル其理由
 如何蓋シ本條ノ文書ハ前條ノ文書ト同シク官ヨリ發行スル者ナリト
 雖モ此文書ハ結局人民ノ私有ニ屬ス可キモノナレハ若シ本條ハ規定
 ナクハ公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ハ偽造チ私文書ニ
 問フカ或ハ不問ニ置クハ危險ヲ生ス殊ニ無記名ノ公債證書チ重ク罰
 スルカ如キハ本條ヲ待ツニ非サルハ則チ能ハス是レ本條ヲ規定シタ

ル所以ナリ

第二百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シ
 タル者ハ前二條ノ例ニ照シ一等チ加フ
 其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

本條ハ官吏カ自己ノ管掌スル官文書ヲ偽造變造又ハ毀棄シタル罪チ
 規定ス

官吏其管
 掌ニ係ル
 文書トハ
 如何ニ解
 スルカ

「官吏其管掌ニ係ル文書」トハ如何官吏カ職務上保存スル文書チイフカ
 或ハ官吏カ職務上調製スヘキ文書ヲ謂フカ曰ク本條ニ所謂管掌ノ文
 辭ソレ自身ヨリ論スレハ官吏カ職務上保存スル文書チ指示シタルカ
 如シト雖モ敢テ然ルニ非スシテ官吏カ職務上調製スヘキ文書ヲ想像
 シタル者ナリ、現ニ草案ニハ官吏職務上ニ於テ官私ニ關スル事件ヲ記
 載スルニ當リ「云々」ト有リテ一見疑ヲ存セス而シテ現行法ノ之ヲ改メ
 單ニ管掌ニ係ル文書ト爲シタルハ其意ヲ變シタルニ非サルナキヤノ

疑ナキニ非サレハ文辭ノ變更ヲ以テ未タ容易ニ其精神ヲ變更シタリト斷スヘカラス現行法ハ唯草案ノ文辭ヲ節略シタルニ過キサルナリ況ヤ草案ノ精神ヲ變更スヘキノ必要アルヲ見サルニ於テヤ故ニ予ハ管掌ニ係ル文書トハ官吏ノ職務上調製スヘキ文書ト解釋シテ毫絲モ疑ヲ存セサルナリ或ハ此管掌ノ中ニ保存ナル文辭ヲモ包含セシメテ解釋スヘシト曰フ者アラシカ是レ強テ説ヲ爲スモノ、ミ百歩ヲ讓リ其説ノ如ク解釋セハ本條規定ノ區域廣漠ニ失シ本條ヲ設ケテ特ニ前二條ノ罪ノ刑ニ一等ヲ加ヘテ之ヲ罰スルノ精神ヲ貫徹スルヲ能ハサルニ至ルヘシ然ラハ官吏其保存ノ責アル文書ヲ偽造スルハ之ヲ何條ニ擬スヘキヤ曰ク前諸條ヲ適用シ通常ハ官文書偽造罪トシテ之ヲ罰シ本條ヲ適用スヘキモノニ非サルナリ

本條ヲ熟讀スルニ本條ハ無形の偽造有形の偽造ハ二ツノ場合ヲ包含

ス例ヘハ登記官吏當事者ノ陳述シタル事實ト全ク反對シタル事實ヲ簿冊ニ記入シタルカ如キハ文書其物ハ正當ノ官吏法式ヲ履行シテ記載シタルモノナルヲ以テ有形上眞實ノ文書ニシテ鑑定人ニ依リテ其偽造ヲ驗眞スルヲ得ス是レ無形の偽造ナレハナリ此場合ハ即チ本條ノ官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シトイフ一段ニ該當ス而シテ此一段ニハ唯無形の偽造ノミヲ想像シテ有形的偽造ヲ包含セス何トナレハ官吏記載スヘキ職務アル文書ニ付キテ偽造スルニヨリ其偽造セラレタル文書ハ有形上常ニ眞實タルヲ失ハサレハナリ之ニ反シテ本條ノ又ハ増減變換シテナル一段中ニハ無形有形共ニ之ヲ包含スルヲ見ル例ヲ擧クテ之ヲ言ヘハ登記官吏カ其管掌スル既成ノ登記簿ヲ増減變換シタル時ハ變造即チ有形的偽造ヲ爲シタルナリ之ニ反シテ登記官吏當事者ノ陳述シタル條件タトヘハ年月日姓名場所等ヲ増減變換

シテ記入シタル時ハ無形の偽造ヲ爲シタルナリ之ヲ要スルニ本條第一項ノ前段ハ單ニ無形の偽造ヲ想像シ後段ハ無形の有形的偽造ヲ併セテ想像シタルモノトス

官吏其管掌ニ係ル文書ヲ毀棄シタル時ハ其偽造變造ト同一ニ處斷スルヲ第二百三條ニ於テ詳解シタルカ如シ今復コ、ニ贅セス

本條ノ罪ハ前二條ノ罪ハ刑ニ一等ヲ加ヘ以テ重ク之ヲ罰スルハ何故ナリヤ曰ク官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造スルハ犯シ易ク防キ難キヲ

以テ危險實ニ重大ナリ加之正實ニ職務ヲ行フヘキ官吏ニシテ偽造ヲ爲スハ道德ニ背戾スルヲモ亦重大ナリ是レ其刑ヲ重クスル所以ナリ

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盗用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

官文書ヲ偽造スル者ハ或ハ多クハ官印ヲ偽造シ或ハ既ニ偽造セル官印ヲ押捺シ或ハ不正ノ所爲ヲ以テ真正ノ官印ヲ押捺ス此場合ニハ官

文書偽造罪ノ外ニ官印偽造罪ヲ成ステ以テ數罪俱發例ニヨリ一ノ重キニ從ヒテ處斷スルナリ本條ハ別ニ之ヲ規定セサルモ固ヨリ總則ニ因リテ一ノ重キニ從フヘキモノナレハ蛇足タルヲ免レス蓋シ立法者ハ注意ノ爲メニ記載シタルニ過キサルナリ

第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監禁ニ付ス

本條ハ別ニ説明セス

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

本節ハ私印及ヒ私文書ノ偽造罪ヲ規定ス勿論此中ニハ變造ノ罪ヲ包含ス然レモ毀棄ノ罪ハ之ヲ包含スルヲ無シ個ハ之ヲ第四百十七條以下ニ讓リタルナリ

私印私書偽造罪ヲ犯スハ目的如何曰ク其目的種々アリト雖モ其重ナル者ハ一人ノ財産權ヲ害スルニ在リ故ニ此罪ヲ犯スモ公益ニ關ス

私印私書
偽造罪
爲
由
シ
タル
理

ル害ヲ來スト甚タ少シ或ハ此罪ハ他人ノ名譽ヲ害スルヲ以テ目的ト
 スルト有リト雖モ亦一私人ノ名譽權ヲ害スルニ過キスシテ公益ニ關
 スルト甚タ少シ而シテ我刑法ハ貨幣偽造罪、官文書偽造罪等ト共ニ之
 ヲ信用ヲ害スル罪トナシテ公益ニ關スル罪ノ中ニ包含セシメタリ其
 理由何レニ存スルヤ請フ以下論述スル所ヲ聽ク
 夫レ私印又ハ私書ナルモノハ一私人ノ權利義務ヲ證明スルハ具タル
 ナリ以テ其偽造ヨリ生スル結果ハ直接ニ一私人ヲ害スルハ固ヨリナレ
 且文書ノ種類ニヨリテハ其害一私人ニ止マラスシテ直接ニ公益ヲ害
 スルト有リ夫ノ爲替手形、約束手形又ハ株式會社ノ株券ノ如キ信用證
 券ヲ偽造スル時ハ其害決シテ一私人ニ止マラス此等ノ證書ハ重ニ裏
 書ヲ以テ流通スル所ノモノナレハ其經濟社會ニ轉輾流通スルト貨幣
 ト擇フトナシ乃チ若シ偽造ノ手形又ハ株券等カ流通スルトハ其公益

私印偽造
罪ノ構成

ヲ害スルト實ニ大ナリ我立法者茲ニ見ルアリ此等信用上ノ證券ハ勿
 論其他總テノ私書若クハ私印ノ偽造罪ヲ一括シテ之ヲ公益ニ關スル
 罪ノ中ニ編入シテ公罪トスルニ至レリ我立法者ハ私文書偽造罪ヲ
 公罪トス故ニ左ノ結果ヲ生ス即チ親屬間ニ於テ單ニ財物ヲ詐取スル
 時ハ宥恕全免ニヨリテ詐欺取財罪ノ本刑ヲ免セラル、モ若シ財物詐
 取ノ手段トシテ私文書ヲ偽造スル時ハ私文書偽造罪ハ特ニ之ヲ論セ
 ラルヘシ何トナレハ詐欺取財罪ハ私罪ニシテ宥恕全免ノ特例アリト
 雖モ私文書偽造罪ハ公罪ニシテ公罪ニハ宥恕全免ノ特例ナケレハナ
 リ

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下
 ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 若シ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ハ一等ヲ減ス

本條ハ私印偽造罪ニ關スル規定ナリ此罪ヲ構成スルニハ如何ナル條

件ヲ要スルカ曰ク文書偽造罪構成ノ條件ト同一ナリ即チ

第一、印章ノ眞實ノ變更アルヲ要ス

第二、偽造ノ私印ヲ使用スルヲ要ス

第三、損害ヲ生シ又ハ生シ得ヘキヲ要ス

是ナリ但シ此罪ヲ成スニハ惡意アルトヲ要スルハ勿論ナリト雖モ使
用ヲ證明スレハ惡意其中ニ包含スルヲ以テ之ヲ示サス是モ亦文書偽
造罪ノ行使ヲ要スルモノト同一ナリトス

此罪ヲ成スニハ實印ニ限ルニアラス苟モ權利義務ノ發生若クハ消滅
ヲ證明スルノ用ヲ爲ス印章ナルトハ悉ク本條ヲ以テ罰セラル故ニ商
店用ノ印章即チしきり版ト稱スルモノ又ハ認印ノ如キ所謂私印ノ中
ニ包含セラルナリ
本條ノ罪ハ夫ノ官印偽造罪ト其趣ヲ異ニシ單ニ偽造ノミニテハ罪ト

ナラス必ス使用アルヲ要ス使用ノ本罪成立ノ一條件ナルトハ既ニ
前段ニ於テ一言シタル所ナリ、使用トハ如何文書偽造罪ニ於テハ一
般ニ行使ヲウ文辭ヲ用非タルニ拘ハラズ本條ノ罪ヲ規定スルニ當リ
其文辭ヲ變シテ使用ト爲シタルハ何故ナリヤ使用トイヒ行使トイヒ
文辭其物ヨリ解スルハ則チ均ク事ニ用非ルコトニシテ使用ハ即チ行使
行使ハ即チ使用ナリ因テ二中ノ一ヲ用非タランニハ疑惑ヲ惹起スノ
煩チ省キ編纂ノ體裁甚タ妥當ナルニ庶幾シ實ニ然リ二個ノ文辭其意
義ヲ同フシタルニモ拘ラス立法者カ彼此相異ル所ノ文辭ヲ用非タル
ハ不都合ト謂ハサル可カラサルナリ故ニ本條ノ罪ハ偽造又ハ盜取ハ
印章ヲ押捺シタルノミニテハ未タ以テ罪トナラス之ヲ事ニ供スルニ
ヨリテ始メテ罪トナルモノトス
爰ニ一疑問アリ曰ク紙面ニ印影ヲ摸寫シタル場合ハ本條ニ包含スル

(第二百八條) 第二編 第四章 第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

ヲ擬スル
カ

ヤ否ヤ例へハ甲某乙某ノ印ヲ證書ニ用非ント欲シ其印願ヲ偽造スル
トナク又盗用スルトナク唯巧ニ其印影ヲ描寫シ殆ト眞印ヲ押捺シタ
ル者ノ如クナシテ使用シタル時ハ本條ノ偽造罪成立スルヤ曰ク本條
ヲ熟讀スルニ立法者ハ唯印願其物ヲ想像シ此等印影ニ關シテハ恐ク
ハ其眼中ニ存在セサルカ如シ然リト雖モ此等ノ所爲タル其方法コソ
印願其物ヲ偽造スルト異レ均ク私印ノ偽造タルニ相違ナクハ之ヲ
本條ノ罪ト爲スモ敢テ不可ナルト無ル可シ
本條第二項ハ印章ノ盗用ノトナク規定セリ此ニ於テモ亦其使用ハ前項
ト同一ニ解釋スヘシ

爰ニ緊要ナル二個ノ難問アリ

第一、眞物ニ類似セサル印章ヲ偽造シタル時ハ印章偽造罪ヲ成ス
カ

眞物ニ類
似セサル
印章ヲ偽
造シタル
罪トナル
カ

第二、想像ハ人ハ印章ヲ偽造シタル時ハ印章偽造罪ヲ成スカ

此疑問タル之ヲ學者ノ所論ニ質シ斷例ニ徴スルニ多クハ予ト其見テ
異ニス予安ソ縷々ノ辯ヲ費サ、ルヲ得ンヤ

第一問、眞物ニ類似セサル印章ヲ偽造シタル時ハ印章偽造罪ヲ成ス
カ

眞物ニ類似セサル印章ヲ偽造シタル時ハ第二百八條ノ罪ヲ成スカ之
ヲ換言スレハ私印偽造罪ノ成立ニハ偽印カ眞物ニ類似スルト必要
トスルカ例へハ予圓形ノ實印ヲ所有セリ猶見アリ予カ印章ヲ利用シ
テ不義ノ利ヲ得ント計リ之ヲ偽造シタルト特ニ其形ヲ方ニス此所爲
タル之ヲ第二百八條ニ問擬スヘキヤ曰ク予ノ見ル所信スル所ニヨレ
ハ此所爲ハ之ヲ第二百八條ニ問ヒ私印偽造罪ト爲ストテ得ヘシ請フ
左ニ反覆之ヲ辯明セシ

予曾テ云ヘリ私印偽造罪ハ文書偽造罪ト性質ヲ同フシ其犯罪ヲ構成
 スルニハ彼ノ三箇ノ條件ヲ要スト是レ何人モ疑テ容レサル所ナリ而
 シテ此條件中本問ヲ決スルニ必要ナルハ所謂眞實ノ變更アルトテ要
 ストイフ條件即チ是ナリ彼ノ圓形ノ印章ヲ偽造シテ方形ト爲スハ果
 シテ眞實ノ變更ニアラサルカ其偽造ノ印章ハ眞物ニ比シテ形狀ヨソ
 異レ眞實ノ變更ト謂ハスシテ何ソヤ今圓形ノ印章ヲ偽造シテ同シク
 圓形ノモノト爲スモ其眞物ニ對シテハ既ニ全ク變更アリタルナリ唯
 圓形ヲ方形ト爲スニ至リテハ其變更ノ點著シキニ過クルノ嫌ナキニ
 アラサレトモ亦是レ眞物ノ變更ニ外ナラサルナリ況ヤ之ヲ使用シテ以
 テ權利義務ヲ證明シタルニ於テハ其眞物ニ類似スルト否トテ區別ス
 ルノ必要アラサルニ於テヤ人或ハ曰ハハ眞物ニ類似セサル印章
 タトヘハ眞實圓形ノモノヲ偽造シテ方形ト爲シタル印章ヲ使用シテ

事ヲ證明スルヲ得タルハ偏ニ敵手ノ過失ニ出テタルモノハナリ蓋シ私
 印ナルモノハ通常其印鑑ヲ公廨ニ届出ツルモノナルヲ以テ人民ハ何
 時ニテモ之ヲ點檢スルトテ得契約締結ノ際宜ク之ヲ點檢シテ以テ其
 眞贋ヲ判別セサルヘカラス私印ノ性質ソレ此ノ如クナルニモ拘ハラ
 ス其點檢ヲ怠リ眞贋ノ區別ヲ爲サルニヨリ全然眞物ニ類似セサル
 偽印ヲ使用シテ事ヲ證明スルトテ得セシメタルナリ之ヲ私印偽造罪
 ニ問フハ妥當ナラスト是レ實ニ迷誤ノ甚シキ者ニシテ問題ノ範圍外
 ニ馳セテ論辯スルモノニアラスシテ何ソヤ夫レ本問ノ決セント欲ス
 ル所ハ印章偽造罪ヲ成スヤ否ヤニ在リテ被害者ニ過失アリヤ否ヤニ
 アラス蓋シ何レノ犯罪ト雖モ被害者ニハ多少ノ過失アルヲ常トス換
 言スレハ被害者ノ過失ハ犯罪構成ニ隨伴スル者ナリ而シテ被害者ノ
 過失ハ加害者ノ犯罪ノ成立ヲ妨クルノ効カアルモノニアラス彼ノ遺

失物拾得ノ罪ノ如キ遺失者ハ實ニ我物件ヲ遺失シタルノ過失アルコト
 ハ何人モ疑テ容レサル所ナリ然レモ其過失アリタルカ爲メニ拾得者
 カ罪ヲシト論スルコトヲ得サルヘシ之ト同シク印章偽造罪ニ於テモ被
 害者カ印鑑點檢ノ過失アリタリトテ加害者ノ印章偽造罪ヲ成立セシ
 メサルノ理アラシキ且被害者ニ過失アルカ故ニ印章偽造ニハ眞物ノ
 類似ヲ必要トスト論スルコトヲ得ス若シ此ク論スルコトヲ得ルトセハ予
 ハ其奇怪ニ驚カサルヲ得サルナリ且夫論者ニ一步ヲ譲リ被害者ニ
 過失アルカ故ニ眞物ニ類似スルヲ要ストイフモ被害者ハ如何程ノ過
 失アリヤ届出ヲ爲シタル印鑑點檢セサルノ過失アリト曰ハシカ印
 鑑ナルモノハ届出ツルコトヲ要セス之ヲ届出テサレハトテ制裁アルニ
 アラス故ニ若シ印鑑ノ届出ナキモ被害者固ヨリ之ヲ點檢スルコトヲ
 得ス此場合ニハ被害者ハ毫モ印鑑點檢ヲ怠リタル過失無キニ非スヤ

眞實ノ
 物ニハ
 類ハ
 ナリ
 要ス
 ナリ
 似
 ナス

故ニ被害者ニ多少印章ヲ點檢セサルノ過失アリトスルモ之カ爲メニ
 加害者ノ所爲即チ印章ノ偽造ニ眞物ノ類似ヲ要スト謂フヘカヲサル
 テ知ルヘシ之ヲ要スルニ印章偽造罪成立ノ條件タル眞實變更ニハ
 偽造ノ印章ノ眞物ニ類似スルコトヲ必要トセス苟モ人ノ使用スヘキ印
 章ト爲シ得ヘキ者ナラハ其形狀ノ大小異同ヲ論セス文字ハ多寡種類
 ハ如何ニ拘ハラス之ヲ眞實ノ變更ト謂フコトヲ得ヘシ故ニ其形狀甚々
 奇異ニシテ何人ヨリ之ヲ觀ルモ印章ト爲ストヲ得サルカ如キ者ハ縱
 令權利義務ノ證明ニ使用スルモ印章偽造罪ヲ成サハルナリ此論結々
 ル實ニ法理ニ照シ實際ニ徴シテ誤謬ナキ所ナリ我立法者ノ法理
 ニ反キ實際ニ戻リテ本問ヲ決定シタルノ徵憑分明ナラサル限ハ予ノ
 說ノ如クナルヘキハ信シテ疑ハサルナリ然レモ印章偽造罪成立ノ
 條件タル眞實ノ變更ニハ偽造ノ印章ノ眞物ニ類似スルコトヲ必要トス

トイフ議論ハ予ノ最モ尊敬スル法學者中ニモ執持シテ疑ハサル者アリト聞ク今其理由トスル所ヲ尋ズレハ則チ曰ク第百八條ニハ他人ノ私印ヲ偽造シタル者云々トアリ抑他人ノ私印トハ他人カ現ニ使用スル所ノモノナラサル可カラズ故ニ其偽造トイフニハ他人即チ被偽造者カ認メテ我印章ト爲シ得ヘキモノ換言スレハ眞物ニ類似スル者ナラサル可カラズト此説タル一見スレハ大ニ法文ト適合シタル所アリテ解シ得テ巧ナルカ如シト雖モ畢竟論據ヲ文辭ノ間ヨリ發見シタルニアラスシテ先ツ論據ヲ定メ然ル後強ヒテ文辭ニ解説ヲ附シタル者ニシテ牽強附會ヲ免カレサルナリ論據ヲ文辭ノ間ヨリ發見シタルモノハ固ヨリ言フニ足ラス先ツ論據ヲ定メテ後文辭ヲ解スルハ善良ナラサルニアラサレモ根本タル論據ニ誤謬アレハ則チ其枝葉タル文辭ノ解釋モ亦誤謬ナキヲ得ス惟フニ此説タル先ツ其心裡ニ於テ印

章偽造罪ニハ眞物ノ類似ヲ必要トストノ決定ヲ下シ然ル後法文ニ就キテ之カ説明ヲ爲シタル者ナレハ此ノ如ク解シ去リテ大ニ其正鵠ヲ得タリト爲シテ怪マサルモ亦宜ナリ今假リニ予ノ云ヘル論據ヲ其心裡ニ置キテ法文ヲ解スルモ亦我第百八條ノ文辭ニテ毫モ不可ナル所アルヲ見サルナリ是故ニ論者ノ説ク所ハ我第百八條ニ於ケル文辭上ノ解釋トシテモ亦價值アル者ニ非ス然レモ論者モ亦徹底眞物ノ類似ヲ必要トスト爲サス乃チ曰ク眞實ニ類似スルヤ否ヤハ裁判官ノ認定ニ任スベク彼ノ字畫ノ不足ナルカ如キ眞物ニ類似セスト雖モ苟モ人ヲ欺罔スルニ足ル可キモノハ之ヲ印章偽造罪ト爲ストテ得ヘシト眞ニ然リ予ハ猶ホ之ニ數歩ヲ進メテ論スル者ニテ論者ノ想像シタル場合ハ勿論其形狀カ非常ニ眞物ニ相違スルモ信實ノ變更アリト爲シ之ヲ第百八條ニ問擬スルコトヲ難カラサルナリ今爰ニ數十歩ヲ

譲リテ論者ハ説ニ從ヒ印章偽造罪ヲ成スニハ其偽印ハ眞物ニ類似スルヲ要ストスルモ實ニ奇怪ナル結果ヲ生スルヲ奈何セシ夫レ私印ハ何人モ必ス之ヲ所持スル者ニアラス或ハ終生私印ヲ所持セスシテ已ムモノ無キニアラス是故ニ被害者ニシテ私印ヲ所持スル者ナラハ偽造ノ印章カ眞物ニ類似スルトイフ想像ヲ起ストヲ得ヘシト雖モ若シ其私印ヲ所持セサルモノナル時タトヘハ予曾テ私印ヲ所持セス而シテ予カ名ヲ利用セントスル者一箇ノ印章ヲ製作シ之ヲ予ノ印ト稱シテ證書ヲ偽造シタル場合ニハ如何ニシテ眞物ニ類似スルヲ得ヘキヤ此ノ如キ者ハ之ヲ印章偽造罪ニ問ハスト曰ハントスルカ實際社會ニ立チテ事ニ從フ者ハ私印ヲ所持セサル者殆ト稀ナリ然レモ其所持セル私印ハ偶々天災若クハ盜難ニ逢ヒテ紛失シ或ハ途上ニ遺失スルカ如キト往々ニシテ之レ有リ若シ此際ニ乘シテ其印章ヲ偽造シタル

時ハ實際眞實ノ印章ナキニヨリ之ヲ印章偽造罪ニ問ハサルカ若シ然リトイハ、實ニ其奇ニ驚カサルヲ得ス且通常私印ヲ所持スルハ一家ノ戸主又ハ社會的事業ニ關係ヲ有スル者ニ限り未成年者ノ如キハ之ヲ所持セサルヲ常トス婦人モ亦多クハ之ヲ所持セス今其未成年者又ハ婦人ノ印章ト稱シテ偽造スル場合ノ如キモ眞物ノ類似ナキカ故ニ私印偽造罪ニ問ハスト論スルカ若シ然リトセハ甚ク不可ナリト謂ハサルヘカラス顧フニ未成年者婦人ハ無能力ナレハ無能力者ノ印章ト稱シテ偽造スル者無キカ如シト雖モ人事ノ錯雜ナル必スシモ之レ無シト斷言スルヲ得サルノミナラス此ノ如キ場合ハ必ス發生スルヲ免レサルナリ而シテ此所爲テ印章偽造罪ニ問ハスト謂フハ實ニ不當ト爲ス惟フニ論者モ亦之ヲ印章偽造罪ニ問フノ至當ナルヲ知ルト雖モ眞物類似ノ點ナキヲ以テ終ニ印章偽造罪ニ問フヲ得スト論定セ

サルヲ得サルノ結果ヲ生スルナリ若シ論者ノ説ニ從ヒ之ヲ印章偽造
 罪ニ問フテ得スト爲サンカ甚シキ不都合ヲ生スルヲ見ル即チ印章
 ヲ所持セサル者ノ印章ト稱シ新ニ偽造シ之ヲ證書ニ押捺シテ行使シ
 タル者ヲ以テ罪トナスト論スレハ證書偽造ノ點モ亦之ヲ問ハサル
 ノ結果ヲ生ス其故如何トイフニ凡ソ印章ノ押捺ナキ私證書ハ之法
 術ニ提出スルモ債務者ノ自白ニヨリ其證書ヲ認メタルカ如キ場合ニ
 アラザレハ其効ヲ生セサルヲ常トス是故ニ未成年者又ハ婦人ノ印章
 ト稱シテ偽造シ若クハ圓形ノ印章ヲ方形ニ偽造シ之ヲ偽造證書ニ押
 捺スルモ其印章カ真物ノ類似ナキカ故ニ印章ノ偽造トナラストスレ
 ハ其證書ハ無印章ノモノト同シクシテ證書自體ハ効力ナキモノトナ
 ルヘク隨ヒテ文書偽造ノ點ヲ問フテ得サルコト有ルニ至ル可キヲ以
 テナリ

上ノ問題
 對スル
 見解

其他猶ホ本問ニ對シ有力ナル反對論ヲ維持スルモノ有リト聞ク而シ
 テ此反對論タル我邦法律家ノ淵藪ト聞エタル某處ノ意見ナリト聞ク
 固ヨリ其眞否ヲ知ラザレト兎ニ角有力ナル駁論ナレハ以下之ヲ掲ケ
 テ以テ諸君ノ參考ニ資セント欲ス
 論者曰ク私印偽造ヲ罰スルハ猶ホ貨幣又ハ印紙ハ偽造ヲ罰スルカコ
 トシ而シテ貨幣偽造罪又ハ印紙偽造罪ニハ真物ノ類似ヲ以テ必要條
 件ハ一ト爲ス是ヲ以テ私印偽造罪ニモ亦真物ノ類似ヲ必要ト爲サ
 ル可カラスト説キ得テ妙ナリ然レモ其誤謬ナルコトハ前論者ト軒輊ア
 ルコトナシ蓋シ彼是犯罪ノ事實ノ間ニ大ナル區別アルコトヲ知ラサルニ
 坐スルノミ夫レ貨幣又ハ印紙ニハ皆一定ノ法アリ其形狀摸樣若クハ
 分量等悉ク同一ナリ故ニ一定ノ法ニ反スル者ヲ偽造スルモ貨幣又ハ
 印紙ノ偽造罪ニアラス貨幣ニ就キテ之ヲ曰ハシ貨幣トハ一定ノ形ヲ

具スル金銀塊ノ定名ナリ一定ノ形ヲ具セサル金銀塊ハ之ヲ貨幣ト謂フヲ得ス隨ヒテ其定形ニ類似セサル者ヲ偽造スルモ之ヲ貨幣偽造罪ト爲スヲ得ス印章ニ至リテハ則チ其物ノ官タリ私タルヲ問ハス定形ヲ具有スルモノニ非ス形狀ニ一定ノ法アルモノニアラス各人ノ隨意ニ種々ノ形狀ヲ具スルモノヲ作ルヲ得ヘシ是ヲ以テ一般ニ印章ト名ク得ヘキ形狀ヲ具有スル者ヲ偽造スレハ則チ印章偽造罪ト爲ル泰西諸國ノ印章ニ關スル事例ヲ案スルニ彼國ニテモ官署公署又ハ會社商舖等ニテハ印章ヲ用ユルト雖モ一般ノ人ハ印章ヲ所持セスシテ「シキヤチニール」譯シテ署名トイフヲ用フ「シキヤチニール」ハ固ヨリ印章ノ如ク一定ノ形狀ヲ具フルモノニアラスシテ人々ノ記載ニヨリテ大ナルアリ小ナルアリ或ハ書牒ヲ變シテ署名スルヲ有リ故ニ「シキヤチニール」ノ偽造ナリヤ否ヤテ驗眞セント欲セハ形狀ノ大小字牒ノ異同等ヲ標準ト

スルニアラスシテ其被偽造者ノ手署ニ係ルヤ否ヤヲ觀察シテ以テ眞贋ヲ判別ストイフ我國ノ印章ハ固ヨリ「シキヤチニール」其物トハ異ナリト雖モ其形狀ノ異同ヲ以テ換言スレハ眞物ニ類似スルヤ否ヤヲ以テ其偽造ナリヤ否ヤヲ判別スルニ非サルトハ彼是同一ナリト謂ハサル可カラズ例ヘハ予從來方形ノ印章ヲ所持シタリシニ其磨滅シタルニヨリ之ヲ改造シテ圓形ノ印章ヲ作レリ予カ方形ノ印章ヲ改メテ圓形ノ印章ト爲シタルハ固ヨリ予ノ隨意ニシテ何人モ之ヲ咎ムルヲ得ス更ニ一步ヲ進メテ予ハ毎月一顆ツ、異別ノ印章ヲ改造スルモ亦是レ予ノ隨意ナリトス之ヲ要スルニ印章ノ形狀ニハ一定ノ法則ナク所持人ノ隨意ニ變換スルヲ得ヘキモノナリ換言スレハ印章ハ貨幣又ハ印紙ノ如ク一定ノ形狀ヲ具有スル者ニ與ヘタル定名ニアラサルナリ故ニ其偽造ヲ罰スルニハ眞物ニ類似スルヲ必要トスルヲ貨幣偽造

罪又ハ印紙偽造罪ノ如クナラサルナリ
 論者曰ク印章ニハ定形ナシト雖モ届出ノ法アリ其届出ハ猶ホ貨幣又
 ハ印紙ノ公布ノ如ク因リテ以テ第四者ニ對シテ其形狀ヲ告知スル者
 ナリ第三者ハ因リテ以テ其形狀ヲ知ルトテ得ヘキ者ナリ故ニ其届出
 ナル所爲ハ印章ニ定形ヲ有セシムルトイフモ過言ニアラス是ニ由リ
 テ之ヲ觀レハ眞物ノ類似ヲ必要トスト曰フモ亦理アルニアラスヤト
 嗚呼是レ予ノ反覆痛論シタル所ナリ論者ハ如何ナル點ヨリシテ公布
 ト届出トテ同一視シタルカ貨幣又ハ印紙ハ公布セザレハ即チ其効ナ
 シ之ニ反シテ印章ハ届出ツルトテ要セス或ハ公務ノ爲メ或ハ社交ノ
 爲メ又或ハ警察ノ取締ノ爲メ私印ノ届出ヲ必要トスルト有リト雖モ
 然レモ届出テサル可カラサルノ義務アルトナシ故ニ其届出ヲ爲サス
 ト雖モ印章トシテ効力有リ隨ヒテ届出ナキ印章ヲ偽造スルモ印章偽

造罪ヲ成ス例ヘハ予一ノ印章ヲ造リ未タ届出ノ手續ヲ履行セサル前
 ニ之ヲ押捺シテ以テ一箇ノ證書ヲ作りタリトセシ此證書ハ印章ノ届
 出ヲ爲サハルニヨリ之ヲ無効トスヘキカ證書ハ之ニ押捺セル印章ノ
 届出テタルモノナルト否トニヨリ其効力ノ有無ヲ判別スル者ニアラ
 スニ步ヲ譲リ印章ハ届出ヲ必要トスト爲スモ實印ナレハ通常之ヲ届
 出ツルト雖モ店舗用ノ仕切版ノ如キハ何レノ商店モ之ヲ届出ツルヲ
 聞カス而シテ仕切版ノ偽造ハ則チ印章偽造罪ニアラスト曰フトテ得
 ス若シ之ヲ印章偽造罪ニアラスト論セントスルカ如何ナル理由ヲ附
 ス可キ乎予ノ不敏ナル之ヲ發見スルトテ得サルナリ

以上説キ去リ説キ來レハ反對論者ノ根據トスル所ハ一モ成立セサル
 テ見ル是ニ於テ下ノ如ク論結スルハ妥當ナルヲ知ル曰ク眞實ニ類似
 セサル印章ヲ偽造シテ之ヲ使用シタル者ハ第二百八條ニ依リテ處斷

セラルヘシト、第二百三條第一項ノ解参照)
 第二問 想像ノ人ノ印章ヲ偽造シタル時ハ印章偽造罪トナルカ
 現存セサル人物ヲ想像シ其印章ヲ偽造シタル時ハ第二百八條ノ罪ニ
 問擬スルコトヲ得ルカ例ヘハ人アリ爲替手形若クハ約束手形ノ信用ヲ
 博セント欲シ存在セサル數多ノ裏書人ノ名ヲ記入シ并ニ其印章ヲ偽
 造シテ之ニ押捺シテ使用シタル時ハ印章偽造罪ヲ成スヘキヤ否ヤ或
 ハ曰ク第二百八條ニハ明ニ他人ノ私印ヲ偽造シ云々トアリ其他人ト
 ハ實在ノ人ヲ想像シタルモノニシテ本問ノ如キ想像ノ人即チ現ニ存
 在セサル人ハ此語中ニ包含セラレズ故ニ本問ハ之ヲ印章偽造罪ト爲
 スコトヲ得サルナリト是レ實ニ價值ナキ文辭論タルニ過キスシテ法理
 ナ知ルモノ、肯テ言ハサル所ナリ蓋シ法文ニ所謂他人トハ自己ニア
 ラサル人ト解スヘク法律ハ唯其意ヲ表ハサンカ爲メニ此文辭ヲ用非

タルニ過キス斯ク云ヘハ予モ亦文辭論ニ陥リ或人ト同一轍ヲ蹈ムノ
 嫌ナキニ非サレトモ予ノ文辭論ハ法理ニ據リ實際ニ適シタルモノニシ
 テ或人ノ如キ根據ナキ論ニ非サルナリ凡ソ實在ノ人モ想像ノ人モ所
 謂人ニハ相違ナシ苟モ其人ヲ文書ニ署名シ因テ以テ他ヲ害スルニ足
 レハ則チ安ソ復タ其實在ト想像トヲ區別スルハ必要アラハヤ強イ
 テ之ヲ區別シテ以テ法理ニ戻リ實際ニ睽クハ愚ト謂ハサル可カラサ
 ルナリ是故ニ假令想像人ノ印章ヲ偽造スルモ彼ノ三箇ノ元素ヲ具備
 スルホハ以テ印章偽造罪ト成スト論結シテ毫モ躊躇セサルナリ尙ホ
 第二百九條十條ノ下ニ於テ此種ノ疑問ヲ詳解スヘシ
 本問ハ第一問ト同種ノ問題ニ屬スルヲ以テ彼ノ印章偽造罪ヲ成スニ
 ハ其印章カ眞物ニ類似スルコトヲ要ストスル論者ハ前問ト同一ノ反對
 論ヲ提出シテ以テ予カ論結ヲ駁撃スルナルヘシト雖モ予ハ之ニ對シ

テ前問ノ議論ヲ反覆スルコトヲ爲サス請フ諸君前問ニ就キテ深ク考究スル所アレ

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其他手形證書ニ詐僞ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

第二百十條 賣買貸借贈與交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四回以上四十回以下ノ罰金ヲ附加ス

其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二回以上二十回以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百九條ニ賣買ス可キ證書云々トアリ賣買ノ文辭妥當ナラス蓋シ賣買トハ所有權移轉ノ一方法ニシテ所有權移轉ノ方法ニハ賣買ノ外數箇ノ方法アリ是ヲ以テ賣買ノ文辭ハ之ヲ移轉ト解スルヲ以テ適當ト爲ス、本條及ヒ第二百十條ハ共ニ私文書偽造罪ヲ規定シタルモノ

ニシテ之ヲ併セ解スルヲ以テ適當ノ順序ト思惟ス

此兩條ノ規定スル所ハ等ク私文書ナレモ第二百十條ニハ一般ノ私文書ヲ規定シ第二百九條ニハ特別ノ私文書ヲ規定シタリ之ヲ詳言スルハ第二百九條ハ流通證券ハミテ想像シ第二百十條ハ流通證券ヲ除キ其以外ハ私書ハ民事ト商事トヲ問ハス總テ之ヲ包含シタルモノナリ蓋シ流通證券ヲトヘハ爲替手形約束手形等ハ貨幣ノ代用ヲ爲シテ泛ク經濟社會ニ流通スル所ノ私文書ニシテ彼ノ賣買貸借贈與等ニ關スル通常ノ私文書ニ比スレハ社會ニ於ケル信用ノ大ナルコトハ固ヨリ同日ノ論ニアラス隨ヒテ此等手形ノ偽造カ及ホス所ノ危害ノ大ナルコトモ亦固ヨリ同日ノ論ニアラス是レ立法者ノ此兩條ヲ設テ以テ刑ニ輕重ノ別ヲ置キタル所以ナリ

此兩條ハ犯罪ヲ構成スルニモ亦彼ノ三箇ノ條件ヲ具備スルコトヲ要シ

私文書之偽造無形之偽造
否ヤルヤ
之ハ之ハ
之ハ之ハ

其、一、テ、缺、ク、ハ、則、チ、私、文、書、偽、造、罪、ハ、成、立、セ、ザ、ル、ト、ハ、固、ヨ、リ、言、テ、待、タ、サ、
ル、所、ナ、リ、然、リ、而、シ、テ、第、二、百、十、條、第、二、項、ノ、如、キ、ハ、漠、然、其、餘、ノ、私、書、ト、規、
定、シ、其、範、圍、宏、博、ニ、シ、テ、諸、種、ノ、私、書、ヲ、包、含、ス、ル、ヲ、以、テ、其、偽、造、證、書、カ、果、
シ、テ、三、箇、ノ、條、件、ヲ、具、備、ス、ル、ヤ、否、ヤ、ヲ、觀、察、ス、ル、ニ、付、キ、最、モ、注、意、ヲ、加、ヘ、
サ、ル、可、カ、ラ、ス、否、ラ、サ、レ、ハ、則、チ、奇、ナ、ル、結、果、ヲ、惹、起、ス、ル、ヲ、免、レ、サ、ル、ヘ、シ、
此、兩、條、ヲ、詳、解、ス、ル、ハ、予、ノ、欲、ス、ル、所、ナ、リ、ト、雖、モ、既、ニ、前、節、官、文、書、偽、造、ノ、
條、下、ニ、於、テ、詳、解、シ、タ、ル、ニ、ヨ、リ、彼、此、類、推、ス、レ、ハ、復、タ、コ、ハ、ニ、詳、解、ノ、勞、ヲ、
取、ル、ノ、必、要、ナ、キ、ヲ、知、ル、故、ニ、予、ハ、特、ニ、此、兩、條、ノ、下、ニ、於、テ、起、ル、ヘ、キ、モ、ノ、
並、ニ、官、文、書、偽、造、ノ、條、下、ニ、於、テ、解、說、ヲ、此、ニ、送、リ、タ、ル、モ、ノ、ミ、ニ、付、キ、說、
述、ス、ヘ、シ、
私、文、書、ニ、ハ、無、形、的、偽、造、ア、リ、ヤ、若、シ、無、形、的、偽、造、ア、リ、ト、ス、レ、ハ、其、偽、造、ハ、
之、ヲ、罰、ス、ル、ト、テ、得、ル、ヤ、否、ヤ、曰、ク、私、文、書、ニ、モ、亦、無、形、的、ハ、偽、造、有、リ、例、ヘ、

ハ、爰、ニ、一、商、人、ア、リ、他、ニ、對、シ、テ、多、ク、債、權、ヲ、有、ス、ル、ト、テ、誘、示、セ、ン、カ、爲、メ、
ニ、多、ク、債、務、者、ニ、ア、ラ、ザ、ル、人、ヲ、自、己、ノ、貸、付、帳、ニ、記、入、シ、タ、リ、ト、セ、ン、是、レ、
自、己、ノ、名、義、ヲ、以、テ、自、己、ノ、記、載、シ、タ、ル、文、書、ナ、ル、カ、故、ニ、彼、ノ、官、吏、カ、職、務、
上、作、ル、ヘ、キ、文、書、ヲ、偽、造、ス、ル、ト、同、シ、ク、之、ヲ、無、形、的、偽、造、ト、謂、ハ、サ、ル、ヘ、カ、
ラ、ス、凡、ソ、此、等、無、形、的、偽、造、ノ、所、爲、ハ、家、資、分、散、又、ハ、破、産、ノ、際、往、々、現、出、ス、
ル、所、ノ、モ、ノ、ナ、リ、而、シ、テ、此、等、ノ、所、爲、ハ、一、見、ス、レ、ハ、所、謂、三、箇、ノ、條、件、ヲ、具、
備、シ、直、チ、ニ、有、罪、ト、斷、言、ス、ル、ト、テ、得、ヘ、キ、カ、如、シ、ト、雖、モ、未、タ、然、ラ、ザ、ル、ナ、
リ、蓋、シ、文、書、偽、造、罪、ニ、要、ス、ル、條、件、ノ、一、ナル、信、實、ノ、變、更、ハ、證、明、ス、ヘ、キ、文、
書、ニ、就、キ、テ、爲、サ、レ、タ、ル、ト、テ、要、ス、是、レ、曾、テ、一、言、シ、タ、ル、所、今、前、例、ニ、付、キ、
仔、細、ニ、考、究、ス、レ、ハ、商、人、ノ、意、ハ、其、文、書、ヲ、以、テ、自、己、ニ、債、權、ノ、多、キ、ト、テ、示、
ス、爲、メ、ニ、偽、造、シ、タ、ル、モ、ノ、ニ、シ、テ、其、文、書、ヲ、法、術、ニ、提、供、シ、因、テ、文、書、面、ノ、
債、務、者、ニ、對、シ、テ、債、權、ノ、存、立、ヲ、證、明、セ、ン、カ、爲、メ、ニ、信、實、ノ、變、更、ヲ、爲、シ、タ、